佐久市埋蔵文化財調査報告書　第149集

小山崎遺跡群

反田遺跡

長野県佐久市下小田切反田遺跡発掘調査報告書

2008.3

社会福祉法人　里仁会
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第149集

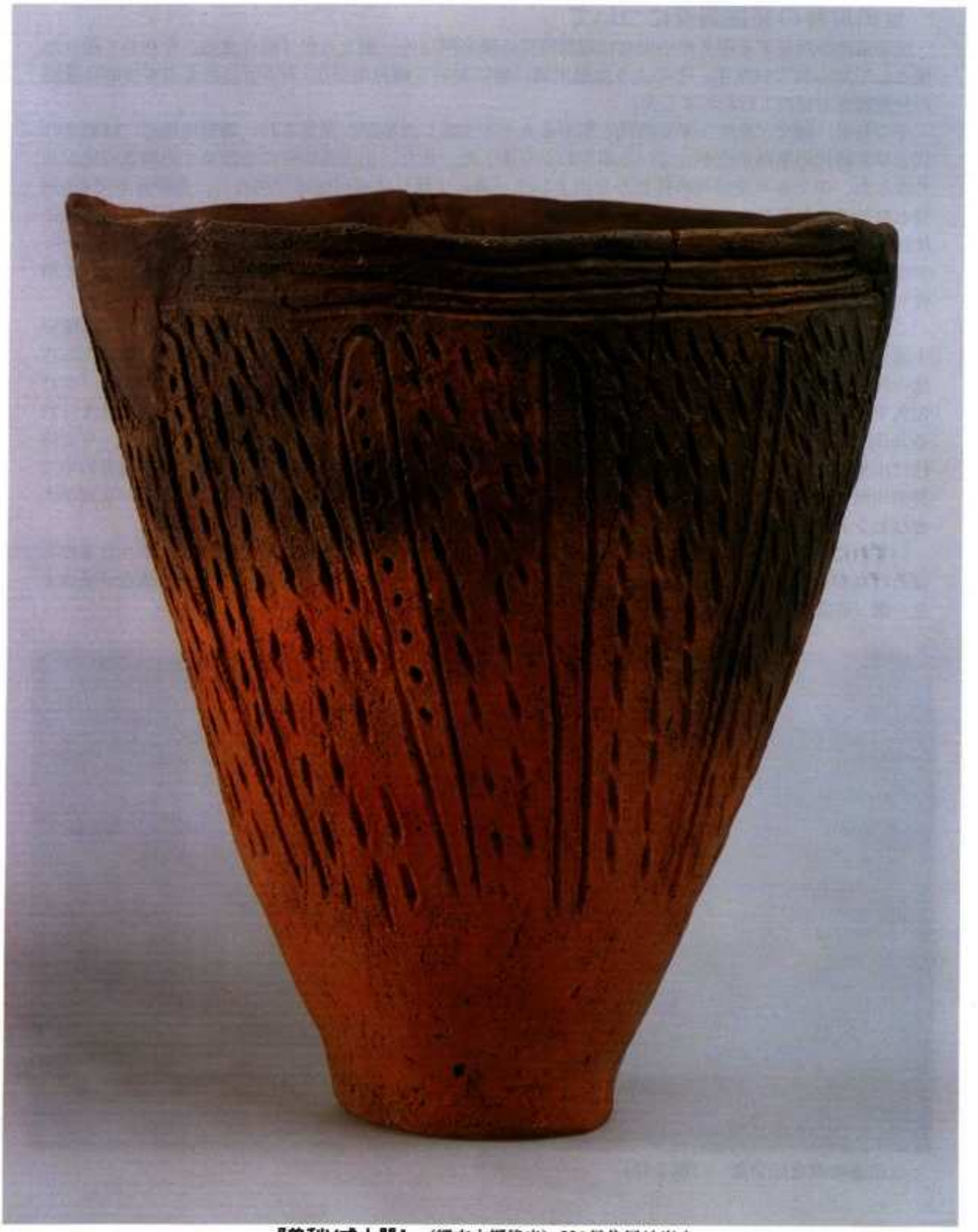
小山崎遺跡群

反田遺跡

長野県佐久市下小田切反田遺跡発掘調査報告書

2008.3

社会福祉法人　里仁会
佐久市教育委員会



『曽利V式土器』（縄文中期後半）H1号住居址出土

反田遺跡の発掘調査について

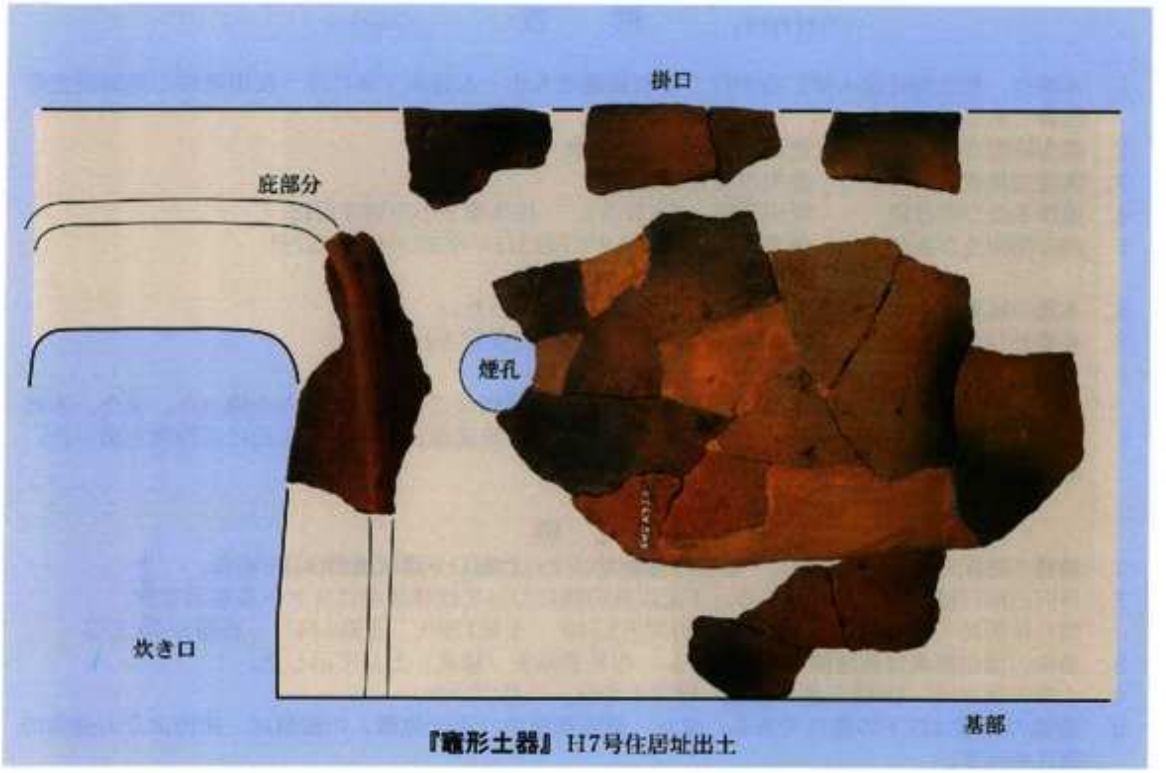
反田遺跡が所在する佐久市小田切は鎌倉時代に時宗開祖の一遍上人が『踊り念仏』を初めて踊った地として知られています。そのような歴史深い地において調査面積が1765㎡におよぶ本格的な遺跡の発掘調査が初めて行われました。

その結果、縄文・弥生・平安時代と繋がる人々の生活した痕跡が発見され、調査地周辺には縄文時代と平安時代の集落が広がっていた事がわかりました。また、出土品の中にも数多くの調査成果がありました。中でも平安時代の住居から出土した『竈形土器』は東信地域で初めて、長野県下でも6例目となる希少な発見となりました。竈形土器は出土例が非常に少ないことから祭祀等の特別なときに使われたと考えられています。また、古代の国によって鋳造された皇朝十二銭の一つ『富壽神寶』や、平安時代としては高級食器と考えられる中国産の『白磁碗』も出土しました。これらも臼田以南の南佐久地域では初めての発見です。

このように、貴重な発見が相次いだ遺跡調査ですが、新たな疑問も提示されました。例えば『竈形土器』です。佐久地域では現在までに500箇所以上の発掘調査が行われ、1箇所で1000軒を越える古代の住居跡が調査された遺跡もあります。しかし、竈形土器が出土したのは当遺跡のみです。「なぜ佐久平で唯一、下小田切で使われていたのか。」という疑問です。発掘調査ではこの疑問に答えられる具体的な祭祀の姿はわかりませんでした。しかし、一つの糸口として反田遺跡からは奈良・平安時代に山梨県で使われていたものと酷似する土器が多く出土しました。山梨県は東海や関東地方の中で神奈川県と並び竈形土器の出土例が多い地域です。或いは古代における信濃佐久と甲斐との交流が大きなヒントとなるのかもしれません。

いずれにしてもこの反田遺跡周辺は古代の佐久地域にとって重要な役割を担う地域であった事がおぼろげながら見えてきました。今後周辺の調査が進めばそれらの資料と関連し、今回の調査成果はより一層「佐久地域の歴史」解明に寄与できるものと考えられます。

反田遺跡調査区全景　（南より）



『竈形土器』H7号住居址出土

『白磁碗』
H9号住居址出土

『富壽神寶』
H5号住居址出土

『緑釉陶器碗』
H8号住居址出土

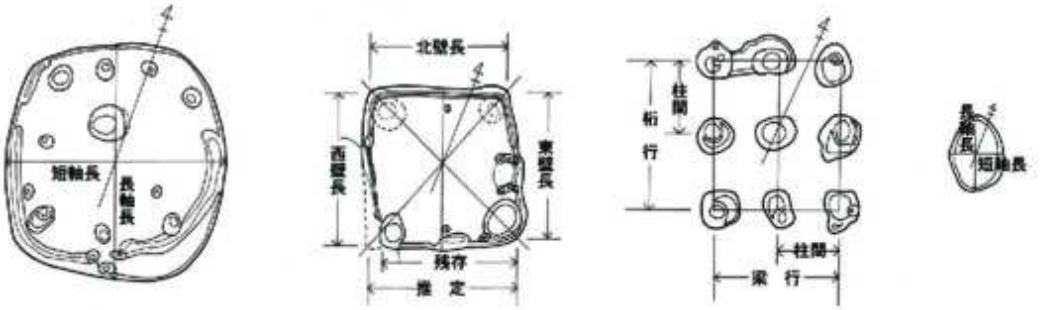
例　言

1．本書は、社会福祉法人里仁会が行う特別養護老人ホーム建設工事に伴う反田遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査原因者　　社会福祉法人　里仁会
3．調査主体者　　佐久市教育委員会
4．遺跡名及び所在地　　反田遺跡　（ＳＫＳ）　佐久市下小田切字反田
5．調査期間及び面積　　調査期間　平成18年7月3日～平成20年3月21日
　　調査面積　１，７６５㎡
6．本書の編集・執筆は記名のあるもの以外、冨沢が行った。
7．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

本発掘調査にあたり雨宮久雄氏・新津眞澄氏には格別なご理解とご協力を賜った。また、本報告書作成にあたっては平野　修氏・市川隆之氏・中沢道彦氏・藤森英二氏にご指導を頂いた。記して感謝いたします。

凡　例

1．遺構の略記号は、住居址(H)・掘立柱建物址(F)・土坑(D)・溝状遺構(M)である。
2．挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。
　竪穴住居址・掘立柱建物址1/80　カマド1/40　土坑1/80　土器1/4　石器1/4・1/3
3．遺構の海抜標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として示した。
4．土層の色調は、1988年版『新版　標準土色帖』に基づいた。
5．遺構の計測は以下の通りである。また、遺物観察表「出土位置」の数値は、床面よりの遺物の高さを示す。



6．スクリーントーンの表示は以下の通りである。

目　次

例言・凡例・目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯
1.立地と経過 …… 1
2.調査組織 …… 2
3.遺構と遺物の詳細 …… 2
4.基本層序 …… 2
第Ⅱ章　遺構と遺物
1.縄文時代の住居址 …… 5
2.弥生時代の遺物 …… 18
3.平安時代の住居址 …… 23
4.掘立柱建物址 …… 39
5.土　坑 …… 48
6.溝状遺構 …… 50
7.ピット …… 50
8.遺構外遺物 …… 59
9.調査のまとめ …… 59
付編　「反田遺跡出土の縄文土器について」
　　「反田遺跡出土の甲斐型土器について」
写真図版・抄録

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

1．立地と経過

反田遺跡は佐久市下小田切に所在する。遺跡は蓼科山麓から流れ出た片貝川により形成された小規模な沖積地上に立地する。遺跡の南方150mには片貝川が、北側には湯原より流れ出た中沢川がそれぞれ北に流れており、横山地籍で合流する。この片貝川は南流してきた千曲川と400mにまで接近するが稲荷山や臼田市街地がのる微高地に阻まれ、野沢平の西よりを北に流れ約8km先の下県地籍で千曲川と合流する。

今回、特別養護老人ホーム建設のため社会福祉法人里仁会より予定地の遺跡有無について照会があった。佐久市教育委員会では開発対象地に小山崎遺跡群が存在することを回答し、試掘調査を行うこととなった。結果、試掘調査により遺構が発見されたため保護協議の末、遺跡の保存が不可能な部分については記録保存を目的とする発掘調査を行う事となった。

周辺部の遺跡としてはこの沖積地を取り囲むように数多くの遺跡が存在するが、発掘調査された遺跡は少ない。

調査された遺跡としては反田遺跡の南方700mに勝間原遺跡がある。弥生後期の住居址2軒と溝状遺構が調査されている。次に近接して丸山遺跡がある。同じく弥生後期の住居址4軒と奈良時代の住居址1軒と掘立柱建物址が検出されている。また、当遺跡北方の滝地籍周辺では家浦遺跡が調査され平安時代の土坑や溝状遺構が調査されている。このように反田遺跡周辺では調査された遺跡も少なく、またいずれの遺跡も調査面積が極めて小規模で小田切地区の原始・古代像を具体的に示せる調査事例に乏しい。

第1図　遺跡位置図　(1:25000)

第2図　遺跡調査範囲図 (1:5000)

2．調査組織

調査主体者　佐久市教育委員会　教育長　三石昌彦（平成19年3月迄）　木内　清（平成19年4月より）
事　務　局　社会教育部長　柳沢義春
社会教育次長　山崎明敏（平成19年度より）
文化財課長　中山　悟（平成19年6月迄）　森角吉晴（平成19年7月より）
文化財調査係長　高柳正人（平成19年3月迄）　三石宗一（平成19年4月より）
文化財調査係　林　幸彦　須藤隆司　小林眞寿　羽毛田卓也　神津　格
冨沢一明　上原　学　出澤　力　並木節子（平成19年10月より）

調査体制
調査担当者　小林眞寿　羽毛田卓也　冨沢一明　森泉かよ子
調　査　員　柏木貞夫　甘利隆雄　清水信一　阿部和人　碓氷知子　加藤信一　菊池喜重
百瀬秋男　小林幸子　山本徳明　堀籠滋子　上原幸子　小林妙子　清水美惠
橋詰勝子　橋詰信子　佐藤瑞希　斉藤恵季　清水律子　井出孝子　臼田真杉
茂木みどり　小林百合子　小林喜久子　柳澤千賀子　宮川百合子　花岡美津子
渡辺久美子　広瀬梨恵子　田中ひさ子　小林よしみ　林　美智子　堺　益子
市川　昭　小山　功　武者幸彦

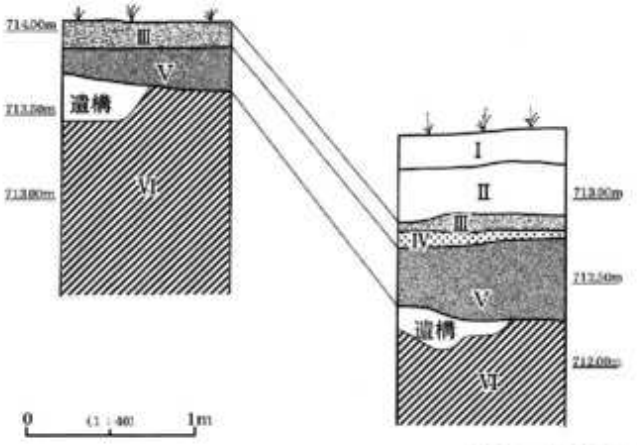
3．遺構と遺物の詳細

遺　構　竪穴住居址　19軒
（縄文2軒・平安17軒）
土　坑　50基
掘立柱建物址　4棟
溝状遺構　2本
ピット　576個（古代～中世）

遺　物　縄文土器（加曽利ＥⅢ・曽利・佐久系）
弥生土器（中期中葉境窪平行）
須恵器・土師器・甲斐形土器
灰釉陶器・緑釉陶器・白磁・竈形土器
富壽神寶・鉄製品・炭化材

4．基本層序

今回の遺跡調査対象地は片貝川と中沢川が形成した沖積地に位置し、尚かつ周辺の土地利用状況をみると遺跡周辺は微高地を形成していると考えられる。このような事から遺跡の基本層序は6層に分かれ、第Ⅰ～Ⅳ層は畑地及び水田耕作土。第Ⅴ層に黒褐色土が薄く形成され遺物も混入するが、遺構確認には第Ⅵ層の黄色土で二次堆積のローム層であった。調査区の一部にはⅣ層下が小石の混ざる岩盤となり、いわゆる「相浜層」が露出していた。



Ⅰ　灰黄褐色土層（10YR6/2）
水田の耕作土。下に水田敷床。
Ⅱ　褐灰色土層（10YR4/1）
盛土。石を多く含む。
Ⅲ　灰白色土層（10YR7/1）
水田の耕作土。
Ⅳ　明黄褐色土層（10YR6/8）
水田敷床。
Ⅴ　黒褐色土層（10YR3/1）
しまり、粘性あり。小石・炭化物含む。
Ⅵ　黄褐色土層（10YR5/6）
二次堆積のローム層。小石を多く含む。

第3図　標準土層図

第4図　反田遺跡調査全体図（1：200）

第Ⅱ章　遺構と遺物

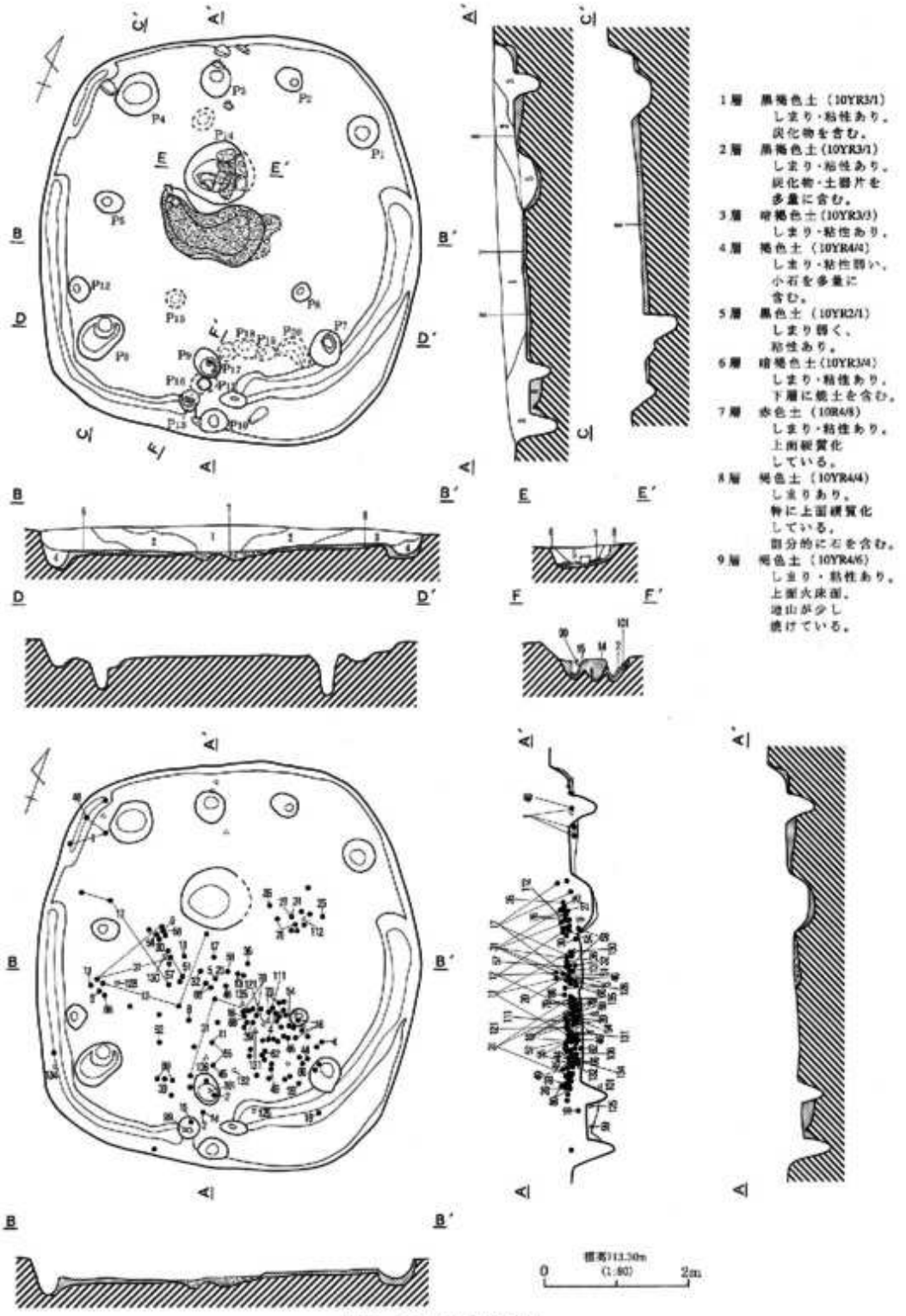
1．縄文時代の住居址

今回の調査では縄文時代の住居址が2軒検出された。時期は出土した土器の特徴からH17号住居址が前期初頭から前半、H1号住居址が中期後半に位置づけられる。各住居址の内容及び出土遺物の詳細については遺構計測表並びに出土遺物観察表を参照されたい。なお、縄文土器については付編に玉稿「反田遺跡出土の縄文土器について」を藤森英二氏より頂き掲載してある。

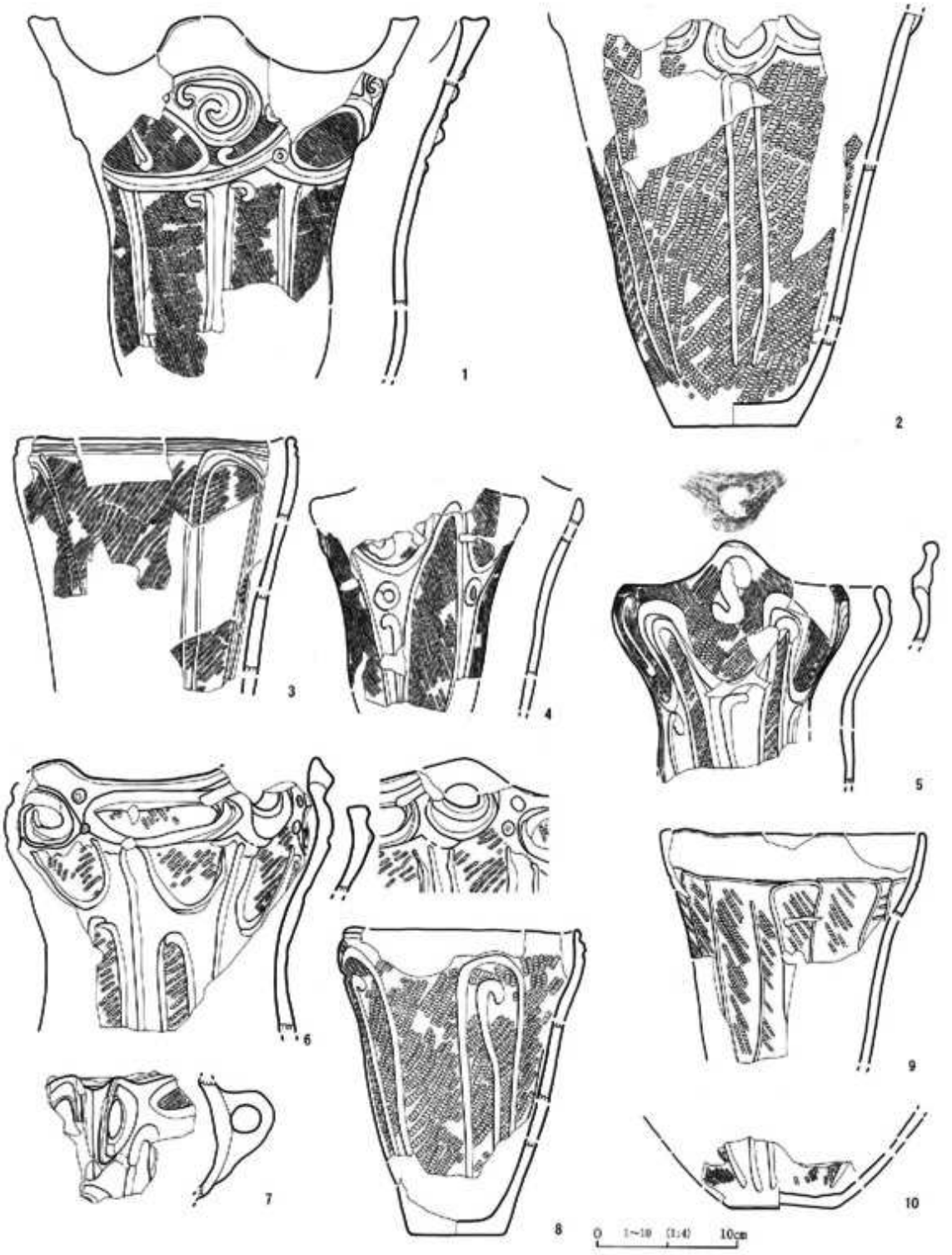
(1) H17号住居址　(第5図，写真図版六)

本址は調査区の北側に位置する。形態は方形で中央に炉址が確認された。

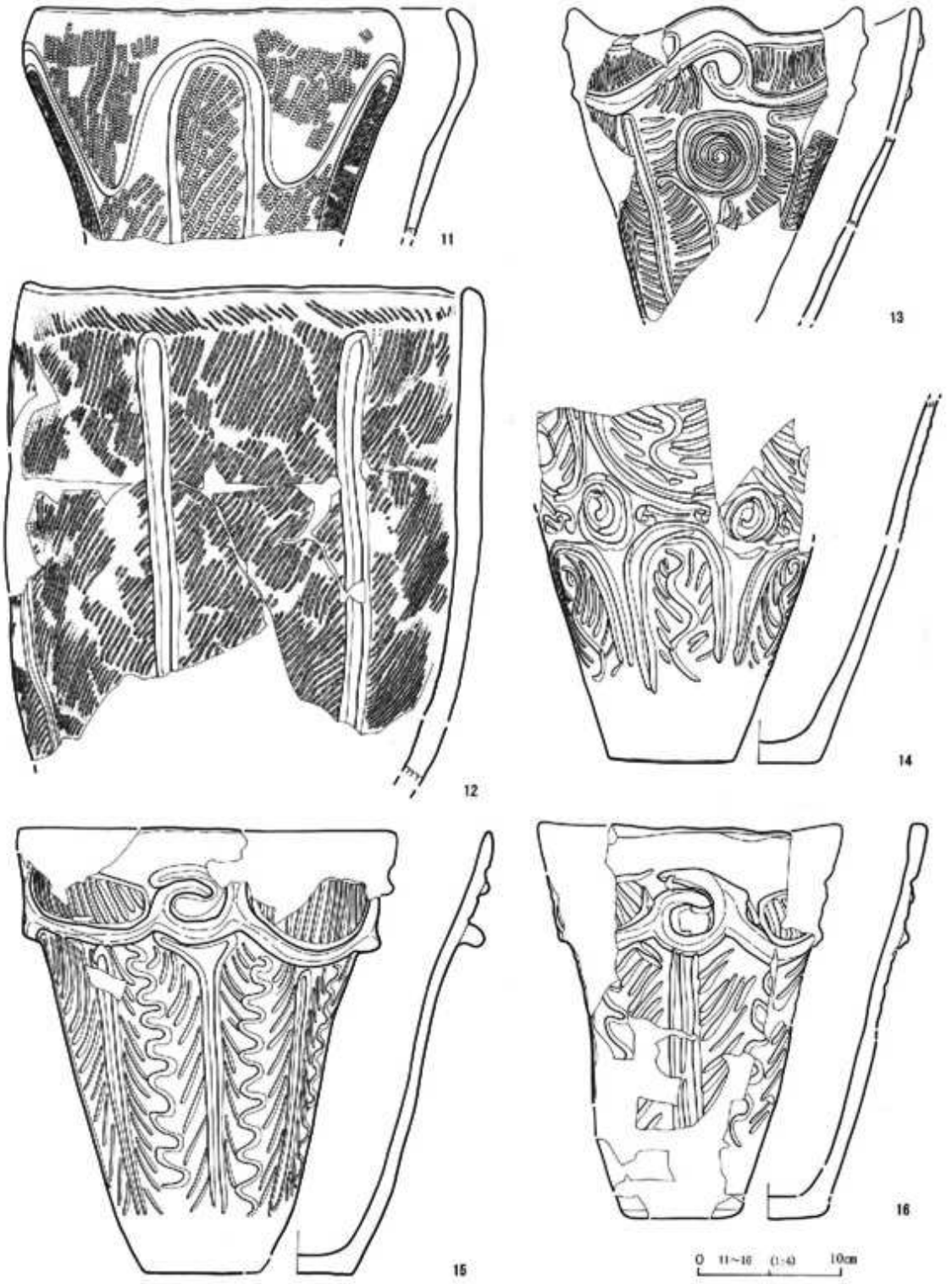
第5図　H17号住居址及び出土遺物実測図



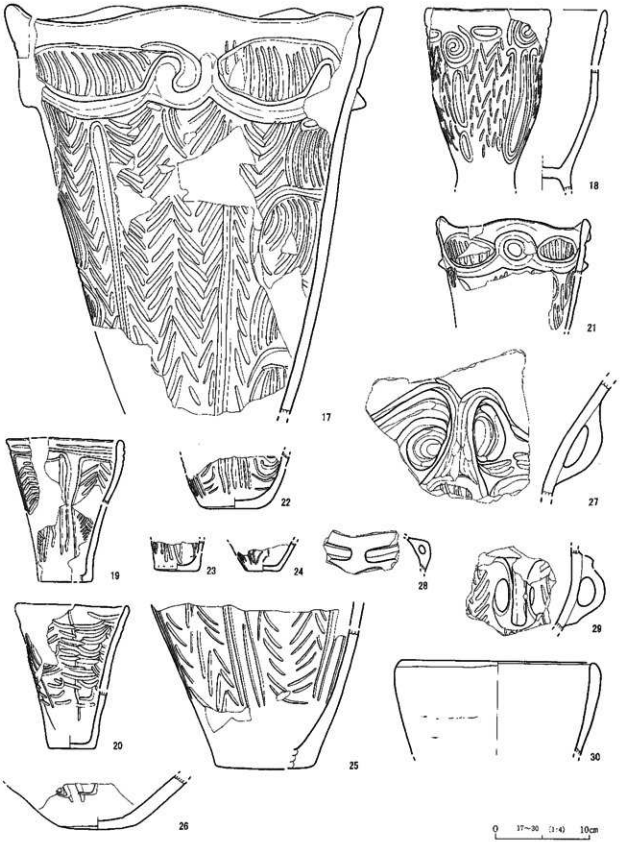
第6図　H1号住居址実測図



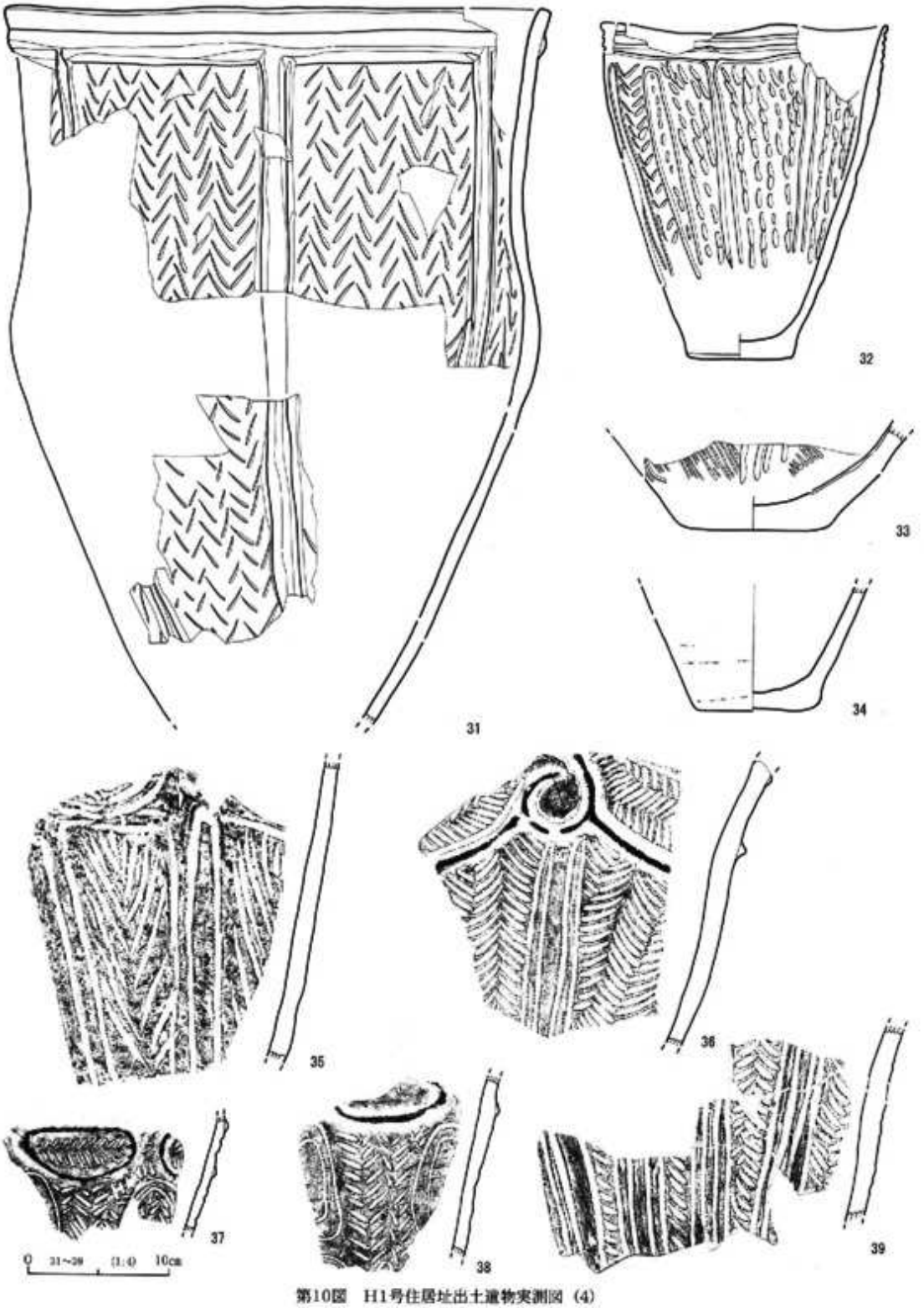
第7図　H1号住居址出土遺物実測図（1）



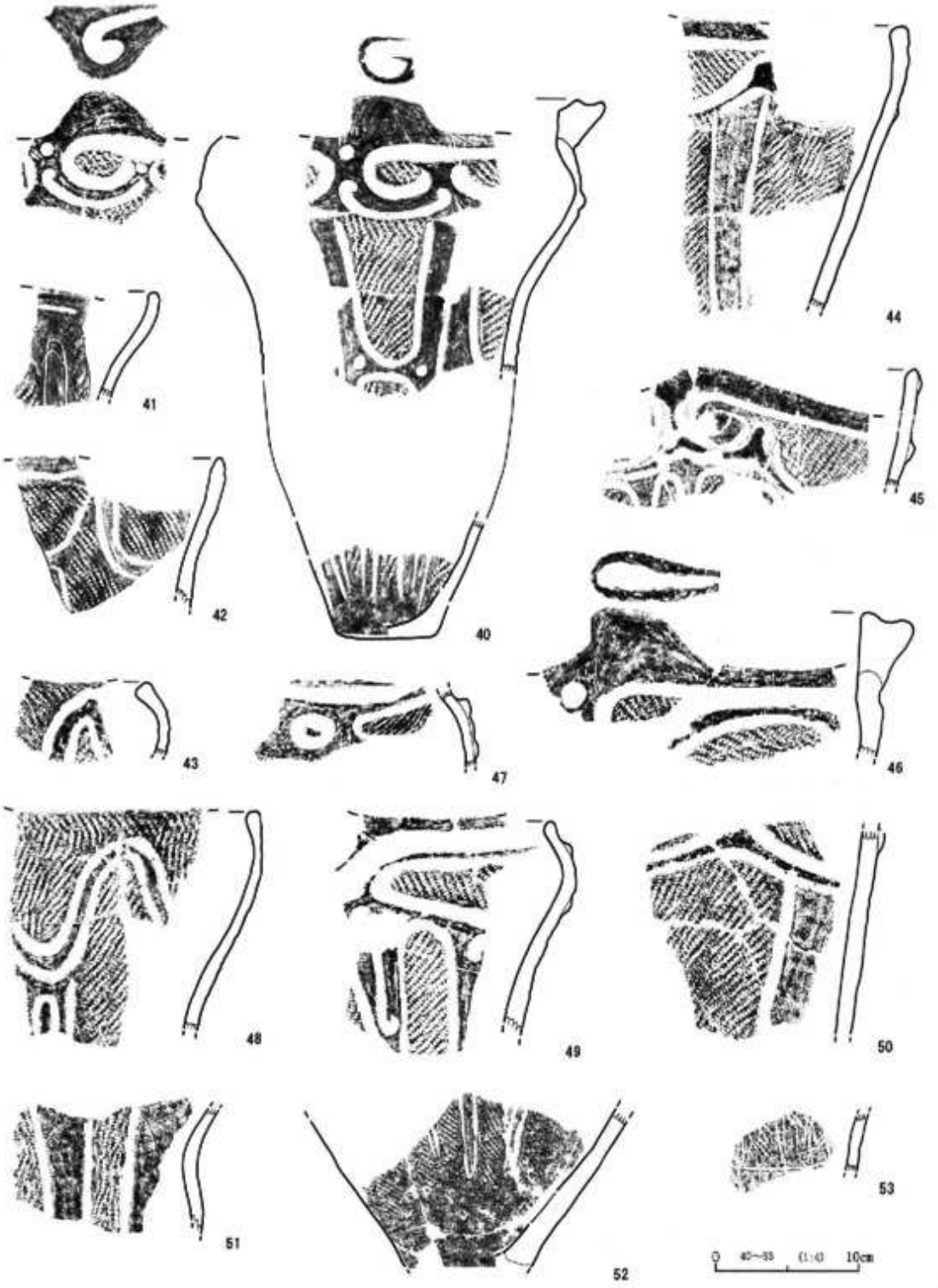
第8図　H1号住居址出土遺物実測図（2）



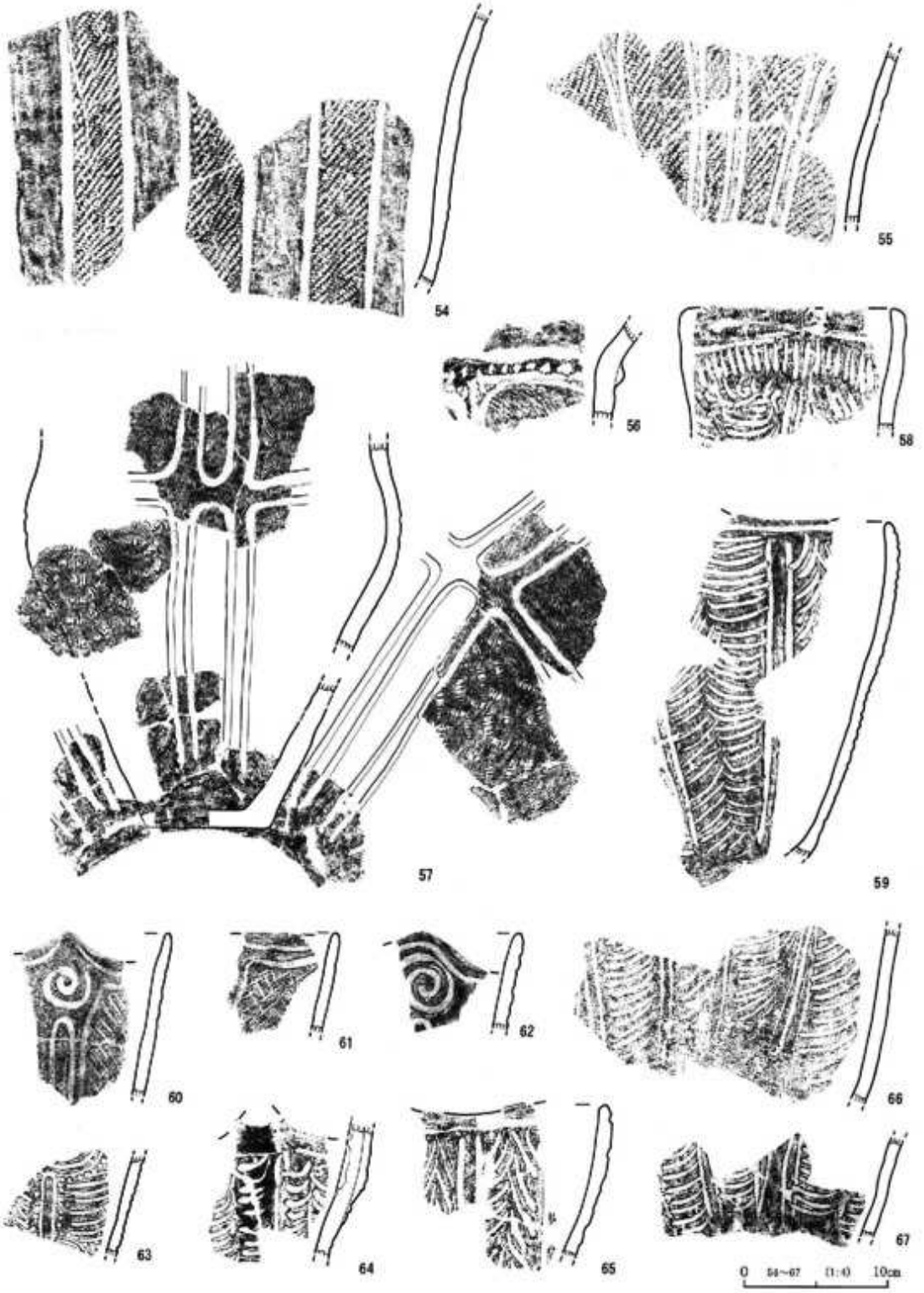
第9図　H1号住居址出土遺物実測図（3）



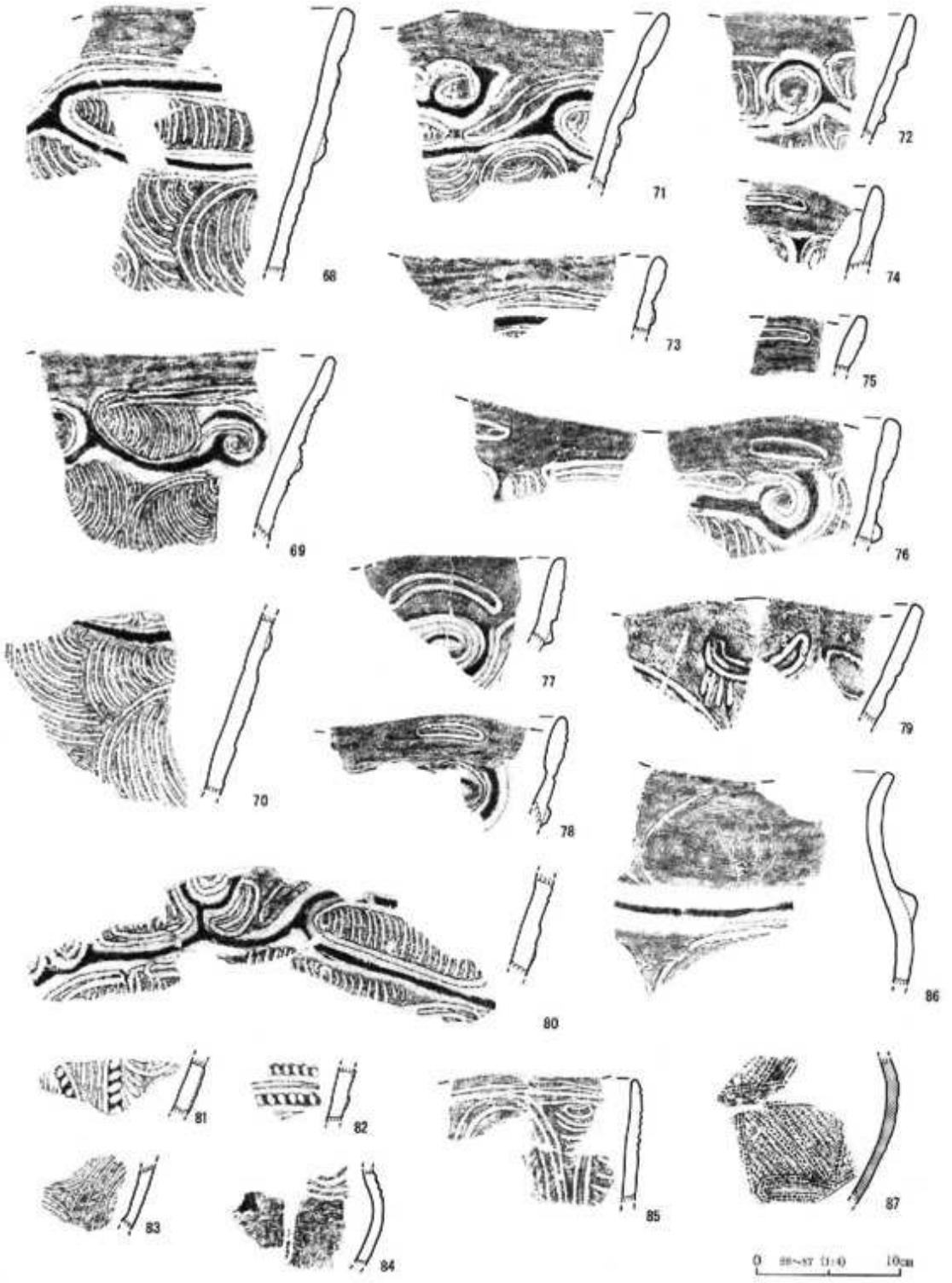
第10図　H1号住居址出土遺物実測図（4）



第11図　H1号住居址出土遺物実測図（5）



第12図　H1号住居址出土遺物実測図（6）

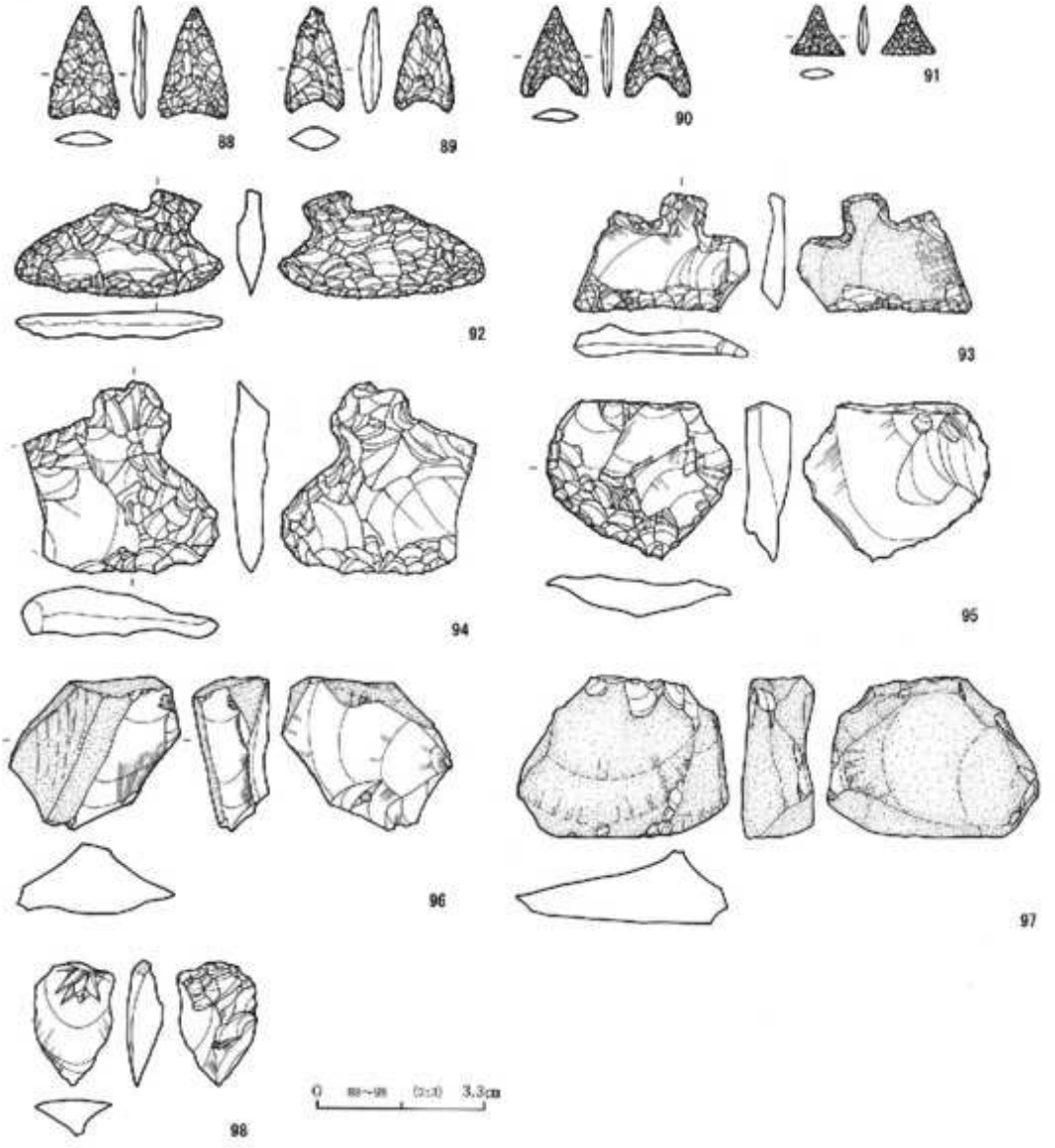


第13図　H1号住居址出土遺物実測図（7）

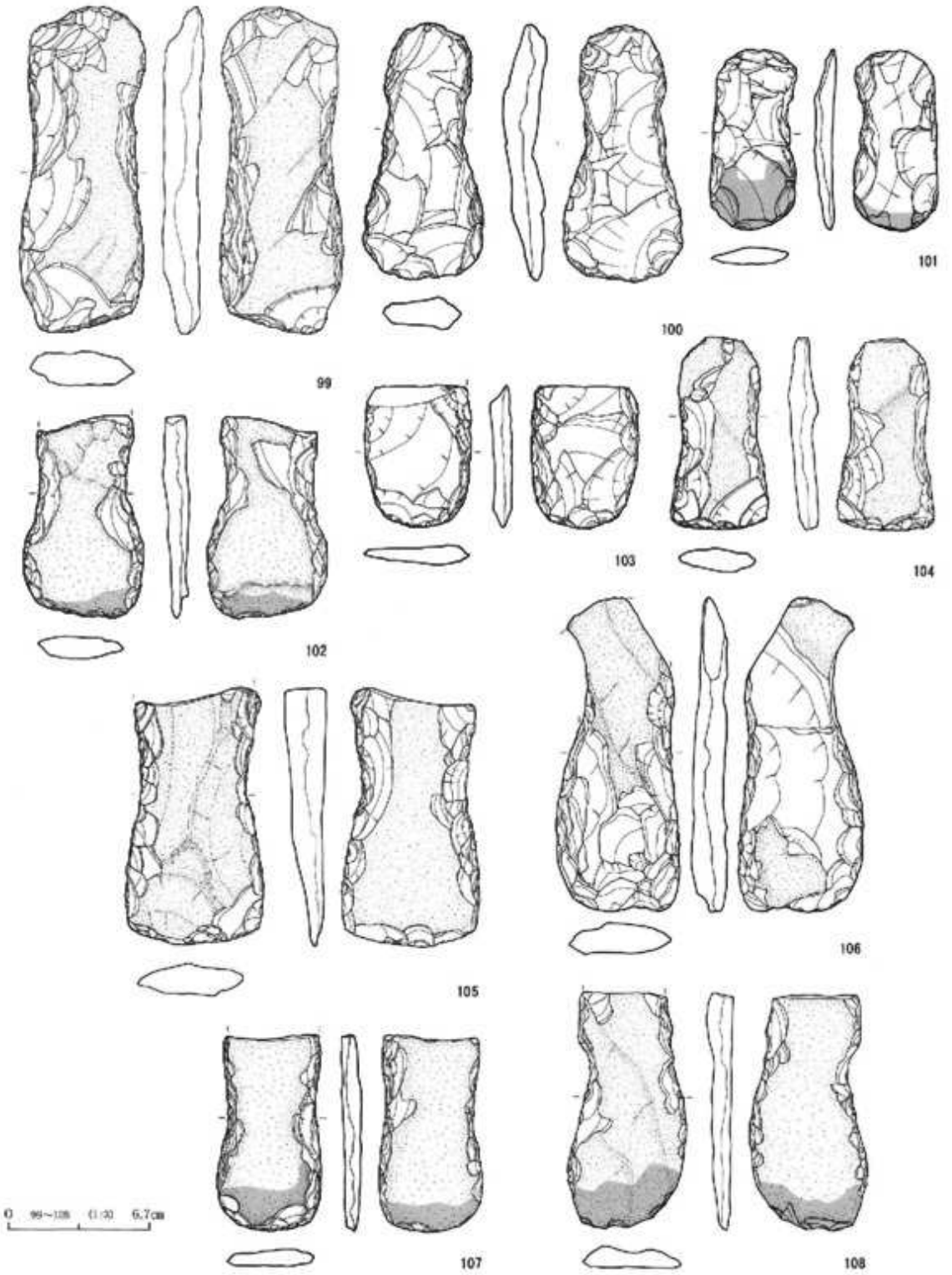
（2）Ｈ１号住居址　（第6図，写真図版一）

本址は調査区東側の地形が片貝川側に落ち込む斜面に立地する。形態は円形で、壁際に柱穴が8本確認された。また南側の埋甕部分には入り口施設と考えられるＰ10が検出された。壁溝は南東と南西側に確認された。炉は住居址やや奥よりに検出された。形態は円形の土坑が堀り込まれ人為的に割られた川原石を配していた（写真図版1参照）。この川原石はすべて接合関係があり、大型の川原石1点に復元できた。この炉址は土坑内にも僅かながら焼土は検出されたが、図に示すとおり掘り込みの外側に大量の焼土が広がっていた。

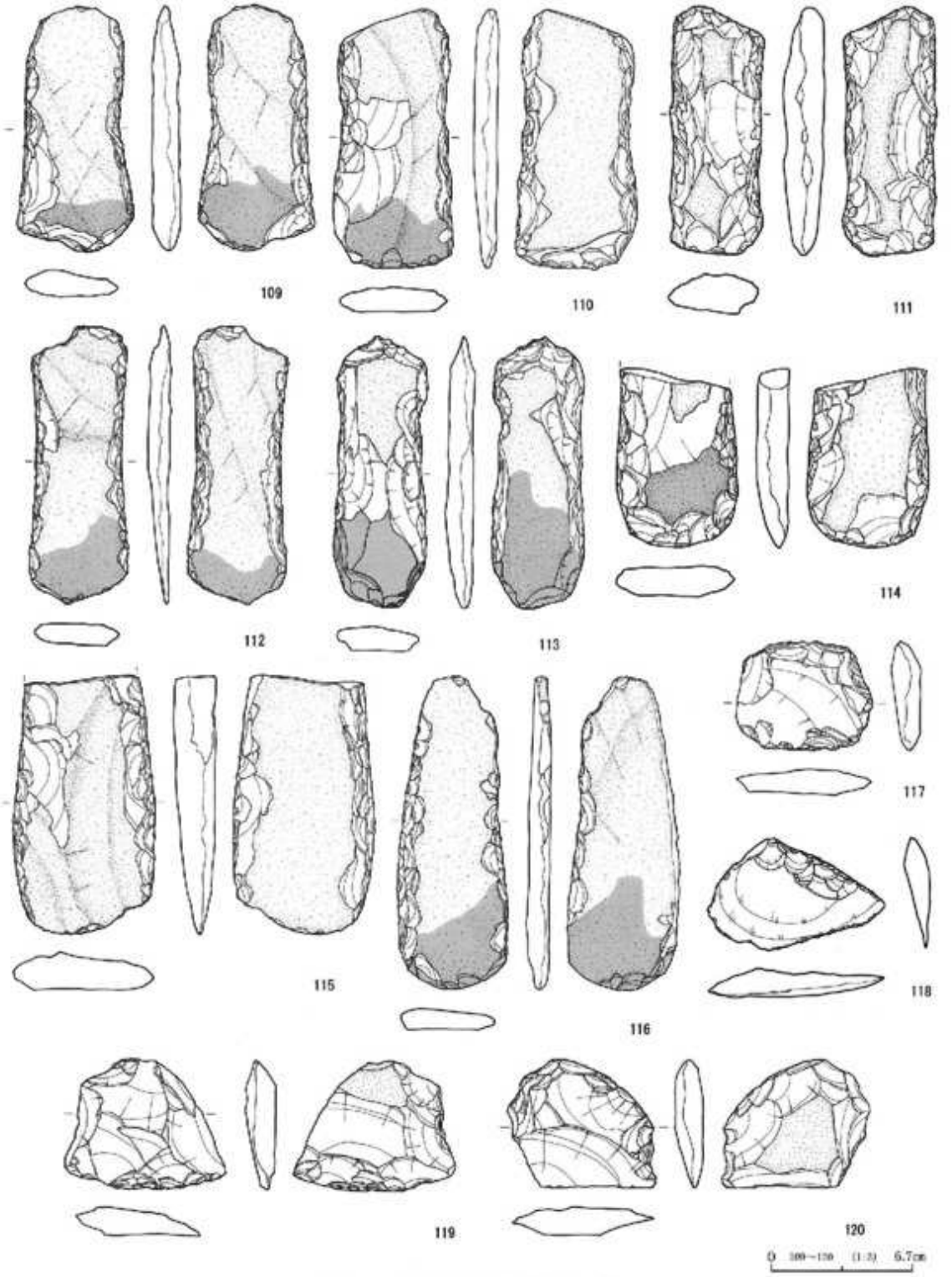
本址からの出土遺物は覆土上層から床面まで大量に出土したが、出土状態は住居址中心に向かってすり鉢状に遺物が分布するため土器廃棄の可能性がある。埋甕は3点確認され、図示した2.14.15である。2と15のピット内には打製石斧が伴に出土した（写真図版1参照）。



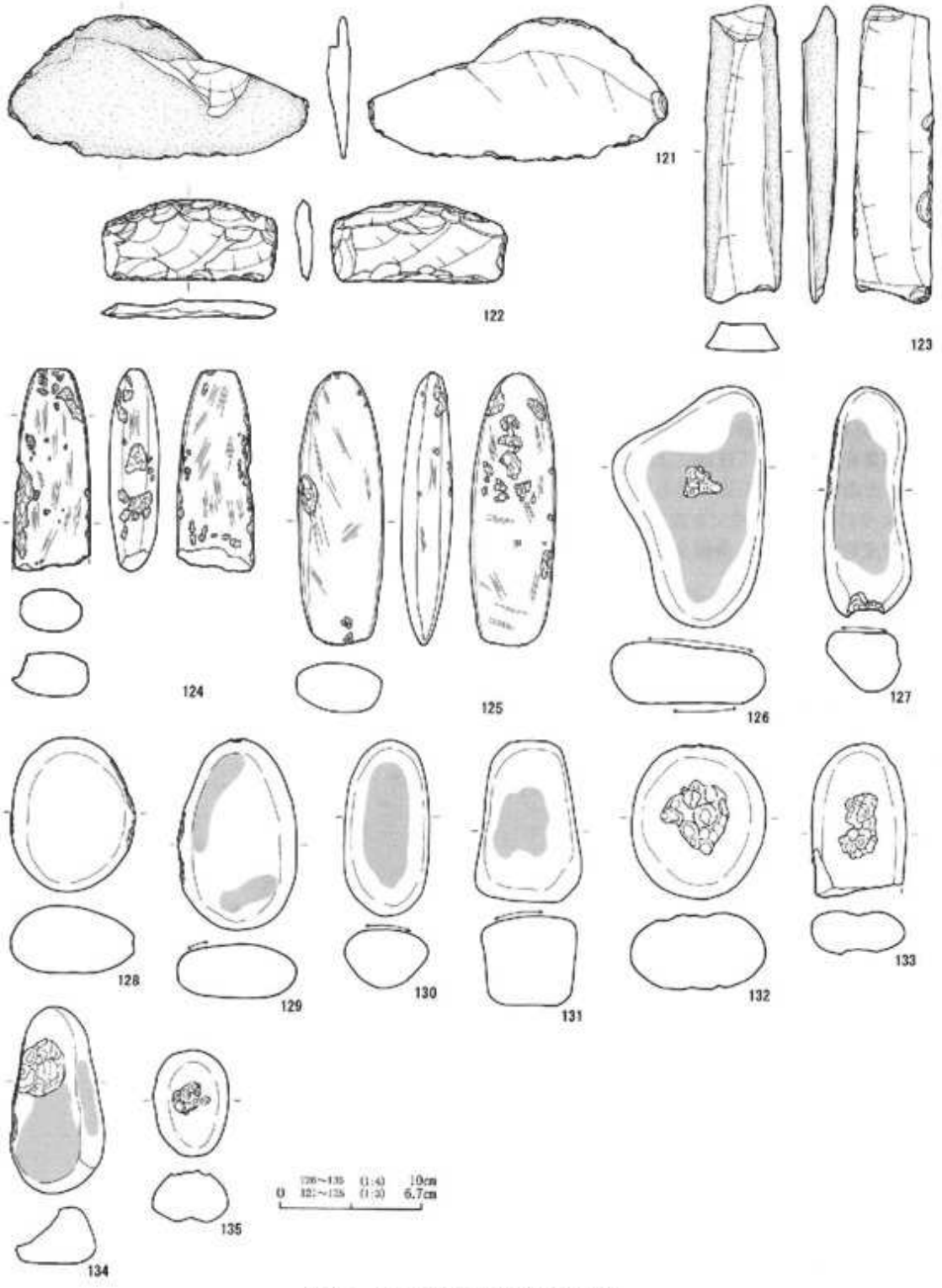
第14図　H1号住居址出土遺物実測図（8）



第15図　H1号住居址出土遺物実測図（9）



第16図　H1号住居址出土遺物実測図（10）



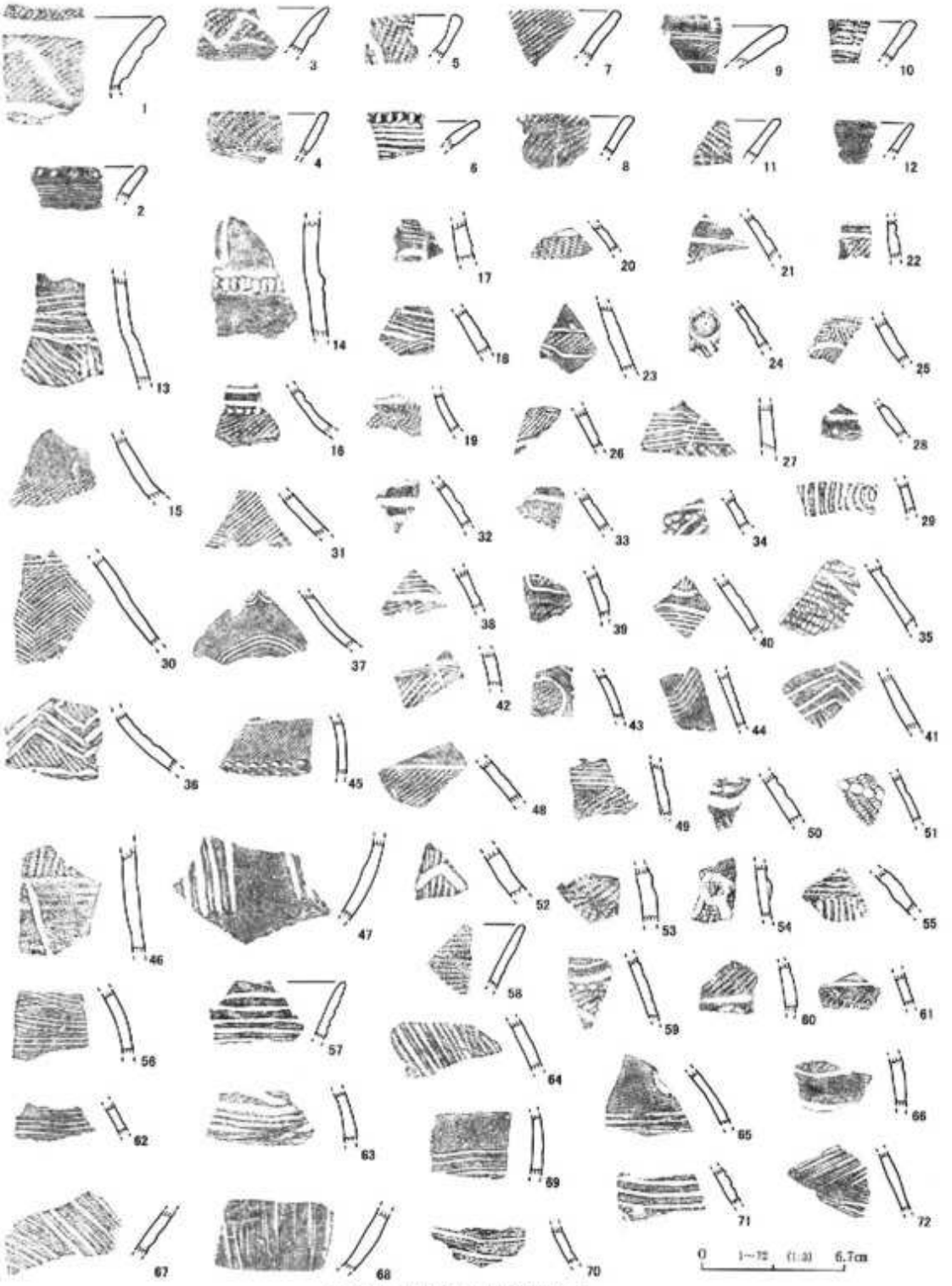
第17図　H1号住居址出土遺物実測図（11）

2．弥生時代の遺物

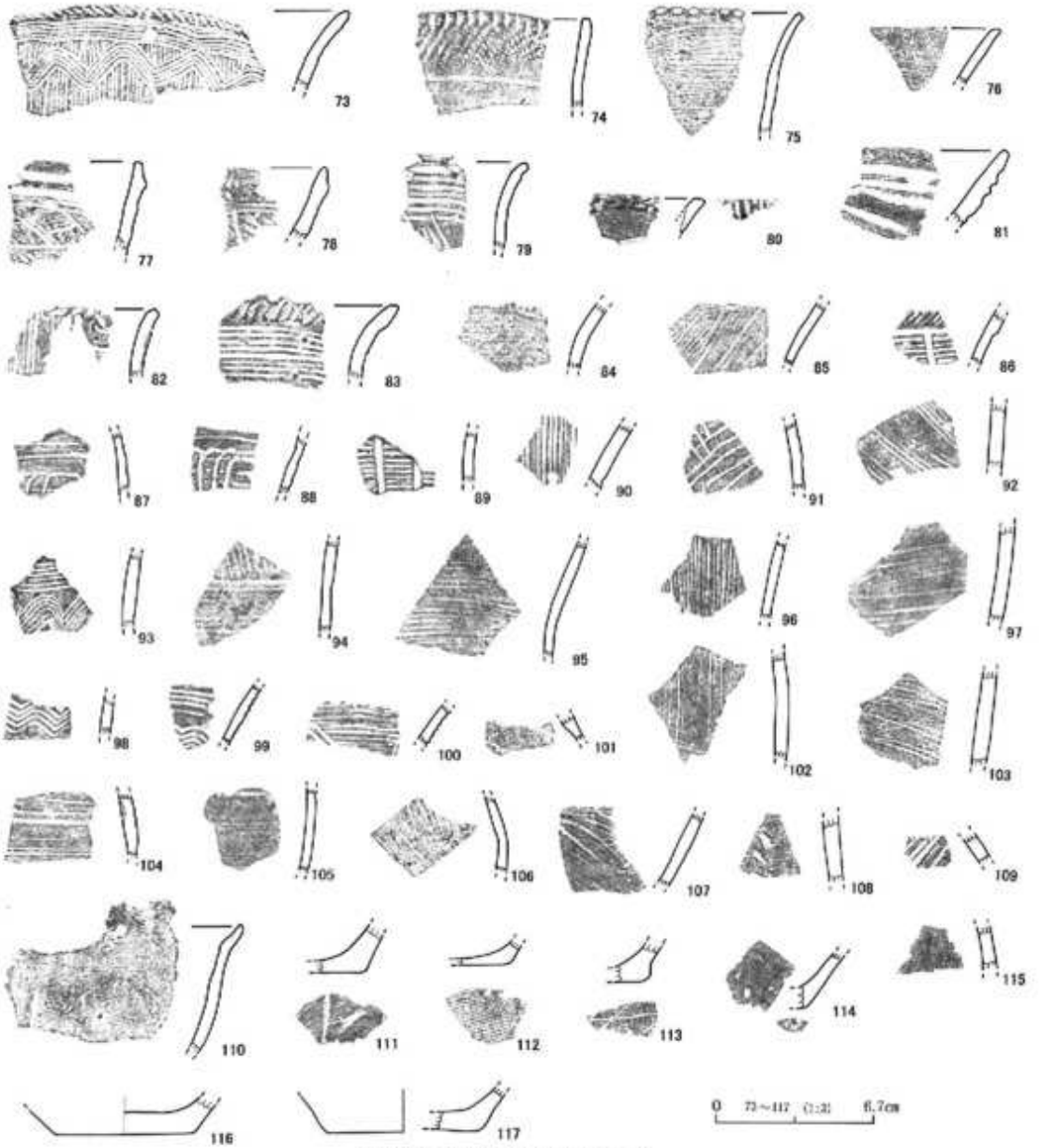
今回の反田遺跡の発掘調査では、調査区全域から弥生時代中期中葉と考えられる土器が小片であるが出土した。弥生時代と認識できた土器片数は228点で、調査区内での出土位置は下の第18図に示し、内117点を図示した。出土位置は大きく2箇所の偏りがあり、1箇所は北東側であるＦ1号掘立柱建物址付近で特にＦ1号掘立柱建物址のピット内からの出土、もう1箇所は調査区南西側の平安時代の住居址群であるH5.7.9.11号住居址の覆土内より多く出土した。いずれも時期の異なる遺構からの出土であり弥生時代の土器片はいずれも混入と考えられ、確実に遺構に伴うものは確認できなかった。しかし、唯一Ｐ328～331からは当該期の土器片が多く出土した。D31号土坑を含むＰ328～331、Ｐ362～364は平面形態が円形のピットにより囲まれる状態を示し、東隣のＰ413～418、Ｐ436.437も同様に円形の配列を示す。ピットはいずれも浅く柱穴とは断定しにくく、又炉址等も検出されていないが、特にＰ371.372が「八」の字状に広がる点など、平面形態のみで考えると松本市境窪遺跡で検出されている弥生中期中葉の平地建物址と共通性も指摘でき、あるいは掘り込みとして確認しづらい同期遺構の存在も推定できるのではないだろうか。

出土土器の特徴はいずれも細片であり土器全体を把握できるものはなかったが、その特徴から壺と甕に一応分類した。壺は口縁部と頸部と肩部がある。口縁部は逆「八」の字に開くタイプのものが多く、縄文を地紋にして沈線による山形の区画を施すものがある。頸部や肩部の施文は地紋に縄文を施すものと条痕を施すものがあり、横方向の沈線で区画し、区画内に指突を施すものがある。また24.43のように円形の貼付文を施し貼付文内に縄文や指突を施すものもある。甕は櫛条工具による横線文や波状文を施すもの、条痕文を施すものがある。口唇部は刻みを施すものが多い。底部に関しては壺

第18図　弥生時代土器片出土位置



第19図　弥生時代土器片実測図（1）



第20図　弥生時代土器片実測図（2）

か甕か判断に苦しむが、底部には113の木葉痕や112の布痕等が観察できた。

本遺跡より出土したこれら土器群の位置付けであるが、その特徴より弥生時代中期中葉、境窪平行段階と考えられる。佐久平においては弥生前期後半として佐久市下信濃石遺跡.東五里田遺跡.仲田遺跡がそれぞれ調査され、また弥生中期初頭～前葉として佐久穂町館遺跡.中原遺跡、佐久市月夜平遺跡が知られている。今回の発見は佐久平においてこれら各時期の遺跡と中期後半栗林期の遺跡を時間的につなぐ資料であり、非常に貴重な発見と考えられる。

単位 cm

No.	器種	部位	器高	文様	出土位置
1	壺	口縁	3	口唇部・縄文、LR縄文(横)→沈線文(山形文)→横沈線	H11－Ⅳ区1層
2	壺	口縁	1.3	口唇部刺突、横条痕	H11　Ⅱ区2層
3	壺	口縁	1.7	口唇部押捺、LR縄文(横位)→沈線文(山形文)	H6
4	壺	口縁	1.6	RL縄文・横条痕	H11－Ⅰ区2層
5	壺	口縁	1.4	RL縄文(横)→沈線文(三角形?)	ｻ－14
6	壺	口縁	1.4	口唇部刻目、横線文	H5－Ⅰ区
7	壺	口縁	1.9	LR縄文(横)	H3
8	壺	口縁	1.5	口唇部LR縄文、LR縄文(横)	D3
9	壺	口縁	2.3	平行沈線→LR縄文(横位)?	P324
10	壺	口縁	1.4	短線文→横沈線文	F1・P6
11	壺	口縁	1.4	RL縄文(縦)?	F4・P3
12	壺	口縁	1.1	口唇部刺突、無文	P229
13	壺	頸部		横条痕(下敷竹管?)→斜条痕　縦条痕	ｻ　10
14	壺	頸部		櫛状沈線文(縦)・突帯→連続刺突文(ヘラ状具)	H11－Ⅲ区
15	壺	頸部		LR縄文(横)	F1・P6
16	壺	頸部		横平行沈線文　→連続刺突文→LR縄文(横)?	J－9
17	壺	頸部		LR縄文(縦)・沈線文(連弧?)	H5－Ⅳ区・刻
18	壺	頸部		平行沈線文→横線文→LR縄文(横)	H11－Ⅰ区・刻
19	壺	頸部		沈線文　→LR縄文(横)	H5－Ⅱ区
20	壺	肩部		沈線文→LR縄文	H5
21	壺	肩部		平行沈線文→LR縄文	H9－刻ｶ
22	壺	頸部		赤彩貼付文→平行沈線→LR縄文	P373
23	壺	頸部		LR縄文→沈線文(平行・連弧)	H11　Ⅳ区2層
24	壺	頸部		沈線文・円形貼付文	H11－Ⅳ区2層
25	壺	肩部		RL縄文・同心円沈線文	H9－刻ｶ・刻
26	壺	頸部		LR縄文?・沈線文	M1－Ⅱ区
27	壺	頸部		横条痕・L字縄文	P127
28	壺	肩部		横沈線文・波状文	F4・P4
29	壺	肩部		縄文→同心円沈線文	H3－刻
30	壺	頸部		羽状条痕→横条痕	F1・P6
31	壺	頸部		羽状条痕	P442
32	壺	肩部		同心円沈線文?	P61
33	壺	肩部		縄文→沈線文	P521
34	壺	頸部		三角形連続沈線・刺突充填	F1・P1
35	壺	頸部		RL縄文(横)→沈線文	ｻ－12
36	壺	頸部		沈線文(逆山形文・菱形文)・RL縄文	H11－Ⅲ区・2層
37	壺	肩部		波状文	孤飯
38	壺	肩部		沈線文・横線文→LR縄文	H5－Ⅱ区
39	壺	肩部		四角形沈線文→縄文	ｻ－13
40	壺	肩部		赤彩波状沈線に波状文・円形沈線に短線文	H11－Ⅲ区・2層
41	壺	頸部		沈線文(逆山形文)→RLL縄文(横)	H11－Ⅲ区・刻
42	壺	頸部		縄文・横条痕	H11－1区1層
43	壺	肩部		円状沈線文→LR縄文充填?	H9－Ⅰ区
44	壺	頸部		波状文	ｻ－12
45	壺	胴部		沈線文→LR縄文→付加文(連続刺突文二段)	D7
46	壺	頸部		縦条痕→三角形連続沈線	P72
47	壺	胴部		沈線文(縦)	H11－Ⅲ区2層
48	壺	胴部		沈線文→RL縄文?	H4－Ⅰ区
49	壺	頸部		横線文　→LR縄文・波状文?	P157
50	壺	肩部		円形沈線→刺突充填	H11－Ⅱ区・刻
51	壺	胴部		LR縄文→付加文(連続刺突)	F1・P9
52	壺	頸部		縦条痕→山形沈線	H11－Ⅳ区・2層
53	壺	頸部		LR縄文→沈線	H7－Ⅱ区
54	壺	胴部		円形貼付文→縄文→沈線文	H5　Ⅱ区
55	壺	肩部		横線文　→波線文	F1・P11
56	壺	胴部		横条痕	H8
57	壺	口縁		口縁部刻目・平行沈線文	F1・P8
58	壺	口縁		口縁部縄文・LR縄文	F1・P6

第1表　弥生時代土器片観察表 (1)

単位　cm

59	壺	胴部		同心円?沈線文・連続刺突文(弧状)→縄文	H11　Ⅰ区・2層
60	壺	胴部		沈線→縄文LR	I19－Ⅰ区
61	壺	頸部		沈線文・縄文	H8－P2
62	壺	底部		横縄文	検出
63	壺	胴部		LR縄文?・沈線文・横線文	I111－Ⅱ区・2層
64	壺	胴部		斜条痕	t－12
65	壺	底部		円形沈線文・横条痕	H11－Ⅱ区・1層
66	壺	胴部		弧状?沈線文・縄文	H7－Ⅱ区
67	壺	頸部		斜条痕	H5
68	壺	頸部		縦沈線?	D7
69	壺	胴部		横条痕	M1－Ⅱ区
70	壺	頸部		沈線文・横条痕	I111－Ⅳ区
71	壺	頸部		平行沈線文	H5－Ⅱ区
72	壺	頸部		斜条痕	H5
73	甕	口縁	2.5	口縁部櫛状具による連続刺突、横線文→縦線文→波状文	I111－Ⅲ区・2層
74	甕	口縁	2.7	LR縄文(横)→口縁上端連続刺突・沈線	H11－Ⅰ区・2層
75	甕	口縁	3.9	口縁連続押捺、横条痕	P331
76	甕	口縁	2	横条痕?	H2－Ⅲ区
77	甕	口縁	3	口縁部縄文、突帯・沈線・縄文→斜沈線文	ケ－14
78	甕	口縁	2.3	口縁部縄文、突帯・沈線・縄文→斜沈線文	t－15
79	甕	口縁	2.7	横沈線文→斜沈線文	H7－Ⅱ区
80	甕	口縁	1.1	外面：平行沈線、内面：縦沈線・刺突	H6
81	甕	口縁	2.4	平行沈線・弧状沈線	P549
82	甕	口縁	2.3	口縁部刺突(櫛状具?)、縦条痕	H9　Ⅰ区
83	壺	口縁	2.7	口唇部刻目、LR縄文(横)・横線文	シ－15
84	甕	口縁		横条痕	H5
85	甕	口縁		斜条痕→横条痕	検出
86	壺	頸部		LR縄文(横)・横沈線・横線文→縦沈線	H11－Ⅱ区
87	壺	胴部		平行沈線・亜四角沈線・横短線	H5　Ⅱ区
88	壺	頸部		亜四角沈線・横短線	H9－P6
89	甕	口縁		横線文・縦沈線	H6　Ⅲ区
90	甕	口縁		縦条痕→刺突	P90
91	甕	胴部		羽状沈線文	I111－Ⅱ区・耕
92	甕	胴部		斜条痕文	F1・P8
93	甕	口縁		横線文・波状文	H5－Ⅱ区
94	甕	口縁		縦条痕文・横条痕文	M1－Ⅱ区
95	甕	口縁		横条痕文	D44
96	甕	口縁		縦条痕文	I111－Ⅰ区・1層
97	甕	胴部		斜条痕文	D7
98	甕	口縁		横線文・波状文	H5
99	甕	口縁		横線文・波状文	I111－Ⅳ区・2層
100	甕	口縁		横条痕・波状文	コ－9
101	甕	頸部		沈線文	H7　Ⅰ区
102	甕	胴部		縦条痕文	H5－Ⅰ区
103	甕	胴部		横条痕文	P477
104	甕	胴部		横条痕文	D25
105	甕	胴部		条痕文	H11－Ⅲ区・1層
106	甕	胴部		斜条痕	ナ－9
107	甕	胴部		斜条痕	F1・P8
108	甕	頸部		縄文	F1・P8
109	甕	胴部		斜条痕文	P373
110	甕	口縁		口縁部突起あり、無文	H9－カ区
111	甕	底部		底部木葉痕	I41－Ⅰ区
112	甕	底部		底部布圧痕	H11－Ⅲ区・1層
113	甕	底部		外面：斜条痕、底部：木葉痕	P159
114	甕	底部		底部布圧痕	ト－16
115	甕	胴下部		無文	F1・P8
116	甕	底部		木葉圧痕→ナデ　赤彩あり	H11－Ⅱ区
117	甕	底部		ミガキ	I111－Ⅲ区・1層

第2表　弥生時代土器片観察表（2）

3．平安時代の住居址

今回の調査では17軒の住居址が調査された。集落域は試掘調査の結果から台地の南側にもひろがっている事が判明しており、調査区西側の台地中央部も含めて地形から推定すると全体では50軒以上の住居址の存在が予想された。住居址群は一部重複もみられる。H4.5.7.2号住居址は東西方向に直線的に並んだような状況で検出され、計画的な配置が予想できる。各住居址は出土土器から9世紀後半～10世紀後半の所産時期が考えられた。以下、各住居の調査所見について述べる。

（1）Ｈ２号住居址　（第21図，写真図版二）

本住居址は調査区南より中央に位置する。覆土は自然堆積で、貼床は全体に硬質で特にカマド前面は顕著であった。カマドは北壁中央に造られており、煙道部は外に飛び出さないタイプである。両袖は残存していなかったが、構築材と考えられる礫が1点出土した。火床部は良く焼けており硬質化していた。カマド東脇に貯蔵穴と考えられる掘り込みが確認され、落ち込んだ状態で土器類が出土した。

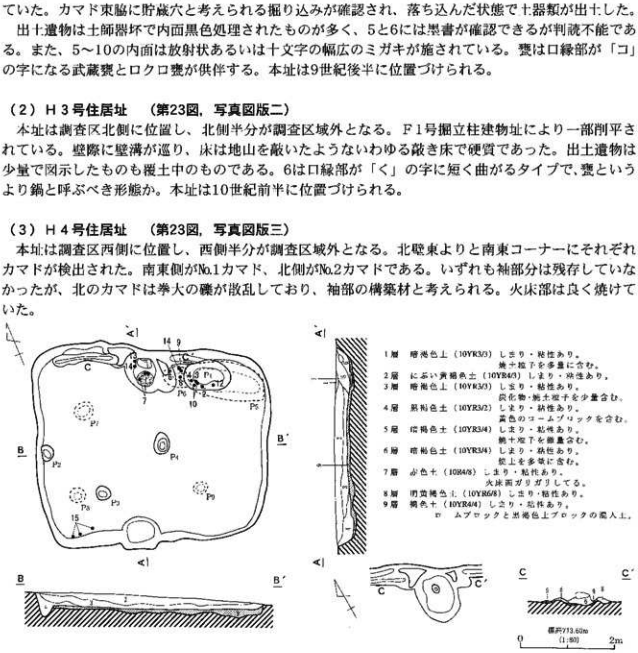
出土遺物は土師器坏で内面黒色処理されたものが多く、5と6には墨書が確認できるが判読不能である。また、5～10の内面は放射状あるいは十文字の幅広のミガキが施されている。甕は口縁部が「コ」の字になる武蔵甕とロクロ甕が供伴する。本址は9世紀後半に位置づけられる。

（2）Ｈ３号住居址　（第23図，写真図版二）

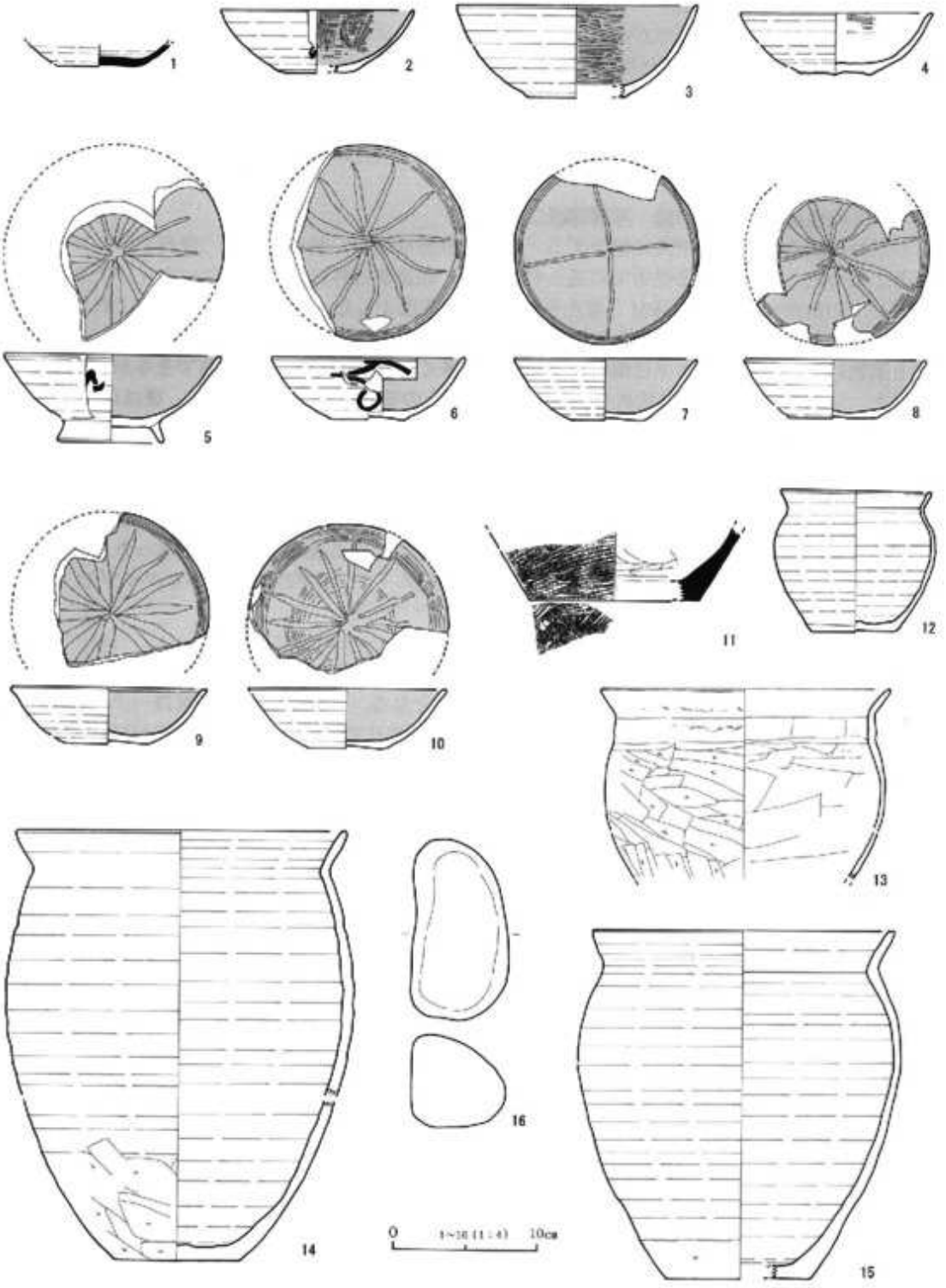
本址は調査区北側に位置し、北側半分が調査区域外となる。Ｆ１号掘立柱建物址により一部削平されている。壁際に壁溝が巡り、床は地山を敲いたようないわゆる敲き床で硬質であった。出土遺物は少量で図示したものも覆土中のものである。6は口縁部が「く」の字に短く曲がるタイプで、甕というより鍋と呼ぶべき形態か。本址は10世紀前半に位置づけられる。

（3）Ｈ４号住居址　（第23図，写真図版三）

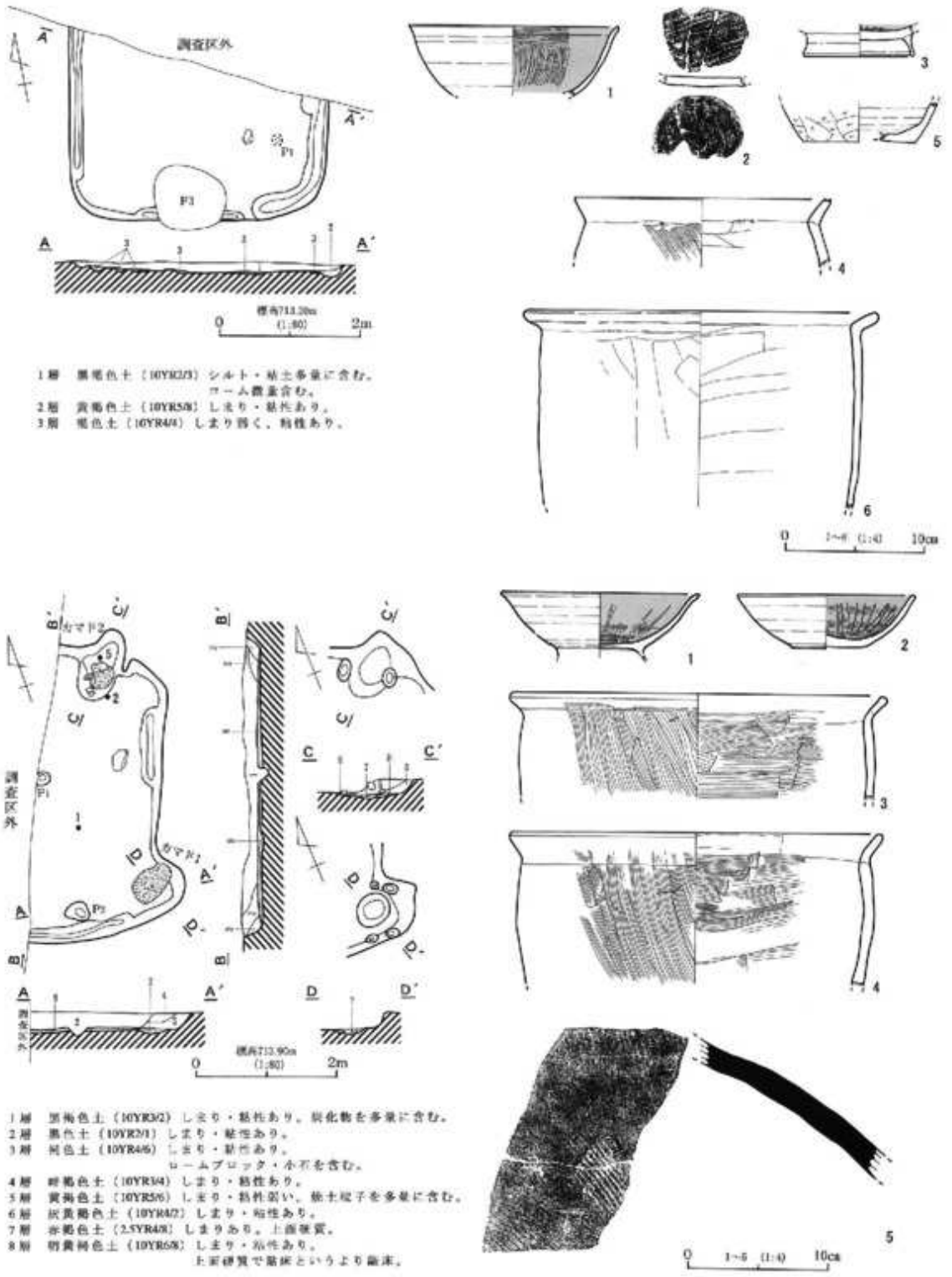
本址は調査区西側に位置し、西側半分が調査区域外となる。北壁東よりと南東コーナーにそれぞれカマドが検出された。南東側がNo.1カマド、北側がNo.2カマドである。いずれも袖部分は残存していなかったが、北のカマドは拳大の礫が散乱しており、袖部の構築材と考えられる。火床部は良く焼けていた。



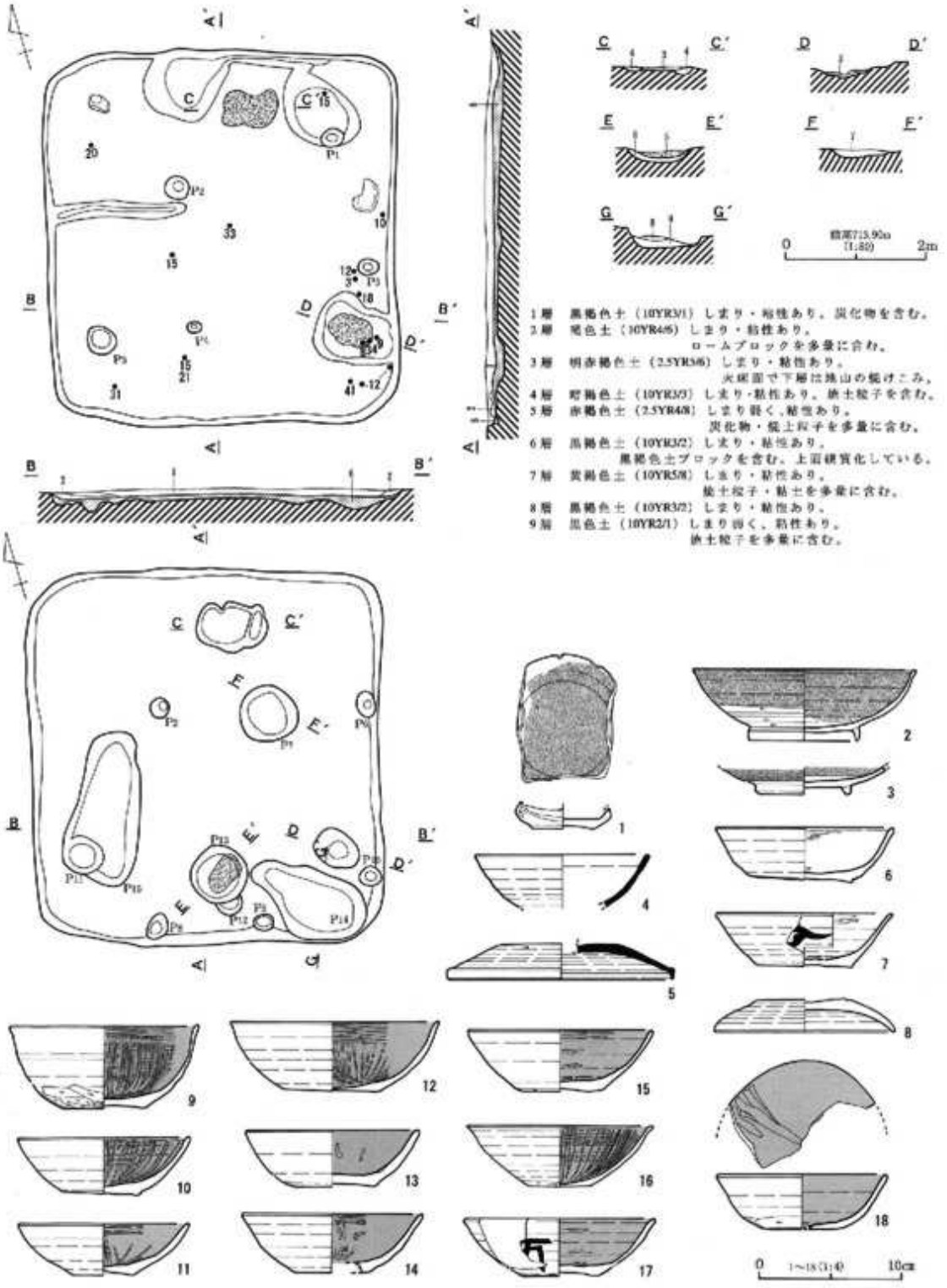
第21図　H2号住居址実測図



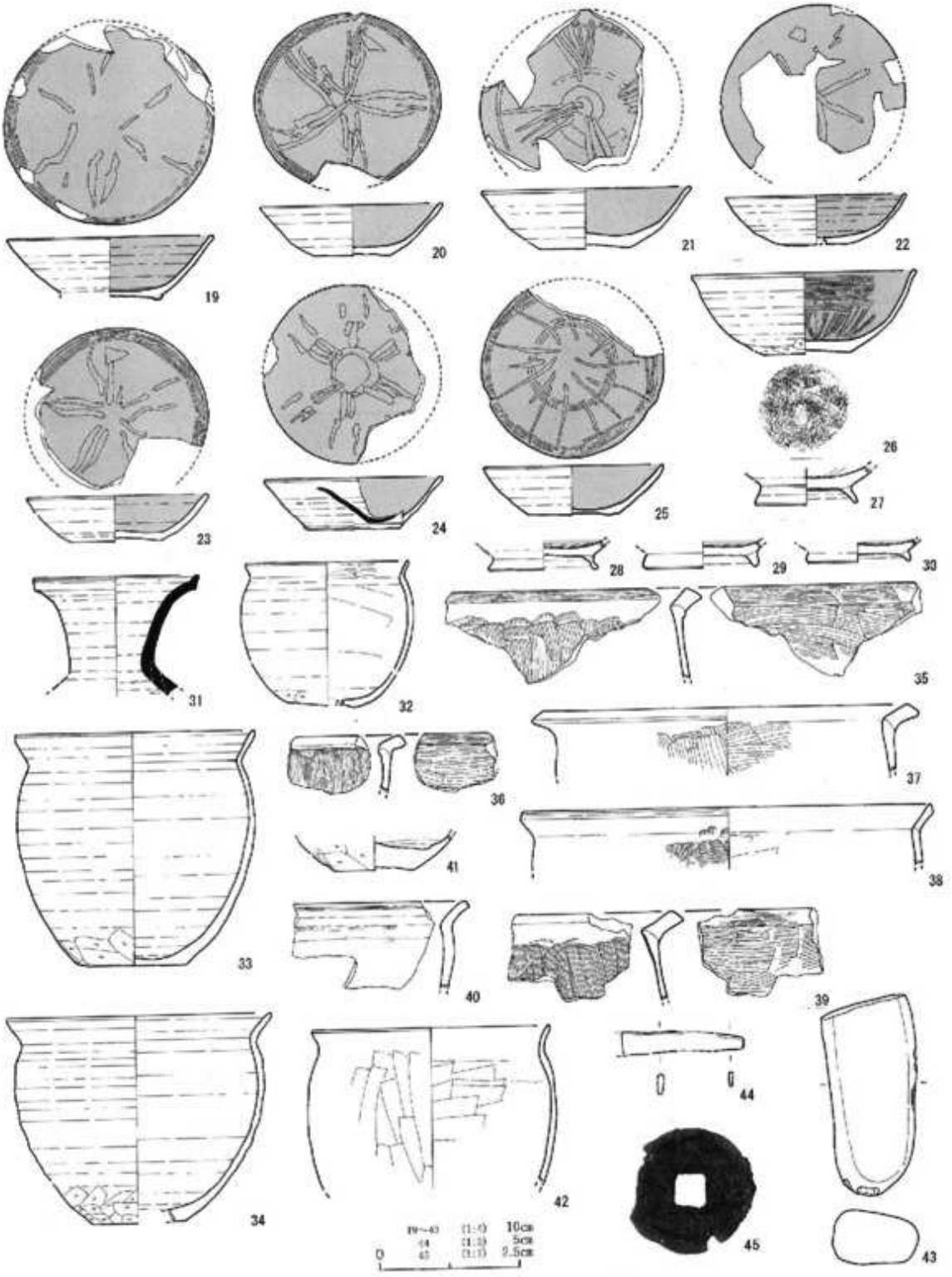
第22図　H2号住居址出土遺物実測図



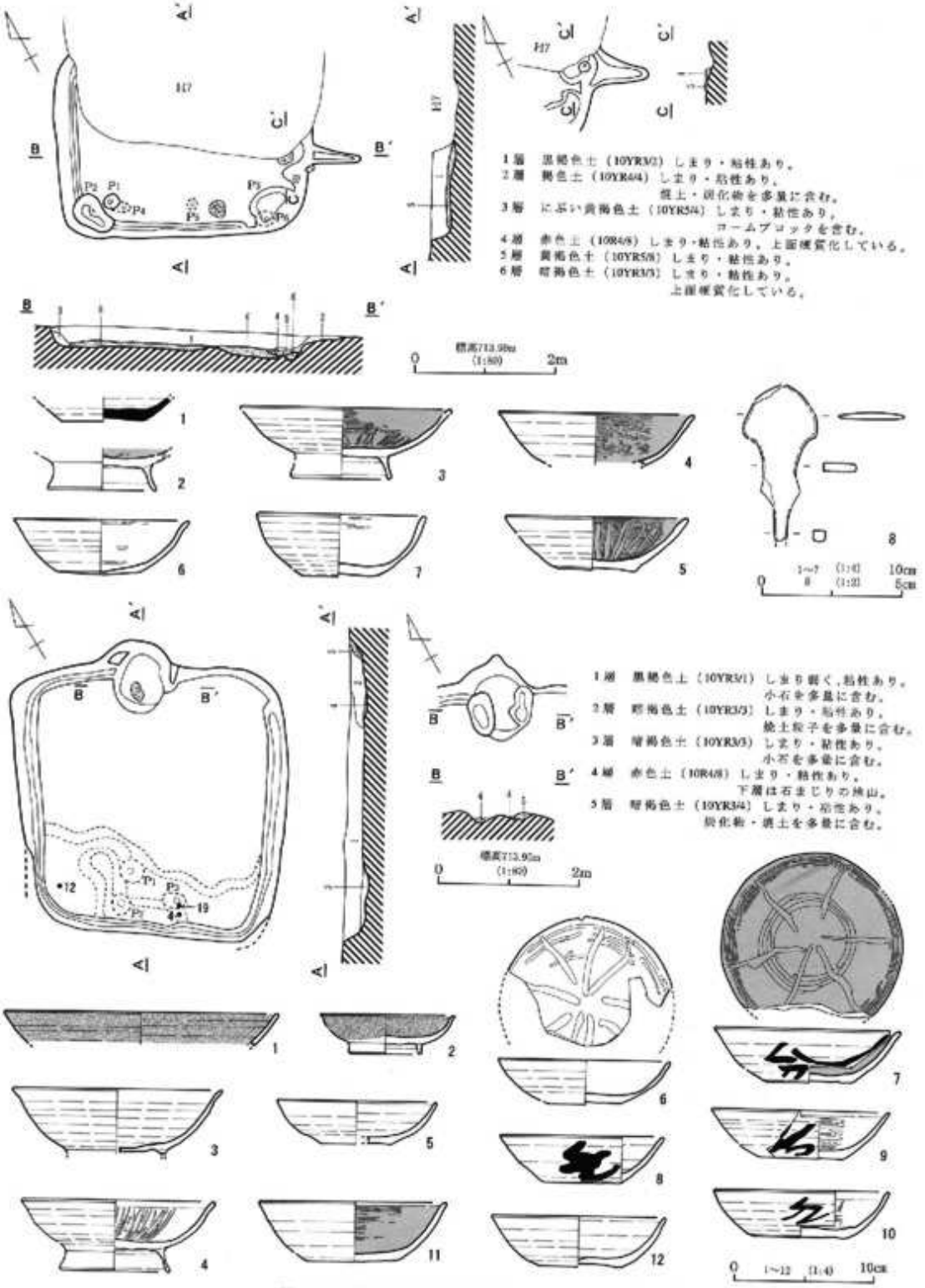
第23図　H3.H4号住居址及び出土遺物実測図



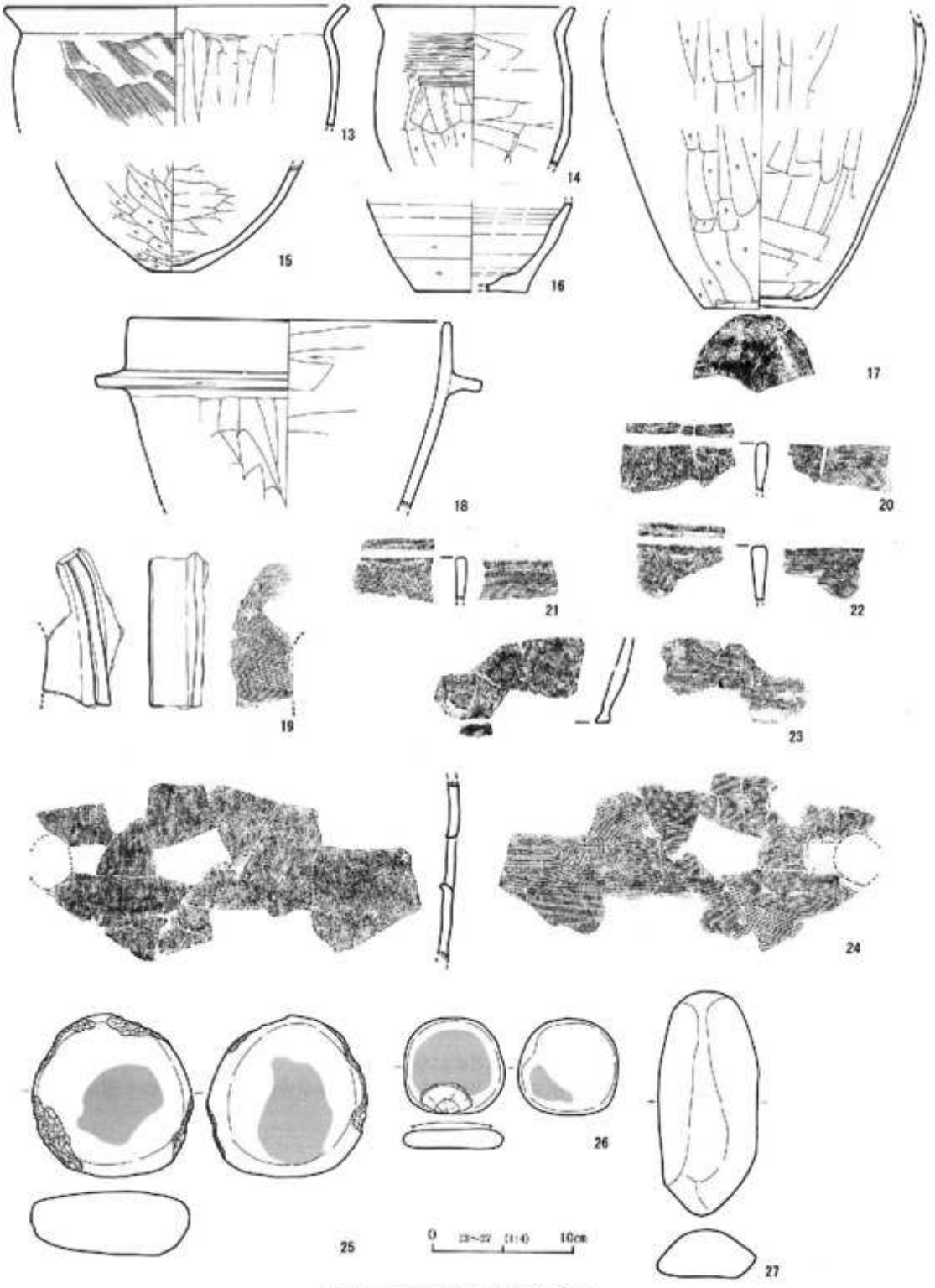
第24図　H5号住居址及び出土遺物実測図



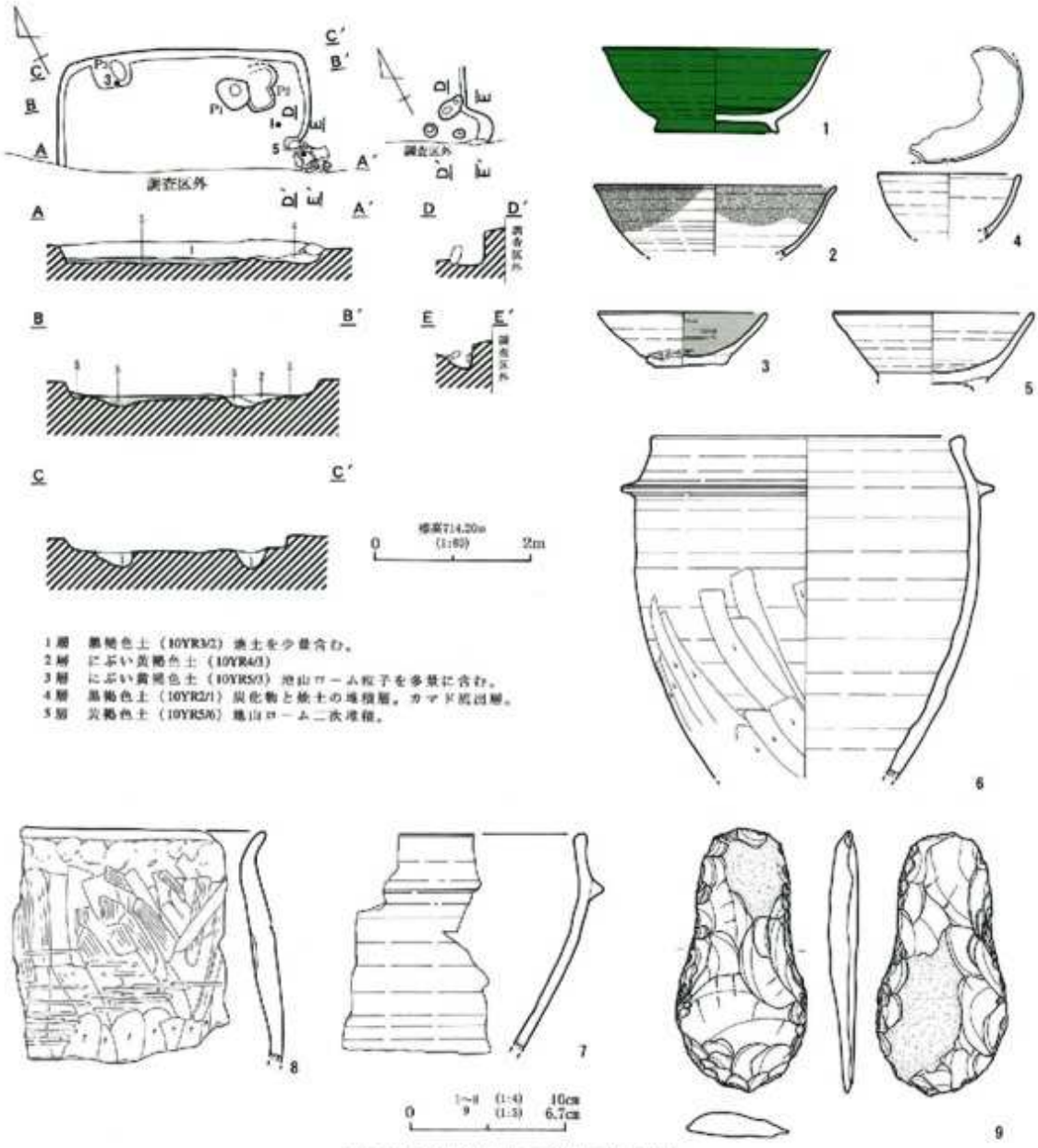
第25図　H5号住居址出土遺物実測図



第26図　H6.H7号住居址及び出土遺物実測図



第27図　H7号住居址出土遺物実測図

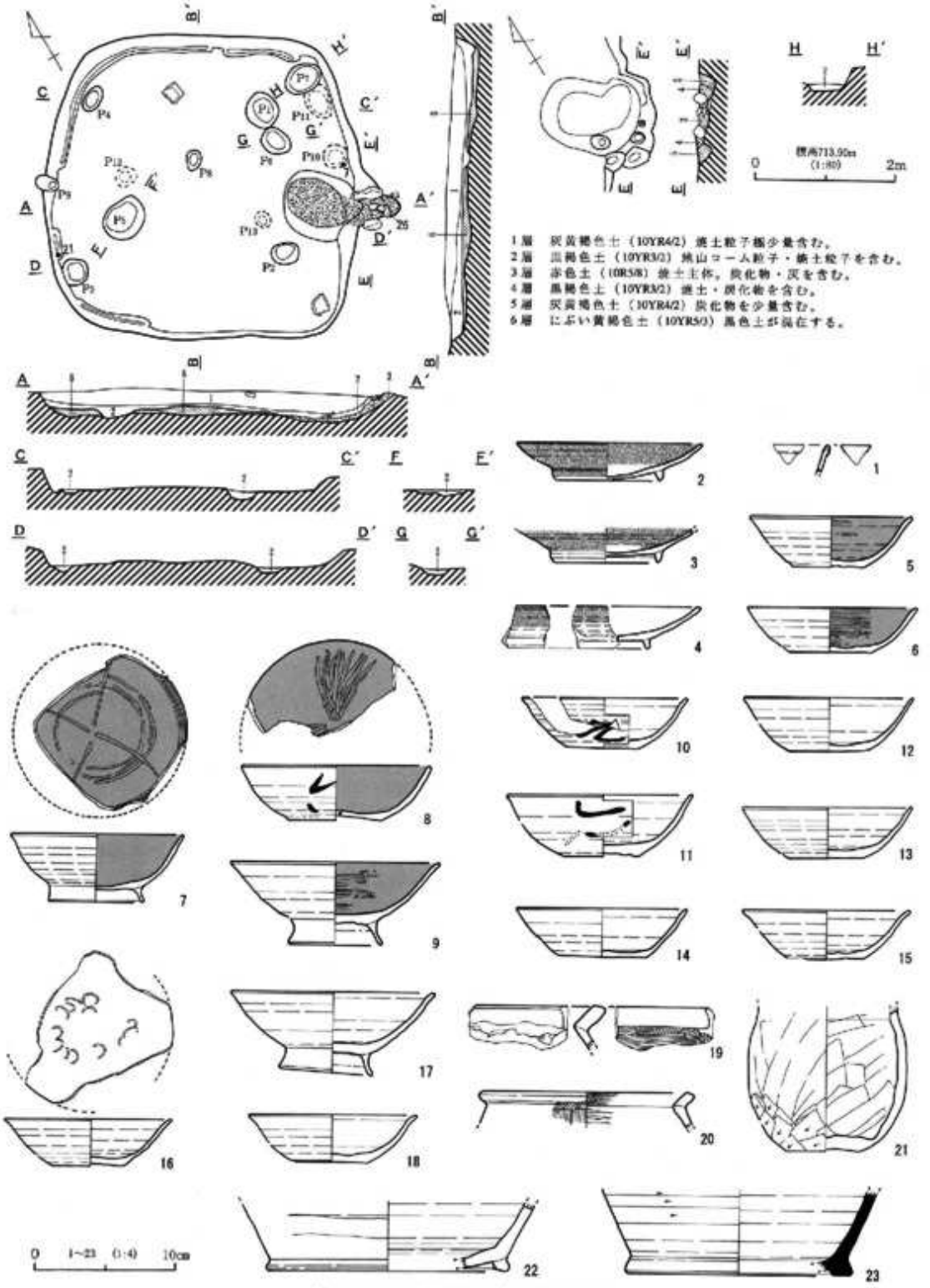


第28図　H8号住居址及び出土遺物実測図

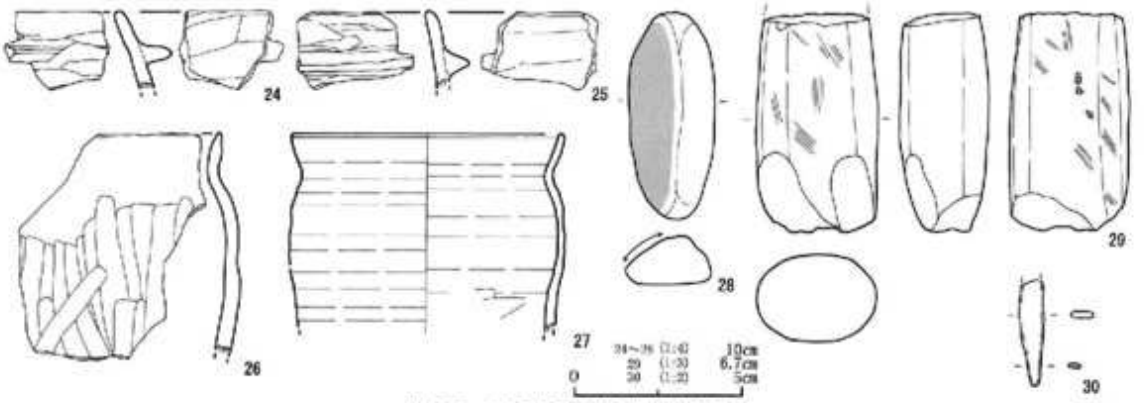
H4号住居址からの出土遺物はカマドから多く出土し、3と4はその特徴から甲斐型土器の甕に似る。本址は10世紀前半に位置づけられる。

（4）H５号住居址　（第24図，写真図版三）

本址は調査区のほぼ中央西よりに位置する。今回調査された平安期の住居址の中では遺物の出土量が非常に多かった。カマドは火床部のみの残存であったが、H4号住居址と同じく北壁側と南東コーナー付近に検出された。火床部は良く焼けていた。床は全体に貼られていたが軟質であり、主柱穴も確定できなかった。



第29図　H9号住居址及び出土遺物実測図



第30図　H9号住居址出土遺物実測図

H5号住居址からの出土遺物は多く、特に土師器の内黒坏が主体を占める。7.17.24に墨書があり、17は「万」の可能性がある。1は灰釉陶器の耳皿である。8は皿とも考えたが口縁部の形態より蓋として今回は報告する。また、35.36.37.39は甲斐型土器の厚口縁型甕に似る。本址はこれらの出土遺物より10世紀前半に位置づけられる。

（5）Ｈ６号住居址　（第26図，写真図版二）

本址はH7号住居址と重複関係にあり本址の方が古い。カマドは東壁にあり、煙道部が長く伸びるタイプのカマドである。袖等は確認されなかった。出土遺物は少なく、覆土中からの出土がほとんどであった。本址は10世紀の前半に位置づけられる。

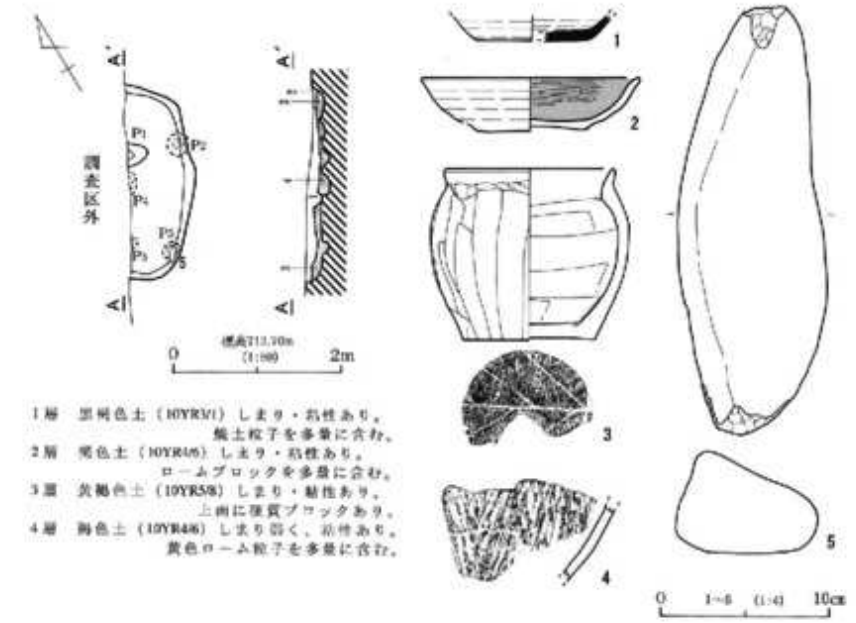
（6）Ｈ７号住居址　（第26図，写真図版四）

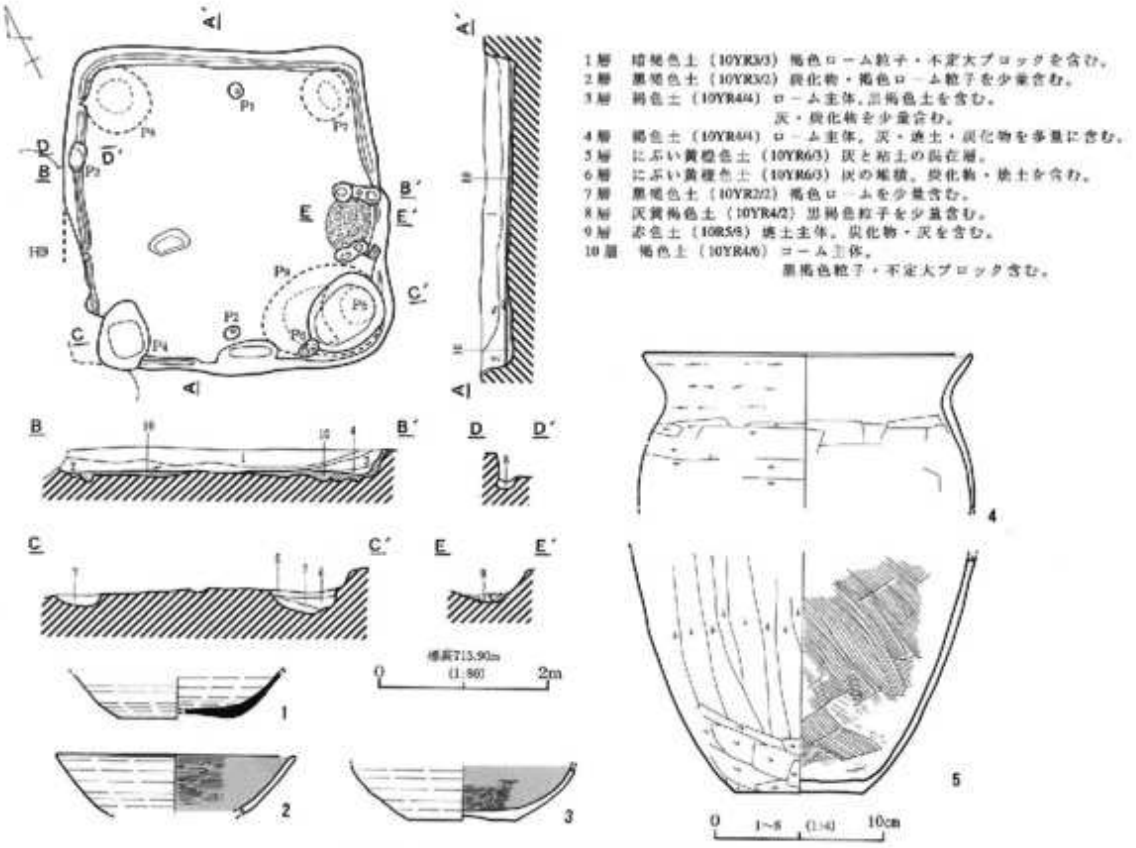
本址は調査区中央部に位置し、H6号住居址と重複関係にある。カマドは北壁中央にあり、北壁の一部を除いて壁溝がめぐる。床は地山を敲いたような床で、住居址中央部が硬質化していた。カマドの袖部は検出できず、小さな火床部が検出された。火床部は表面があまり硬質化しておらず使用頻度の低さが感じられた。ピットは掘り方時に3箇所が確認され、Ｐ1とＰ2は入り口ピットと考えられる。掘り方は南側が一段低く堀り込まれている。

出土遺物は比較的多く、覆土中からの出土であった。1と2は灰釉陶器、3～12は土師器坏類である。7～10は外面に墨書が確認できるが、いずれも判読は不明である。13～17は土師器甕である。13は甲斐型土器甕に似るが内面にハケ目成形がない。18は羽釜である。胎土は良く精錬され、色調は明るい橙色を呈する。19～24は竈形土器の破片である。この他に接合関係が見いだせない破片が6片ある。胎土は赤色に近く金色雲母を含む。19は焚口部で庇は粘土を貼付している。20～22は掛け口部の破片で、口唇部は軽い面取りが行われている。23は基部破片と考えられ、基底部が重みのかかったように変形している。24は胴部の破片で焼成前の穿孔がある。いずれの破片も外面縦方向、内面横方向の細かなハケ目によるナデが施されている。顕著な煤の付着は見受けられない。これらの竈形土器はその特徴から甲斐型土器の範疇に含まれると考えられる。本址はこれらの出土土器から10世紀後半に位置づけられる。

（7）Ｈ８号住居址　（第28図，写真図版四）

本址は調査区の南端に位置し、南側半分が調査区域外となる。カマドは東壁に造られており袖は礫を使用している。出土遺物はあまり多くない。1は緑釉陶器碗で、胎土から東濃系と考えられる。4は土師器坏であるが意図的なゆがみが指向されている。6と7は羽釜で、良く焼成されており色調が須恵器質となる部分もある。本址はこれらの出土遺物より10世紀後半に位置づけられる。





第31図　H10.H11号住居址及び出土遺物実測図

（8）Ｈ９号住居址　（第29図，写真図版五）

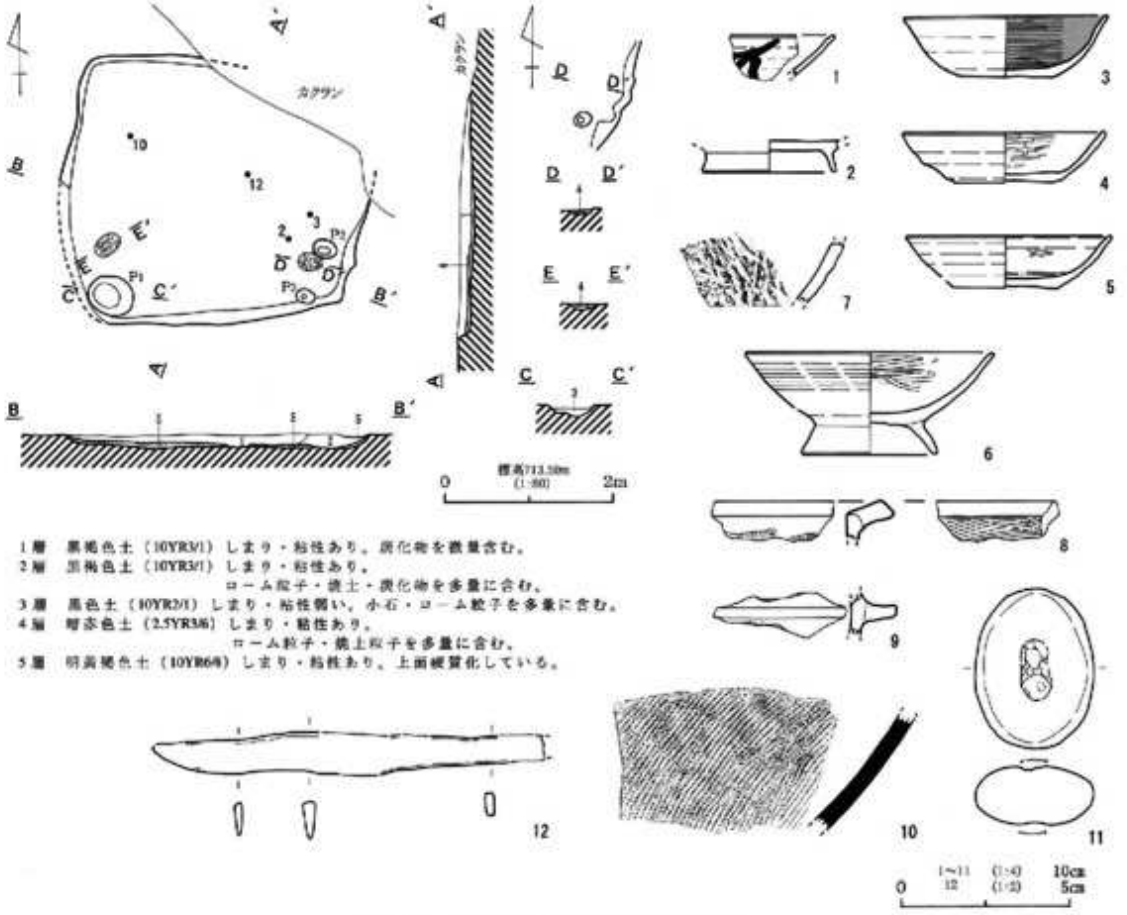
本址は調査区南側に位置する。H11号住居址と重複関係にあり本址の方が新しい。カマドは東壁中央に造られている。ピットは全体で13箇所検出され、Ｐ1～4が主柱穴、Ｐ9が入り口施設と考えられる。床面は住居中央を中心に硬質であった。壁溝は北壁と南壁の一部にめぐる。カマドは煙道部が住居址外にやや飛び出るタイプで、煙道の部分には石を構築材として使用していた。火床部は良く焼けて硬質化していた。本址からの出土遺物は多く、主に覆土中とカマドから出土した。1は白磁碗の口縁部で口唇部が玉縁状を呈する。Ⅰ・Ⅱ類と考えられる。2～4は灰釉陶器皿である。5～18は土師器の坏で8と10.11に墨書が確認できるが判読不明。19.20は小型の土師器甕口縁部であるが、形態と調整が甲斐型土器に似る。22は灰釉陶器壺、23は須恵器壺のそれぞれ底部である。29は磨製石斧の欠損品と考えられる。本址はこれらの出土遺物より10世紀前半に位置づけられる。

（9）Ｈ10号住居址　（第31図，写真図版四）

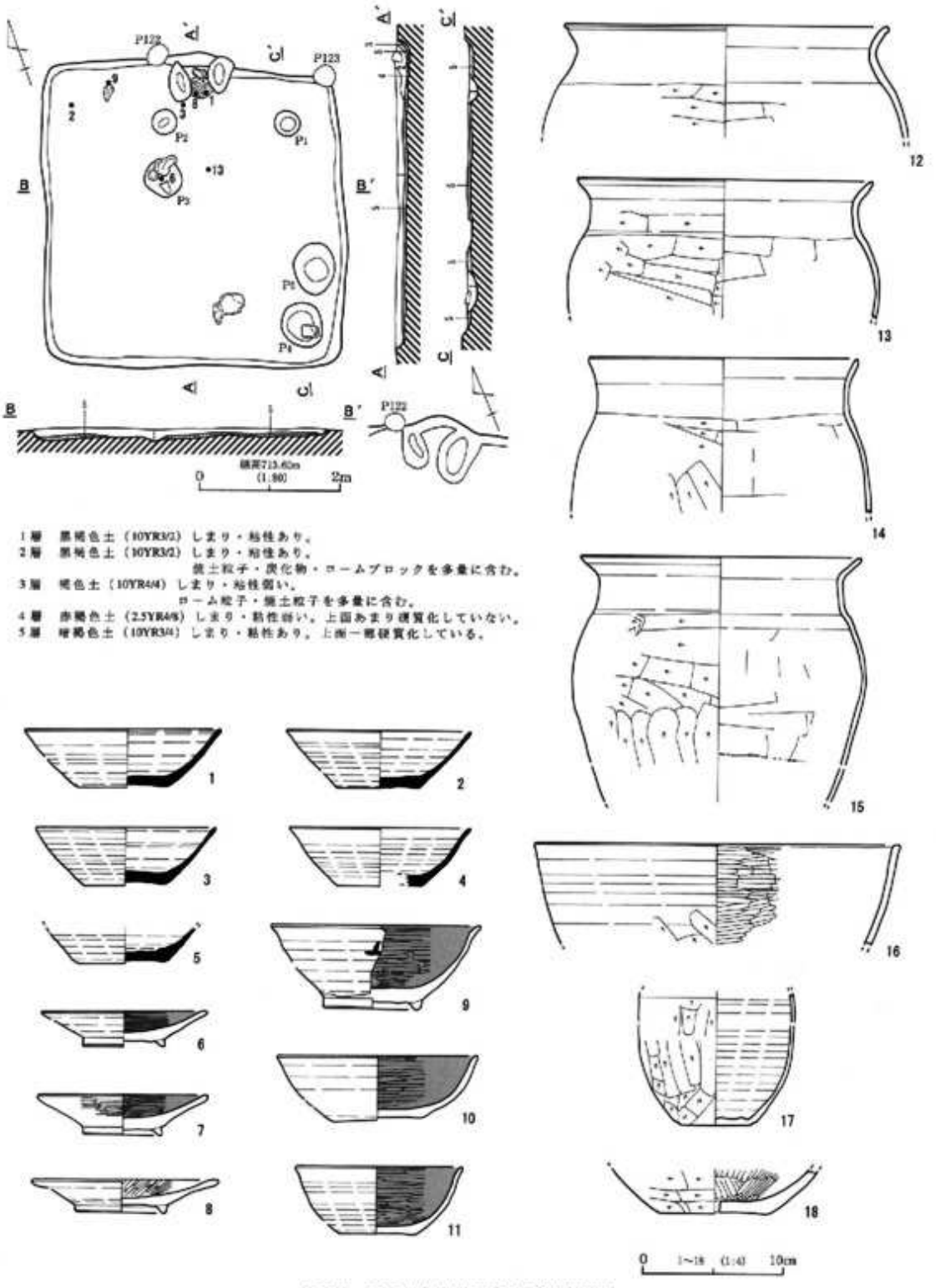
本址は調査区の西端に位置する。床面が存在したため住居址としたが規模は非常に小さい。遺物はいずれも覆土中からの出土であり、4は土師器甕と考えられるが須恵器の敲き技法が観察できる。本址はこれらの遺物より10世紀代に位置づけられると考える。

（10）Ｈ11号住居址　（第31図，写真図版五）

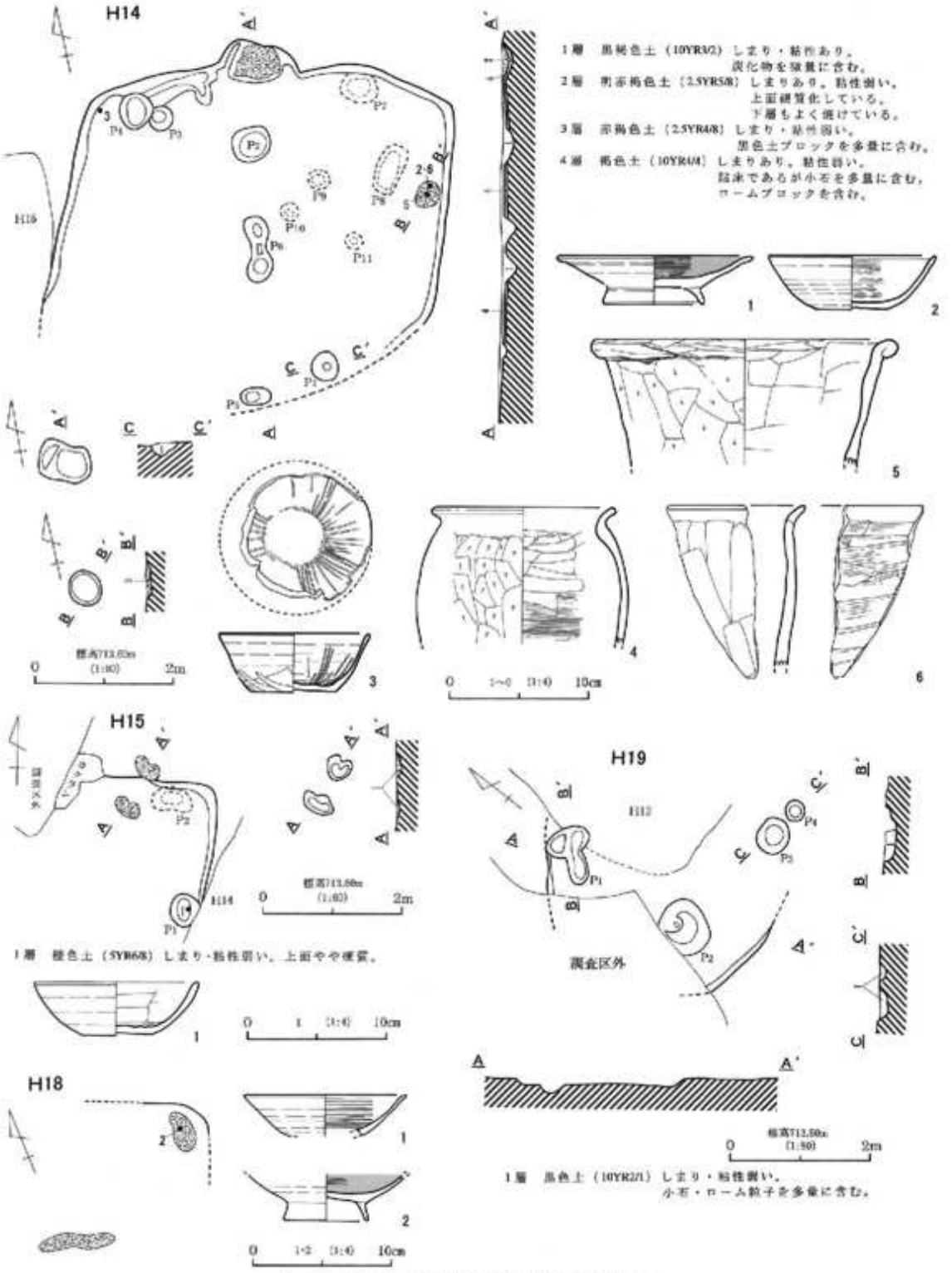
本址は調査区南側に位置し、H9号住居址と重複関係にある。カマドは東壁中央に造られている。



第32図　H12号住居址及び出土遺物実測図



第33図　H13号住居址及び出土遺物実測図



第34図　H14.15.18.19号住居址及び出土遺物実測図

H11号住居址の壁溝はほぼ全周する。また住居四隅に土坑状の掘り込みが確認された。本址からの出土遺物は少なかった。よって所産時期も不明である。

(11) H12号住居址　(第32図，写真図版六)

本址は調査区の北西隅に位置する。焼土は2箇所床面上に確認されたがカマドは不明である。出土遺物は12点図示できた。本址は10世紀前半に位置づけられる。

(12) H13号住居址　(第33図，写真図版五)

本址は調査区の北寄りに位置し、H16号住居址と重複関係にあり本址の方が新しい。北壁中央にカマドがあり、火床部のみ残存していた。床は貼床が施されていたが軟質で床面上に大型の礫が散在していた。出土遺物は比較的多く須恵器坏と土師器坏が共に出土した。土師器甕は武蔵甕のみであった。本址はこれらの出土遺物より9世紀後半に位置づけられる。

(13) H14号住居址　(第34図，写真図版六)

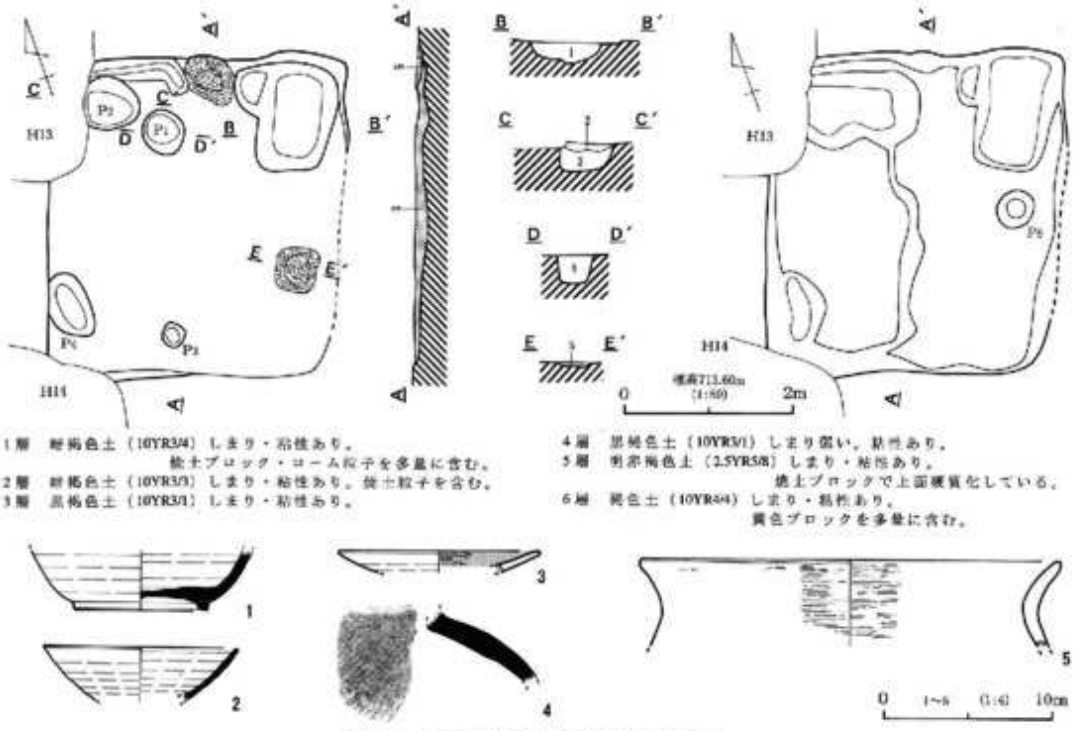
本址は調査区中央西よりに位置する。北壁と東壁にそれぞれ火床部があり、壁ラインも不確定のため或いは2軒が重複しているとも考えられる。出土遺物は少なく、3は甲斐型坏に形態がよく似る。

(14) H16号住居址　(第35図，写真図版六)

本址は調査区の中央北寄りに位置する。北壁と東壁にカマドの痕跡と考えられる火床部が確認された。出土遺物は少ないが、本址は9世紀後半に位置づけられる。

(15) H15.18.19号住居址　(第34図，写真図版六)

これら3軒の住居址は残存状況が良くなく、住居址の詳細は不明である。



第35図　H16号住居址及び出土遺物実測図

第表 竪穴住居址一覧表

(残存)　(推定)

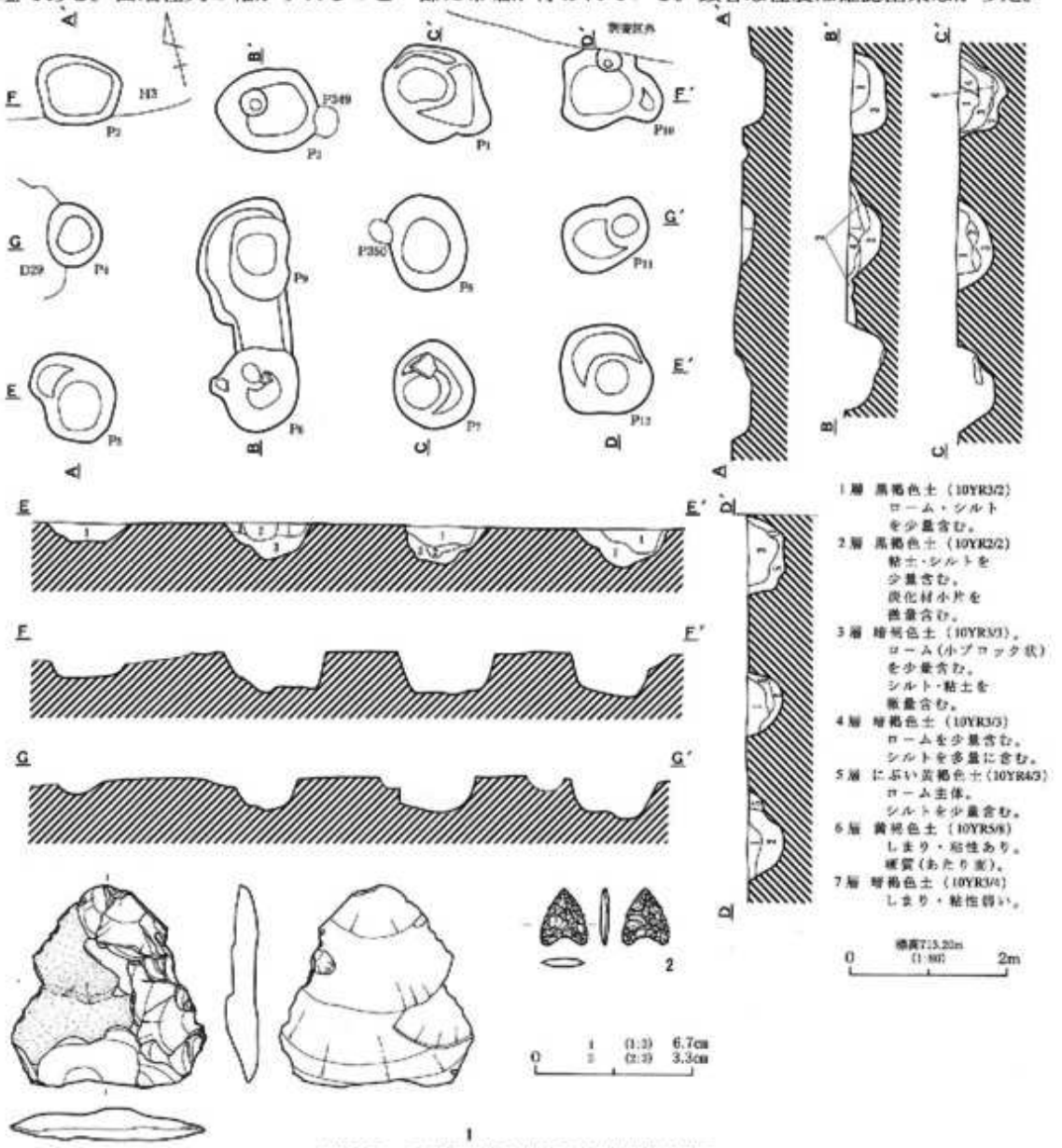
遺構名	検出位置	形態	規模(cm) 壁長		壁高	底床	壁溝 幅	壁溝 深さ	面積(㎡)	主軸方位	かまど(cm) 位置	袖遺長 長さ	袖遺長 幅	焼土厚	方位	柱穴 (径・深さ)	備考・時期
H1	ｺ-13・14 ｴ-13・14	円形	北440	西404	42	18	22～50	3～22	23.2	N-16° -W	炉 中央北より	長軸96	短軸87	10	N-70° -E	①44・19 ②38・45 ③48・53 ④62・24 ⑤37・125 ⑥70・42 ⑦50・59 ⑧25・43 ⑨44・31 ⑩40・44 ⑪38・22 ⑫36・14 ⑬30・18 ⑭35・19 ⑮27・26 ⑯38・20 ⑰24・8 ⑱37・14 ⑲28・11 ⑳16・15	P14～20ホリ方 縄文中期後半
			南485	東427													
H2	ｼ 12・13 ｺ-12・13 ｴ-12・13	長方形	北476	西333	33	18	17～23	5～7	17.3	N-70° -W	北・中央	－	有 12 左 15	4	N-70° -W	①100・21 ②37・24 ③30・12 ④47・31 ⑤162・22 ⑥52・15 ⑦41・13 ⑧34・13 ⑨30・18 人口主坑　82×68×11	P5～9ホリ方 9世紀後半
			南412	東382													
H3	ｹ 8 ｹ-7・8	－	北 －	西(264)	9	9	17～38	1～9	(6.7)	N-12° -E	－					①15・28	F3・P3に切られる 10世紀前半
			南313	東(145)													
H4	ｹ 9・10 ｺ-9・10	－	北(152)	西 －	29	6	18～35	1～8	(5.1)	N-24° E	(1)南東	51	－	7	N 68° -W	①20・15 ②32・12	西、調査区外 10世紀前半
			南(175)	東331							(2)北	53	－	6	N-35° -E		
H5	ｹ-10 ｹ-10・11 ｺ-10・11	方形	北476	西468	15	9	18～25	3～8	23.4	N-18° E	(1)東	－	－	7	N-68° -W	①33・13 ②33・26 ③42・20 ④20・9 ⑤30・11 ⑥37・26 ⑦80・11 ⑧39・23 ⑨28・18 ⑩32・10 ⑪59・17 ⑫38・6 ⑬80・15 ⑭175・18 ⑮214・19	P8～12ホリ方 焼土8cm 10世紀前半
			南417	東474							(2)北			6	N-22° E		
H6	ｹ-12 ｻ 11・12	－	－	西(250)	27	7	17～32	2～5	(3.8)	N-61° W	東	88	右 4 左 －	8	N-58° W	①25・18 ②63・20 ③72・15 ④18・17 ⑤16・18 ⑥27・13	P4～6ホリ方 10世紀前半
			南308	東(135)													
H7	ｹ 11・12 ｺ-11・12	方形	北361	西318	25	8	12～41	1～9	12.3	N 29° -E	北・中央	55	右 11 左 －	8	N 31° -E	①36・12 ②30・17 ③33・8	P1～3ホリ方 10世紀後半
			南285	東362													
H8	ｹ-13・14 ｺ-13・14		北300	西(130)	20	6	－		(4.4)	N-64° W	東	40	－	－	N-65° W	①43・15 ②60・10 ③48・22	南、調査区外 10世紀後半
			南	東(148)													
H9	ｹ 11・12 ｺ-11・12 ・13	方形？	北330	西380	31	16	15～33	1～3	15.3	N-59° W	東・中央	78	－	7～15	N-67° -W	①48・14 ②40・10 ③38・11 ④39・8 ⑤66・10 ⑥44・11 ⑦55・11 ⑧28・9 ⑨33・34 ⑩36・23 ⑪48・14 ⑫32・18 ⑬23・10	P10～13ホリ方 10世紀前半
			南336	東400													
H10	ｹ-7・8	－	北(62)	西 －	8	10			(1.2)	－	－					①(27)・14 ②27・17 ③22・17 ④(28)・7 ⑤(4)・13	P2～5ホリ方 10世紀代
			南(38)	東206													
H11	ｹ-12 ｹ-11・12 ・13	方形	北320	西(307)	33	6	13～40	1～13	(12.1)	N 25° -E	東・中央	－	－	10	N-65° -W	①17・21 ②19・15 ③33・28 ④82・34 ⑤100・27 ⑥27・12 ⑦60・30 ⑧60・15 ⑨148・27	P7～9ホリ方 119 (P5) に切られる 時期不明
			南(29)	＊(360)													
			＊(364)	東345													
H12	ｹ-4・5	方形	北(146)	西308	10	11	－		(8.6)	N 89° -W	南東コーナー				N 61° -W	①57・18 ②29・6 ③23・11	西の焼土7cm 10世紀前半
			南288	東(122)													
H13	ｾ-6 ｹ-6・7 ｹ-7	方形	北400	西307	16	3	－		16.5	N-18° E	北・中央	－	－	4	N-20° -E	①35・18 ②35・21 ③55・29 ④66・17 ⑤74・18	P12・P123に切られる 9世紀後半
			南400	東396													
H14	ｹ-7・8・9 ｹ-7・8・9	？	北510	西(202)	9	7	22～44	3～8	(21.8)	N-21° -E	北・中央		－	10	N-15° -E	①42・21 ②67・14 ③37・6 ⑤51・18 ⑥42・10 ⑦94・22 ⑦55・15 ⑧70・12 ⑨31・5 ⑩27・12 ⑪25・20	P7～11ホリ方 炭、焼土層7cm (H15に切られる) 9・10世紀2軒重複？
			南 －	東(315)													
H15	ｹ-7・8 ｹ-7・8	－	北(154)	西 －	5	11	－		－	－	焼土 北	36×34		8		①48・10 ②57・13	P2はホリ方 時期不明
			南 －	東(168)							焼土 南	50×28		4			
H16	ｹ-7・8 ｹ 7・8	方形	北(303)	西(206)	10	15	24～28	3～7	(11.9)	N 22° -E	北	－	－	7		①54・39 ②(68)・39 ③30・10 ④82・21 ⑤48・21 床下上層　130・124・27	H13・H14に切られる 9世紀後半
			南(254)	東(336)							東	－	－	7			
H17	ｾ-9・10 ｺ-9・10	？	北(326)	西246	14	9	－		(8.1)	N-49° -W	ｻ			S	焼土から N-52° W	①26・7 ②19・13 ③43・16 ④24・6 ⑤19・13 ⑥33・21 ⑦20・8	P440・441・455に切られる 縄文前期
			南328	東(40)													
				＊(227)													
H18	ｹ-12	－	北	西 －	－	－			－	－	焼土 北	58×34		2			H12に切られる 10世紀前半
			南 －	東 －							焼土 南	100×23		3			
H19	ｹ-5 ｹ-5	－	北 －	西(70)	10	6	－		－							①64・22 ②78・31 ③63・18 ④29・14	時期不明
			南(135)	東 －													

4．掘立柱建物址

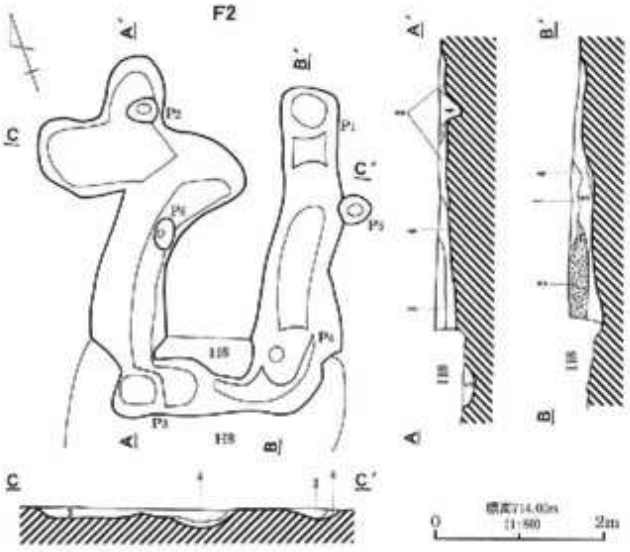
今回の調査では掘立柱建物址が4棟検出された。形態は3類あり、まず1類としてＦ1号掘立柱建物址が示す総柱式掘立柱建物址、次に2類がＦ3.4号掘立柱建物址のような側柱式掘立柱建物址、そして3類が柱穴間が布堀りで繋がったような掘立柱建物址がＦ2号掘立柱建物址とＤ43.44.46.49号土坑として報告した一画も掘立柱建物址の可能性がある。以下各掘立柱建物址について概略を記す。

(1) Ｆ1号掘立柱建物址　（第36図，写真図版七）

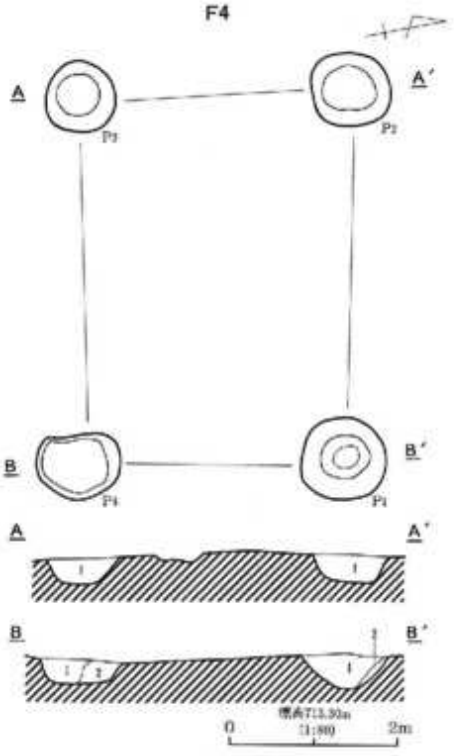
本址は調査区の北端に位置する。ほぼ全体が調査され東西方向に桁行をもつ2間×3間の掘立柱建物址である。西端柱列の軸がずれるのと一部に布堀が行われている。顕著な柱痕は確認出来なかった。



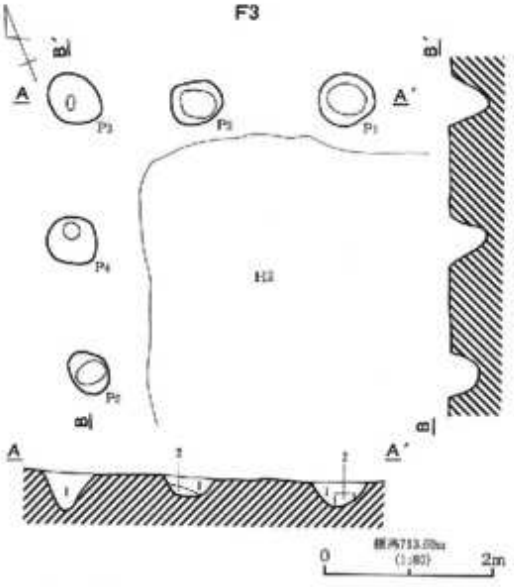
第36図　Ｆ1号掘立柱建物址及び出土遺物実測図



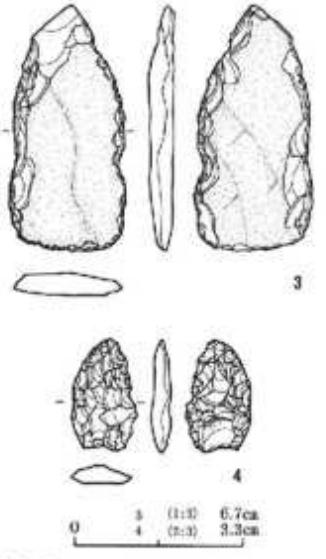
1層　黒色土（10YR2/1）焼土粒子・炭化物を少量含む。
2層　赤色土（10R4/8）焼土を多量に含む。
3層　灰黄褐色土（10YR4/2）褐色のローム粒子を少量含む。
4層　黒褐色土（10YR3/2）炭化物を少量含む。
5層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）地山ローム粒子を多量に含む。



1層　黒褐色土（10YR3/2）しまり・粘性あり。
小石・炭化物を多量に含む。
2層　褐色土（10YR4/6）しまり・粘性弱い。
黄色ブロック・小石を含む。



1層　黒褐色土（10YR3/2）しまり・粘性あり。
小石を多量に含む。
2層　褐色土（10YR4/6）しまり弱く、粘性あり。
ロームブロックを多量に含む。



第37図　F2.3.4号掘立柱建物址及び出土遺物実測図

また、西端の柱列は他の物に比べて深さが浅く、或いは西側の片側庇の可能性もある。

F1号掘立柱建物址からの出土遺物は少なく、図示した石器類の他にはP1から須恵器坏片、P5からいわゆる武蔵甕の土師器甕片、P7から土師器甕片、P8から内面黒色処理の土師器坏片がそれぞれ出土している。よって本址の時期は10世紀前半に位置づけられるH3号住居址よりは新しいことから平安時代後半が想定できる。

(2) F2号掘立柱建物址　(第37図，写真図版七)

本址は調査区の南側に位置する。H8号住居址と重複関係にあり、本址の方が古い。形態は「コ」の字の様な掘り込みにピットを配するような掘立柱建物址であまり規則性は感じられない。覆土中に焼土層を持つのが特徴で炭化物も少量含まれる。顕著な柱痕は確認出来なかった。

出土遺物は図示した石器2点と小片であるが縄文中期の土器片20点程が出土し、古代の土器片は混ざらなかった。これらのことから本址の帰属時期は縄文中期の可能性を指摘できる。また、先に述べたようにD43.44.46.49号土坑も各土坑として調査したが、平面形態からはF2号掘立柱建物址に近似し、同じように縄文時代の掘立柱建物址とすべき遺構とも考えられる。

(3) F3号掘立柱建物址　(第37図，写真図版七)

本址は調査区中央南側で検出された。H2号住居址と重複関係にあり本址の方が古い。残存状況は北辺と西辺の柱列のみである。出土遺物はP2より土師器坏片、P4から縄文中期土器片がそれぞれ出土したのみである。これらのことから本遺構の帰属時期は不明である。

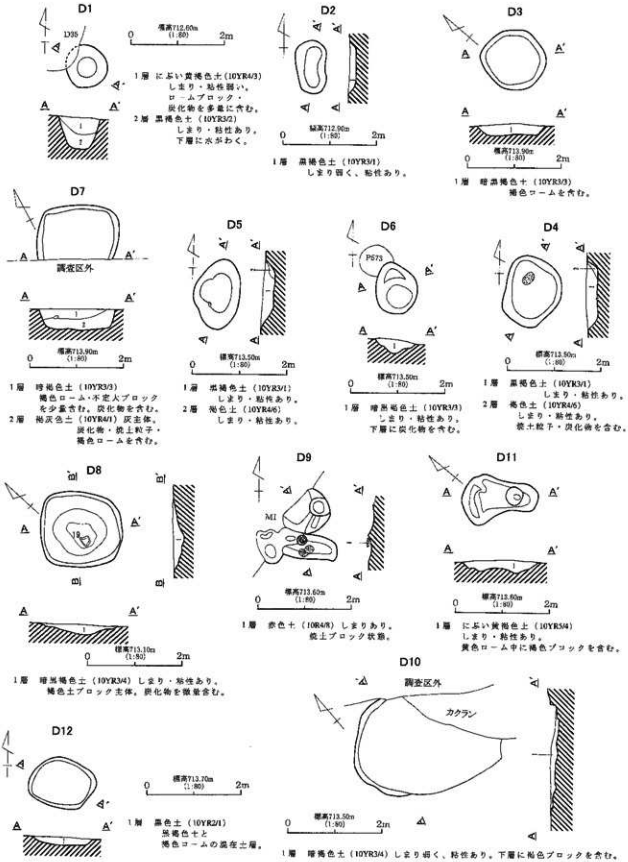
(4) F4号掘立柱建物址　(第37図，写真図版七)

本址は調査区北より中央で検出された。規模は1間×1間の側柱式掘立柱建物址と考えられ、柱穴はほぼ円形である。柱痕は確認出来なかった。出土遺物はP2から縄文土器片と土師器片、P3より縄文土器片がそれぞれ出土している。よってこれらのことから本遺構の帰属時期は不明である。

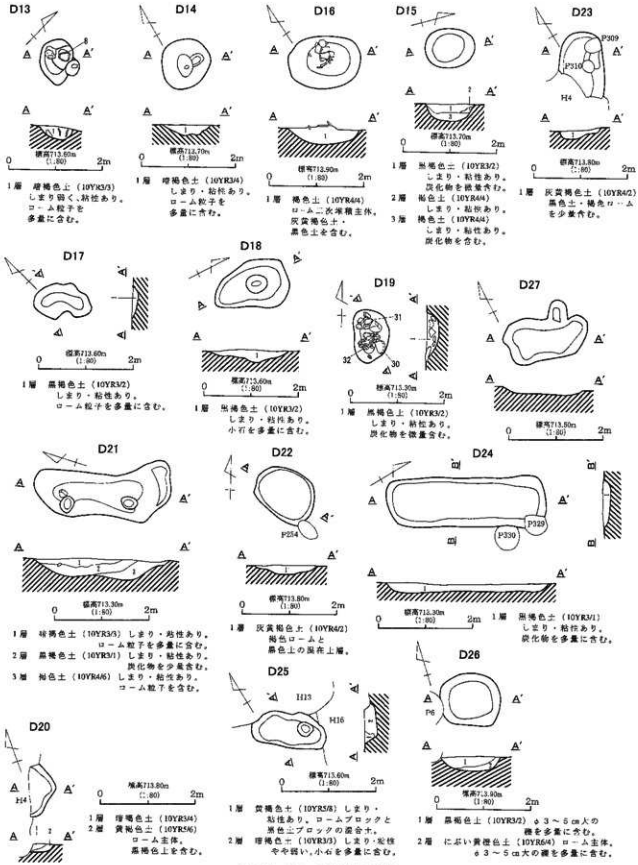
(残存)　(復元)

遺構名	検出位置	形態	間数(間)	桁行長(m)	梁行長(m)	面積(㎡)	方位	桁行柱間寸法(m)	梁行柱間寸法(m)	柱穴(長×短×深)(cm)	備考
F 1	ｷ-8・9 ｸ-8・9 ｹ-8・9	長方形	2×3 総柱	6.80 P5～P12	3.94 P3～P5	25.7	N-76°-W	P1～P10　2.37 P2～P1　2.12 P3～P2　2.22 P4～P9　2.23 P5～P6　2.24 P6～P7　2.12 P7～P12　2.44 P8～P11　2.40 P9～P8　2.21	P1～P8　1.80 P2～P9　1.50 P3～P4　1.86 P4～P5　2.08 P8～P7　1.95 P9～P6　1.55 P10～P11　1.76 P11～P12　1.89	①147×120×59 ②128×106×50 ③108×90×33 ④80×70×17 ⑤121×100×28 ⑥115×108×55 ⑦108×102×47 ⑧125×97×47 ⑨105×73×40 ⑩133×(102)×57 ⑪114×88×31 ⑫115×112×49	P9～P6は有もち。 H3-D29-P349-P350に切られる。
F 2	ｹ 12・13 ｺ-12・13	？	1×2 側柱	3.30 P2～P3	1.98 P1～P2	5.6	N-21°-E	P1～P3　1.31 P2～P6　1.46 P3～P4　1.82 P6～P3　1.81	P1～P2　1.98 P3～P1　1.67	①70×58×8 ②34×28×22 ③58×26×26 ④48×60×15 ⑤38×33×21 ⑥38×23×22	全体に有もち。 H8に切られる。
F 3	ｴ-11・12 ｵ-11・12	-	2×2 側柱	3.30 P1～P3	3.20 P3～P5		N-66°-W	P1～P2　1.79 P2～P3　1.51	P3～P4　1.50 P4～P5　1.70	①65×62×31 ②60×53×24 ③70×60×47 ④60×54×46 ⑤57×45×35	H2に切られる。
F 4	ｺ 8・9 ｴ-7・8	長方形	1×1	4.38 P1～P2	3.25 P2～P3	14.0	N-79°-W	P3～P4　4.33	P1～P4　3.18	①103×100×31 ②94×87×37 ③85×85×32 ④100×80×32	

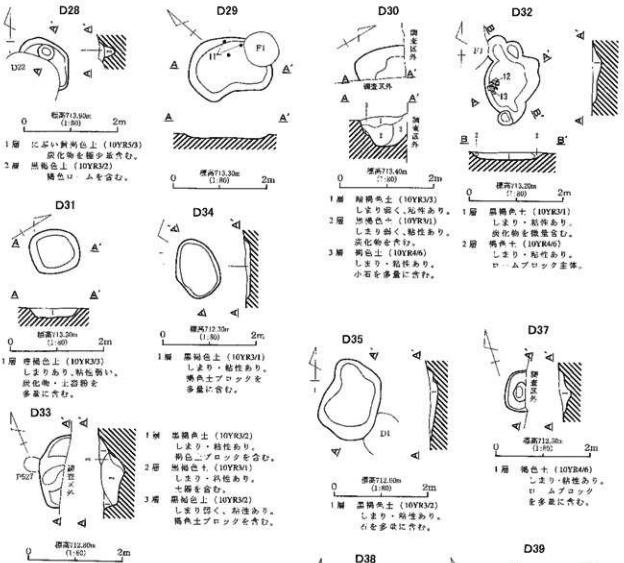
第4表　掘立柱建物址計測一覧表



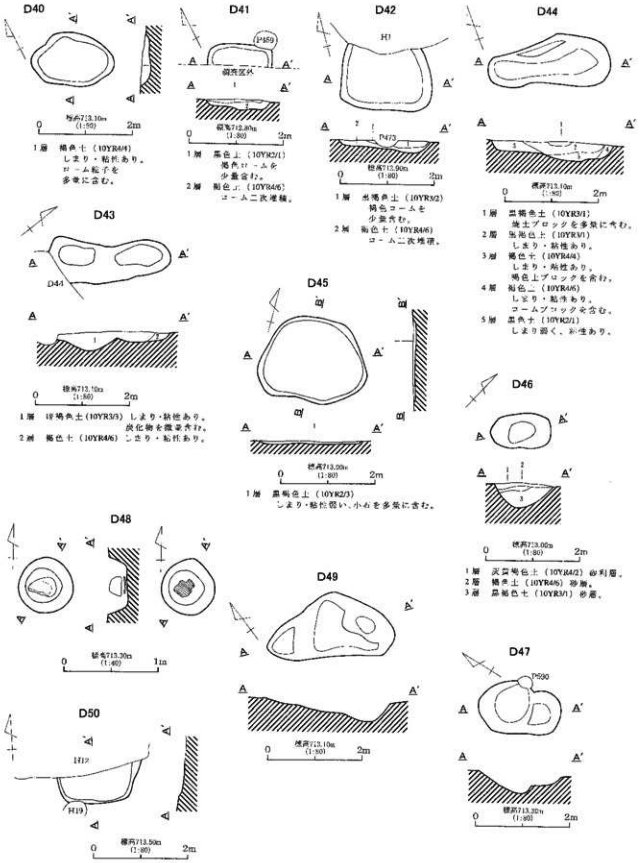
第38図　D1～12号土坑実測図



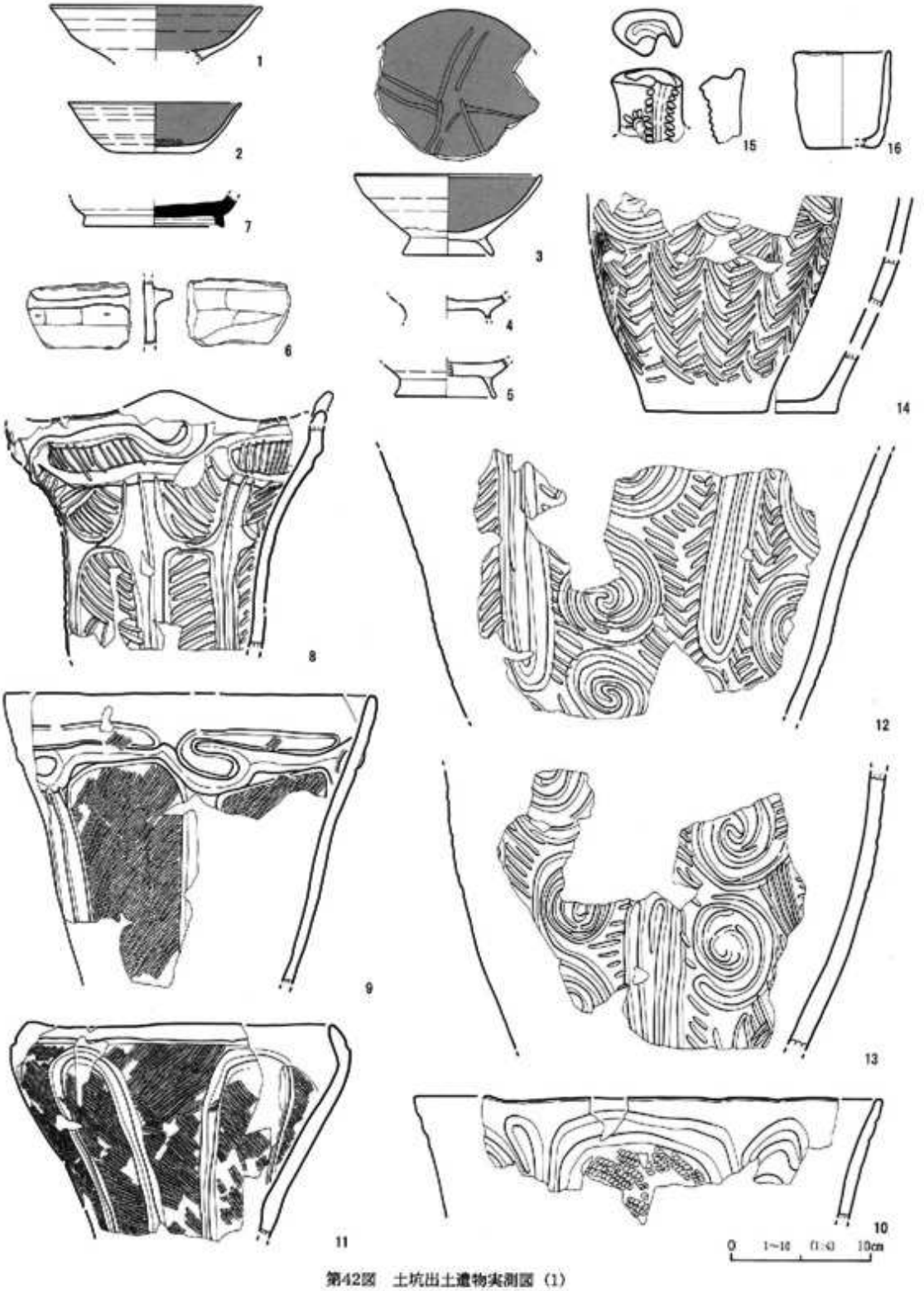
第39図　D13～27号土坑実測図



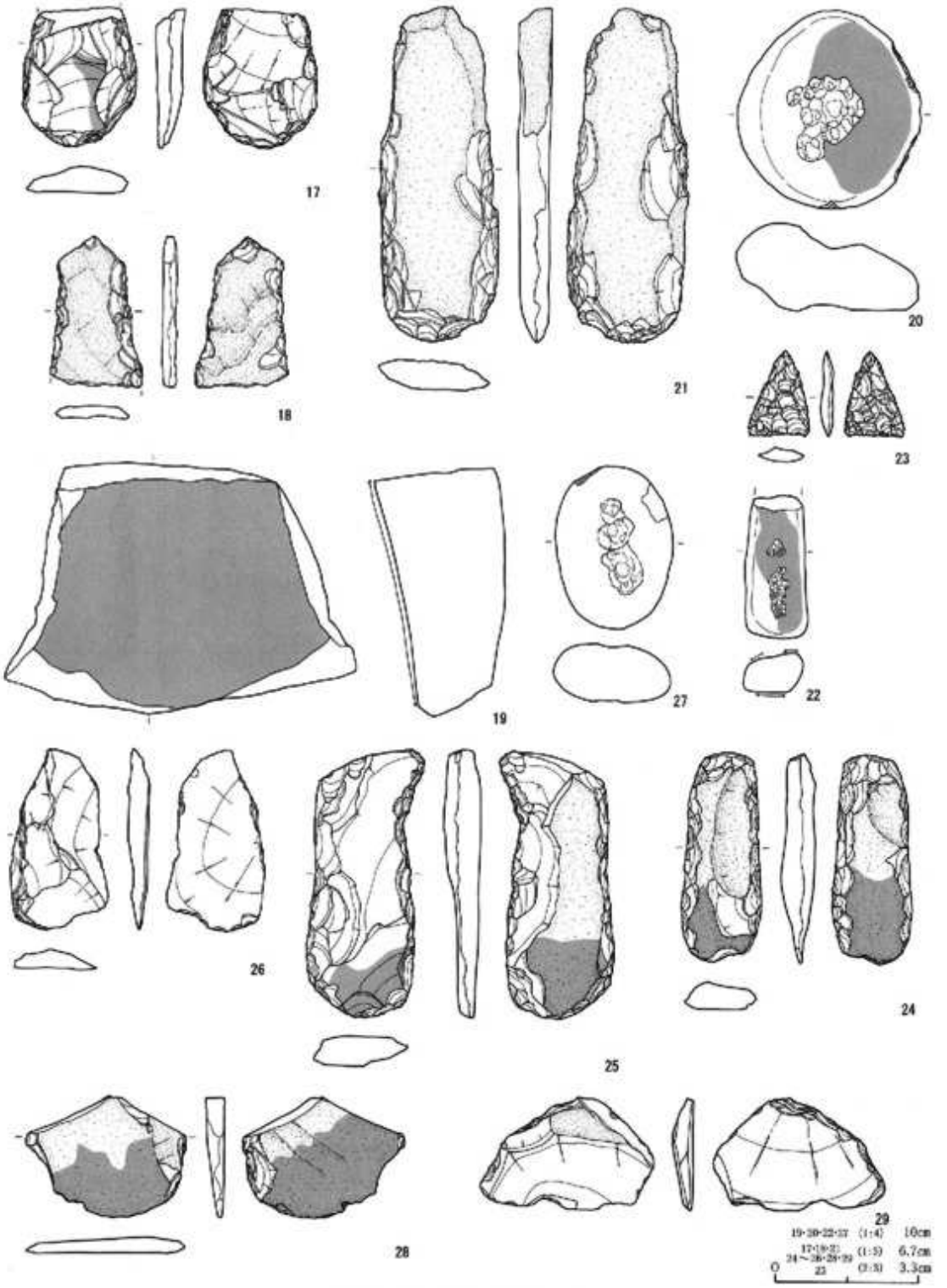
第40図　D28～39号土坑実測図



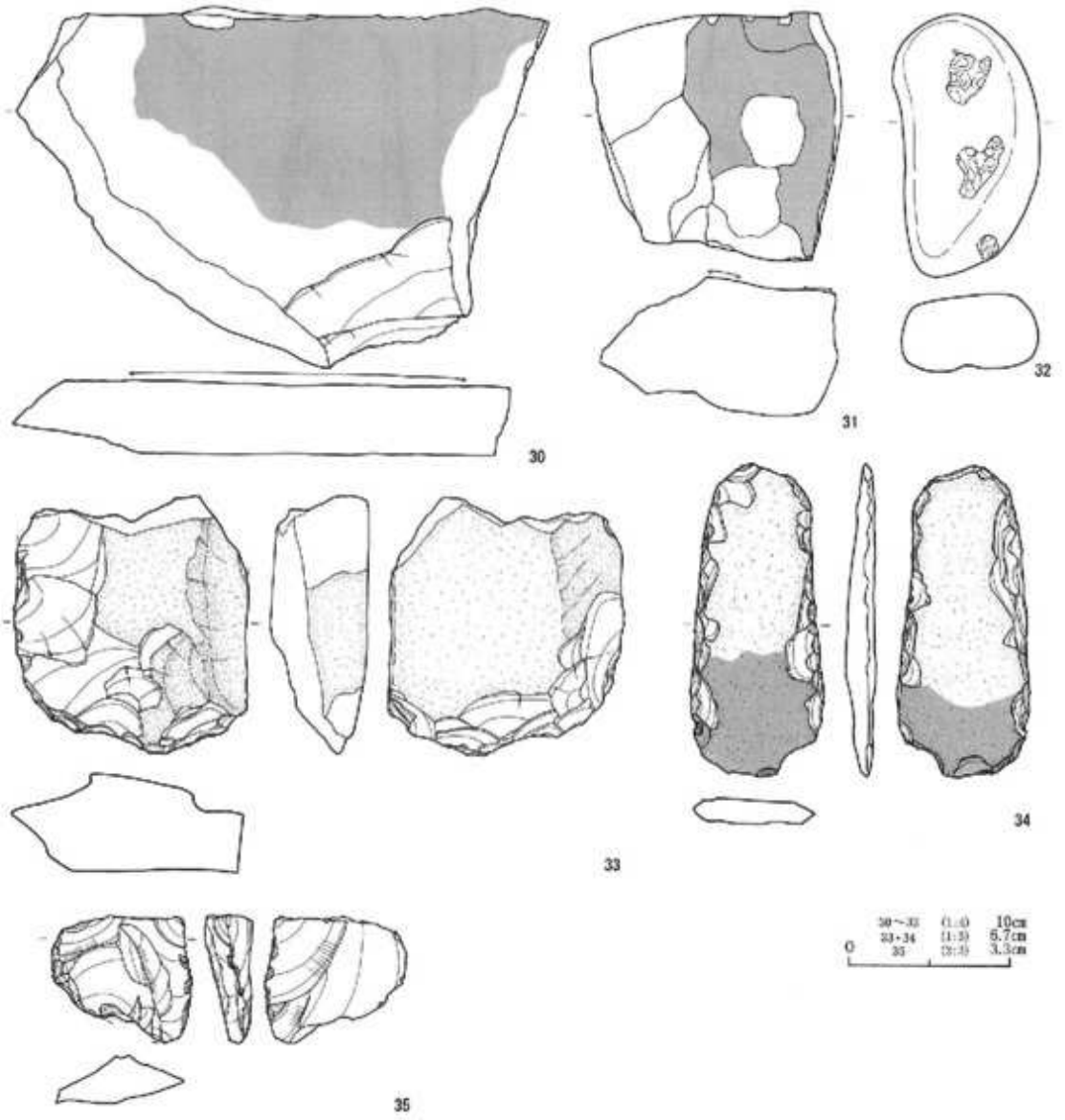
第41図　D40～50号土坑実測図



第42図　土坑出土遺物実測図（1）



第43図　土坑出土遺物実測図 (2)



第44図　土坑出土遺物実測図（3）

5．土　坑

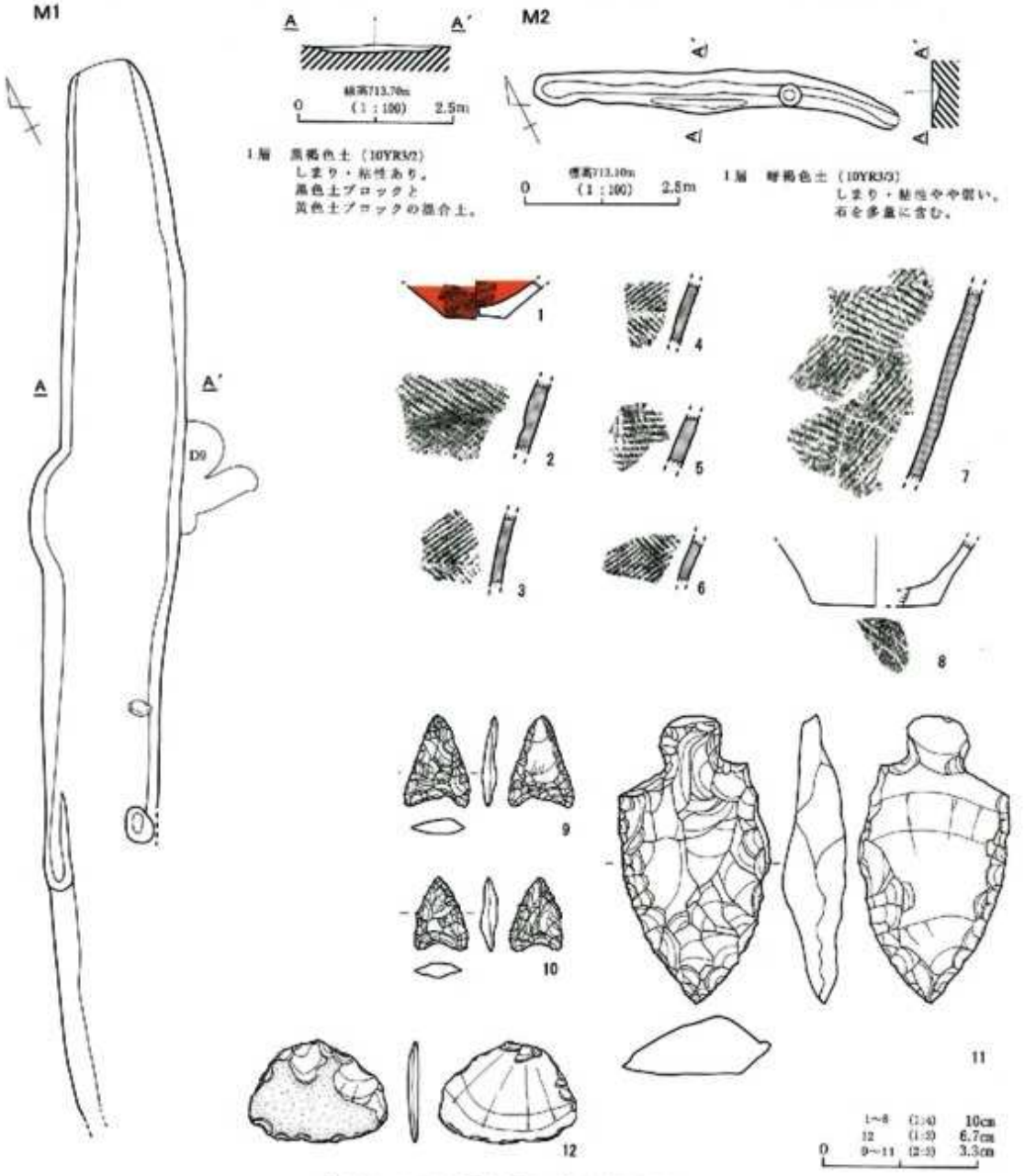
今回の発掘調査では50基の土坑を調査した。規模や形態は千差万別で、検出位置に関しても調査区全体に広がっていた。これらの事から個々の土坑について使用目的や所産時期を確定することは難しいものの、埋甕が検出されたD13.38号土坑や石組みが炉の様な形態で検出されたD19号土坑はいずれも縄文中期の所産と考えられ使用目的も推測できる数少ない例である。この他には先の掘立柱建物址の項でも触れたがD43.44.46.49号土坑などはその配置や覆土から焼土が検出されていることなどから掘立柱建物址の可能性も指摘できる。また、D48号土坑は人頭大の礫の下に木製の板があり歯が検出されたことから墓壙と考えられる。以上、検出された土坑についてまとめてみたが周辺部に広がる各期の集落址調査が進めば新たなる見知も得られると考えられる。

遺構名	グリット	形態	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	重複関係	土坑内ピット (長・深・cm)	備考
D 1	ｸ-15	円形	92	87	72	N-33°-W	D35→D1		
D 2	ﾗ-13	楕円形	112	61	17	N-5°-W			
D 3	ﾁ-13・14	円形	132	124	26	N-9°-E			
D 4	ﾄ・ﾘｰ14	不整形	143	118	27	N-26°-E			焼土有
D 5	ﾘｰ14・15	楕円形	148	98	29	N-6°-E			
D 6	ﾘｰ14・15	楕円形	112	90	38	N-15°-W	P573→D6		
D 7	ﾁ・ﾘｰ14	方形	173	1.4	50	N-63°-W			
D 8	ｼｰ14・15	方形	174	161	28	N-38°-W			
D 9－A	ﾄｰ12	不整形	(100)	(76)	17	N-50°-E	M1→D9	48・20	
D 9－B	ﾄｰ12	不整形	(175)	(56)	25	N-81°-W	〃	20・5	
D10	ﾄｰ5 ﾘｰ4・5	不整形	(308)	(161)	25	N-48°-W	H12→D10		
D11	ﾄｰ6・7	不整形	163	72	24	N-36°-W		39・10	
D12	ﾀｰ14	楕円形	132	107	21	N-70°-W			
D13	ﾇ 6・7	不整形	98	70	26	N 43°-W		33・12	
D14	ﾗ-8・9	円形	110	103	26	N 37°-E		26・9	
D15	ﾗｰ8	楕円形	107	86	37	N-14°-E			
D16	ﾁ 12	楕円形	154	113	18	N-58°-W			十器有
D17	ﾄｰ10	不整形	120	65	28	N-37°-W			
D18	ｽ-7	不整形	162	97	23	N-1°-W		45・8	
D19	ﾁ・ｼｰ7	楕円形	112	75	27	N 4°-W			石多有
D20	ﾃｰ9・10		(113)	(54)	26	-	H4→D20		
D21	ﾁｰ8・9	不整形	287	87	46	N 15°-W		北 36・31 南 35・20	
D22	ﾗｰ9・10	楕円形	136	102	26	N-57°-W	P254→D22		
D23	ﾃｰ9・10	楕円形	(120)	94	30	N 31°-E	P309・P310→ H4→D23		
D24	ｺｰ9・10 ﾁｰ10	長方形	337	103	22	N-30°-E	P329・P330→D24		
D25	ﾘｰ7	不整形	169	72	34	N-47°-W	H13・H16→D25	34・23	
D26	ﾃ・ﾄｰ11	楕円形	128	112	30	N-74°-W	P6→D26		
D27	ｽ-7	不整形	176	85	19	N-72°-W		40・9	
D28	ﾗｰ9・10	?	130	38	15	N-45°-W	D22→D28	37・31	
D29	ﾀｰ8	不整形	174	117	14	N-47°-W	F1・F4→D29		
D30	ｶ・ｷｰ9	?	(105)	(65)	57	-			
D31	ﾀ・ｺｰ9	方形	103	94	215	N 20°-E			
D32	ｷｰ9・10	不整形	190	114	22	N 11°-W	F1・P12→D32	33・17	
D33	ｷｰ14・15 ｸ-15	?	(154)	(52)	57	N-31°-E	P527→D33		
D34	ﾀｰ15	楕円形	130	92	17	N-21°-W			
D35	ﾀｰ14・15	不整形	158	117	29	N-24°-E			
D36	ｺｰ11 ﾀｰ10・11	方形	240	180	15	N-54°-W			
D37	ｸｰ13	?	88	41	20	N-23°-E		42・13	
D38	ｷ 10	円形	(44)	42	8	N 38°-W			上器有
D39	ｸｰ11・12	不整形	290	184	17	N-39°-E		29・15	
D40	ｷｰ11	楕円形	176	116	22	N-61°-W			
D41	ｷｰ15	?	(135)	(47)	26	N-62°-W	P459→D41		
D42	ｷｰ14	方形	190	(118)	31	N-72°-W	P473→H1→D42		
D43	ｹｰ12・13	不整形	(250)	74	49	N-37°-E	D44→D43		
D44	ｹｰ13	?	260	95	49	N-77°-W			
D45	ｹｰ13	楕円形	220	178	14	N-80°-E			
D46	ｸ・ｹｰ13	楕円形	127	73	57	N-45°-E			
D47	コ 12・13	不整形	175	114	44	N-23°-W	P590→D47		
D48	ｼｰ12	円形	60	57	22	N			石・敷
D49	ｸ・ｹｰ12	三角形	272	135	46	N 60°-W			
D50	ﾘｰ5	?	184	68	15	－	H12→D50		

第5表　土坑計測一覧表

6．溝状遺構

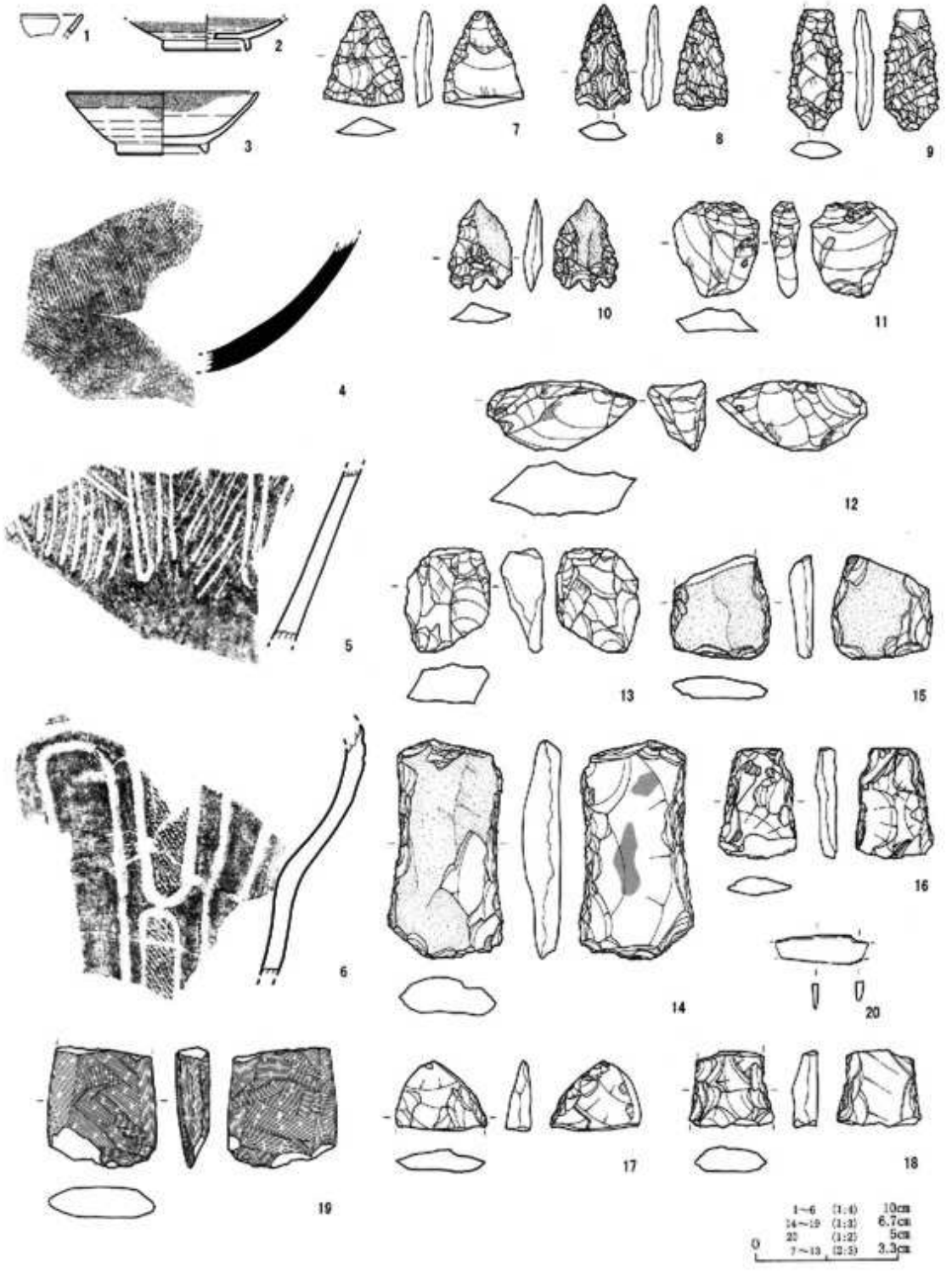
調査では2本の溝状遺構が確認された。M1号溝状遺構は南北に、M2号溝状遺構は東西に伸びる遺構と考えられるがいずれも両端は自然に消える状態であった。用途は不明である。また、H5とH11号住居址の間に細い湾曲した溝が検出されたが、縄文住居址の残存とも考えられたが確証を得なかった。



第45図　M1.2号溝状遺構及び出土遺物実測図

7．ピット

ピットは576個検出された。主に調査区南西側と南東コーナーに多く検出されたが、使用目的を積極的に推測しうるものはなかった。詳細はピット計測表を参照されたい。



第46図　ピット出土遺物実測図

遺構名	出土位置	長径×短径×深さ	形 態	覆 土	出土遺物	重複関係
P1	ト－11	91×65×21	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）	縄文前期・中期	
P2	ト 11	38×35×24	円形	黒褐色土（10YR2/2）		
P3	ト－11	61×45×35	方形	〃		
P4	ト－11	75×53×20	方形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P5	ト－11	87×65×26 （テラス16）	楕円形	〃		
P6	ト－11	85×75×13	円形	褐褐色土（10YR3/2）	須恵器坏、土師器坏	D26を切る。
P7	ト－11	37×36×25	円形	黒褐色土（10YR2/2）		P8を切る。
P8	ト－11	65×50×25	不整楕円形	黒褐色土（10YR2/2）		P7に切られる。
P9	ト－11	33×22×7	円形	〃		
P10	チ 11	24×22×16	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）	縄文前期・中期	
P11	チ－11	24×22×16	円形	黒褐色土（10YR2/2）	縄文中期	P126を切る。
P12	ト－11	53×48×19	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）	縄文中期	
P13	ト－12	53×40×11	楕円形	黒褐色土（10YR2/2）	縄文前期	
P14	ト－12	71×43×22 （テラス11）	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P15	ト－12	35×33×16	円形	黒褐色土（10YR3/2）		
P16	ト－13	34×30×20	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）	縄文中期	
P17	ト－12	71×62×12	楕円形	〃		
P18	ト 12	84×56×18 （テラス26）	楕円形	黒褐色土（10YR2/2）		
P19	ト 12	62×55×21	楕円形	〃	土師器坏	調査区外にかかる。
P20	ト－12	58×35×11	楕円形	黒褐色土（10YR3/2）	土師器坏	
P21	ト－12	45×43×13	円形	〃	土師器坏(内黒)	
P22	ト－12	28×25×12	円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P23	チ－13	57×32×16	不整楕円形	黒褐色土（10YR3/2）		調査区外にかかる。
P24	チ 11	45×35×19	楕円形	〃		
P25	チ－11	70×35×10	方形	〃	縄文	
P26	テ－11	45×36×7	楕円形	〃	縄文前期	
P27	チ 11	38×21×8	楕円形	〃		
P28	チ－11	47×44×10	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P29	ツ－11	55×25×11	楕円形	黒褐色土（10YR2/2）	縄文中期	
P30	ツ－11	42×25×14	楕円形	黒褐色土（10YR3/2）	縄文	
P31	ツ－11	38×33×12	円形	〃	炭化種皮、縄文	
P32	ツ 11	32×31×29	円形	〃	縄文	
P33	ツ－11	30×29×7	円形	〃		
P34	ツ－11	36×33×7	楕円形	〃		
P35	ツ－11	40×38×8	楕円形	〃	縄文	
P36	ツ－11	70×43×17 （テラス5）	楕円形	〃	縄文前期・中期	
P37	ツ－11	33×44×13	円形	〃		
P38	ツ－11	48×46×10	円形	〃		
P39	ト 13	35×31×14	円形	〃		
P40	ト－13	27×25×6	円形	〃		
P41	ト－13	28×27×18	円形	〃		
P42	チ－13	38×32×20	方形	〃		P2を切る。
P43	チ－13	30×25×16	方形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P44	テ－13	40×35×26	楕円形	黒色土（10YR2/1）		
P45	チ 13	73×48×26	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)	縄文	
P46	ツ－13	65×52×19	方形	〃	縄文前期・中期	
P47	ツ－13	42×42×46	円形	〃	縄文中期	
P48	ト－13	80×72×12	円形	黒色土（10YR2/1）	縄文	
P49	チ 13	35×35×24	不整方形	黒褐色土(10YR3/2)		
P50	テ－14	40×32×29	楕円形	〃		
P51	シ－13	82×65×21	方形	〃 ローム・ブロック多含。	縄文中期	
P52	シ 13	200×75×30	楕円形	〃 〃		
P53	シ－14	82×72×10	楕円形	〃 〃	縄文前期	
P54	シ－13	70×70×30	円形	〃	縄文中期	
P55	シ－13	72×55×11	楕円形	〃		
P56	シ－13	30×28×9	円形	〃		
P57	シ－13	35×33×13	円形	〃		
P58	シ 14	30×23×14	楕円形	〃		
P59	シ－14	28×27×12	円形	〃		
P60	シ－14	93×85×22	円形	〃	土師器坏、須恵器坏	
P61	ス－14	97×82×18	方形	〃	縄文	調査区外にかかる。
P62	ス－14	73×42×16	不整楕円形	〃	陶磁器(近代)	〃
P63	ス 13	100×93×30	楕円形	〃	土師器坏、縄文	
P64	チ－13	18×18×23	円形	〃	土師器坏	
P65	チ－13	33×33×39	円形	〃		
P66	チ－13	50×42×26 （テラス17）	楕円形	〃	縄文	
P67	ソ－13	59×48×27	楕円形	〃		
P68	ソ 14	49×46×16	円形	〃		
P69	ソ－14	55×46×30 （テラス17）	楕円形	〃		
P70	チ－13	38×34×23	楕円形	〃 炭化物多含。	縄文前期・中期	
P71	チ 13	120×63×32	不整楕円形	1層：黒褐色土(10YR3/2)。褐色ローム粒子を少し含む。 2層：黒褐色土(10YR3/1)。褐色土ローム粒子を少し含む。 3層：褐色土(10YR4/6)ローム土体。黒褐色土を少し含む。 ：杜鵑。暗黒褐色土(10YR3/3)。	縄文前期、土師器坏	
P72	セ－12	87×65×38 （テラス32）	楕円形	褐色土(10YR4/4) 褐色土粒子多。	土師器坏、土師器甕	
P73	セ－12	56×48×14	楕円形	褐色土(10YR4/4)		
P74	シ 11	73×60×43	楕円形	褐色土(10YR4/4)		
P75	ツ－11	46×46×39	円形	黒色土（10YR2/1）	縄文、土師器坏	
P76	ス－11	67×55×20 （テラス10）	不整楕円形	〃	縄文	
P77	ス－11	73×70×32	円形	褐色土（10YR4/4）	須恵器甕	
P78	ス 11	90×80×7	楕円形	〃	縄文	
P79	ツ－14	80×50×31	円形	黒褐色土（10YR3/2）	縄文前期	

第6表 ピット計測表（1）

P80	ツ－14	27×26×22	円形	黒色土（10YR2/1）		
P81	ツ－14	34×32×19	円形	〃		
P82	ツ－13	52×52×18	方形	〃		
P83	ツ－14	38×36×26	円形	〃		
P84	ツ－13	70×68×18	方形	にぶい黄褐色土（10YR4/3）　地山ローム多含。	縄文後期-中期	
P85	ツ－14	40×40×31	円形	黒色土（10YR2/1）		
P86	ツ－14	43×38×19（テラス13）	楕円形	にぶい黄褐色土（10YR4/3）		
P87	ツ－14	30×30×27	円形	灰褐色土（10YR3/2）		
P88	ツ－13	43×45×17	楕円形	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	縄文前期	
P89	チ－13	38×35×13	楕円形	黒褐色土（10YR3/2）	土師器所	
P90	セ－13	42×36×13	楕円形	黒色土（10YR2/1）	弥生中期末	
P91	タ－7	55×40×18（テラス9）	方形	褐灰色土（10YR4/1）　やや白っぽい。		
P92	タ－7	38×33×22	方形	〃		
P93	タ－7	30×19×4	円形	〃		
P94	ソ－7	47×45×20	楕円形	〃		
P95	セ－6	35×35×21	円形	〃		
P96	セ－6	31×31×7	円形	〃		
P97	タ－7	32×30×9	円形	黒褐色土（10YR3/2）　粘質有。		
P98	ソ－6	33×21×17	楕円形	〃　　〃		
P99	ツ－13	20×20×29	円形	黒色土（10YR2/1）		
P100	ツ－13	24×20×31	楕円形	〃		
P101	ツ－13	20×20×8	円形	〃		
P102	ツ－13	45×40×40	円形	黒褐色土（10YR3/2）	縄文中期	
P103	ツ－13	48×40×30（テラス24）	楕円形	〃	縄文中期	
P104	ツ－13	51×42×19	不整楕円形	灰黄褐色＋（10YR4/2）	（土師器杯(内黒)	
P105	ツ－13	35×32×24	楕円形	黒褐色土（10YR3/2）	縄文中期、土師器杯	
P106	ツ－13	30×30×18	方形	〃		
P107	ツ－13	45×35×22（テラス14）	不整楕円形	〃		
P108	ツ－13	34×32×21	円形	〃		
P109	ツ－13	36×33×34（テラス21）	楕円形	〃		
P110	チ－13	40×42×45	不整楕円形	黒褐色＋（10YR2/2）　炭化物多含。		P127を切る。
P111	チ－14	55×46×19	楕円形	黒褐色＋（10YR3/2）　地色ローム多含。		
P112	チ－14	77×65×36	楕円形	〃	縄文	
P113	チ－13	17×13×20	不整円形	黒褐色土(10YR2/2)		P71に切られる。
P114	チ－14	67×53×20	不整長円形	灰黄褐色土（10YR4/2）	土師器壺	
P115	ソ－6	38×30×18	方形	黒褐色土（10YR3/2）	円筒器	
P116	セ－6	45×32×29	方形	〃		
P117	セ－6	31×28×16	楕円形	〃	土師器杯(内黒)	
P118	セ－5	33×30×16	楕円形	〃		
P119	セ－6	71×57×17	楕円形	〃	土師器壺	
P120	セ－6	30×28×25	円形	〃		
P121	セ－7	34×28×20	楕円形	〃		
P122	ノ－6	31×29×15	円形	〃		H13を切る。
P123	セ－6	33×29×15	円形	〃		〃
P124	タ－7	22×19×6	楕円形	〃	土師器杯(内黒)	
P125	タ－7	160×68×39	楕円形	〃	弥生中期末	
P126	チ－11	58×55×12	不整円形	〃	縄文中期	P11に切られる。
P127	チ－13	62×55×31	不整円形	〃	縄文、土師器杯	P127を切られ、P187を切る。
P128	セ－7	38×35×33	円形	〃	土師器杯	
P129	ス－7	30×25×17	楕円形	〃		
P130	チ－13	40×34×29	不整円形	〃	土師器杯	D5に切られる。
P131	チ－12	37×34×24	円形	黒褐色土（10YR2/2）	土師器杯(内黒)	
P132	チ－11	132×42×20	不整楕円形	〃		
P133	チ－11	33×32×18	円形	〃		
P134	チ－12	48×42×19	円形	〃	縄文中期	調査区外にかかる。
P135	セ－6	32×32×11	円形	黒褐色土（10YR3/2）		
P136	チ－13	41×40×42	不整円形	〃	縄文中期	P71に切られる。
P137	チ－12	27×25×28	円形	黒褐色土（10YR2/1）		
P138	チ－12	23×20×17	円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P139	チ－12	30×30×13	円形	〃	土師器(須式系質)	
P140	チ－12	48×47×17	円形	〃	縄文前期-中期	
P141	チ－13	85×60×26（テラス15）	楕円形	黒褐色土（10YR3/2）	土師器杯(内黒)・坏	
P142	チ－12	35×30×13	楕円形	〃	土師器杯(内黒)・坏	
P143	チ－13	33×35×41	円形	〃		
P144	チ－13	40×24×9	楕円形	〃		
P145	チ－14	83×72×10	楕円形	〃	土師器杯	
P146	チ－14	48×45×10	楕円形	〃		
P147	ツ－8	29×28×18	円形	黒色土		
P148	ツ－8	43×23×8	不整円形	〃	縄文中期	
P149	ツ－8	23×21×7	不整円形	〃		P150に切られる。
P150	ツ－8	19×20×12	円形	〃		P149を切る。
P151	ツ－8	33×30×23	楕円形	〃	縄文前期-中期	
P152	チ－11	84×80×29	楕円形	黒褐色土（10YR3/2）	縄文後期-中期	
P153	ツ－11	110×74×30	楕円形	〃	角丸、鉢型器杯、土師器杯(内黒)	
P154	チ－11	30×29×18	円形	〃		
P155	チ－11	24×23×28	円形	〃	須恵器杯、土師器杯(内黒)	
P156	チ－12	48×39×14	不整円形	黒色土（10YR2/1）		H8に切られる。
P157	チ－14	77×47×23（テラス12）	不整楕円形	黒褐色土(10YR3/2)	縄文	
P158	チ－14	40×27×27（テラス14）	楕円形	黒色土（10YR2/1）	須恵器杯	
P159	タ－13	35×35×32	不整楕円形	黒褐色土(10YR3/2)	灰釉陶	
P160	タ－13	56×40×23（テラス13）	楕円形	〃	灰釉陶、須恵器杯、土師器杯、縄文	
P161	チ－14	51×34×33（テラス15）	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P162	チ－15	58×26×17	不整楕円形	黒色土（10YR2/1）		調査区外にかかる。

第7表　ピット計測表（2）

P163	チ－12	34×19×12 （テラス7）	楕円形	〃		
P164	タ－12	27×19×12	楕円形	灰黄褐色上（10YR4/2）	壺型土器、土師器坏	
P165	タ－12	24×22×13	円形	〃		
P166	タ－12	21×24×22	円形	黒色土（10YR2/1）	縄文	
P167	タ－12	33×32×16	円形	灰黄褐色土（10YR4/2）	須恵器坏	
P168	タ－13	30×30×15	円形	黒褐色上(10YR3/2)		
P169	タ－13	36×20×25	楕円形	黒色上（10YR2/1）	土師器坏(内黒)・土師器坏	
P170	チ－13	23×23×6	円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P171	チ－13	35×25×15	楕円形	〃		
P172	ス－7	21×21×9	円形	黒褐色上（10YR3/2）		
P173	ス－6	34×34×32	円形	〃	縄文中期	
P174	ス－6	31×29×20	楕円形	〃		
P175	チ－12	30×24×36	円形	黒色土（10YR2/1）		P177・P178を切る。
P176	チ－12	32×31×18	円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P177	チ－12	29×24×24	不整楕円形	〃		P175に切られる。
P178	チ－12	27×17×21	不整楕円形	黒色上（10YR2/1）		〃
P179	タ－13	30×16×19	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)	土師器坏(内黒)、縄文	
P180	タ－13	57×27×7	楕円形	灰黄褐色上（10YR4/2）		
P181	タ－13	25×24×39 （テラス21）	円形	黒色上（10YR2/1）	土師器坏	
P182	タ－13	29×27×13	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P183	タ－13	20×20×6	円形	〃		
P184	タ－13	52×25×14	楕円形	〃	縄文前期	
P185	チ－13	47×35×49	楕円形	〃	土師器壺	
P186	チ－13	28×23×7	楕円形	〃		
P187	チ－13	33×24×15	不整方形	黒色土（10YR2/1）	土師器甕	P127に切られる。
P188	チ－13	27×16×20 （テラス12）	楕円形	〃		
P189	タ－14	63×44×8	不整楕円形	〃		
P190	チ－14	36×27×20 （テラス14）	楕円形	〃	土師器坏、縄文	
P191	タ－14	45×28×12	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P192	タ－14	51×38×38	楕円形	〃		
P193	タ－14	50×48×26	円形	暗褐色土(10YR3/3)	土師器坏	
P194	チ－13	30×30×21	円形	〃		
P195	ソ－11	40×33×8	不整楕円形	〃		H11に切られる。
P196	ソ－11	42×19×18	不整円形	〃		〃
P197	ソ－12	43×18×16	不整円形	〃		〃
P198	タ－14	38×35×29	楕円形	黒色土（10YR2/1）		P200を切る。
P199	タ－14	52×30×19	楕円形	〃	縄文前期、土師器坏(内黒)	
P200	タ－14	38×30×12	不整円形	黒褐色土(10YR3/2)		P198に切られる。
P201	タ－14	30×21×8	楕円形	〃		
P202	タ－14	82×48×27 （テラス17）	楕円形	〃	須恵器壺	
P203	タ－14	32×30×36	円形	〃	縄文前期	
P204	タ－13	37×28×21	不整楕円形	黒色土（10YR2/1）		調査区外にかかる。
P205	ソ－12	46×27×22	不整円形	黒褐色土(10YR3/2)		H11に切られる。
P206	ソ－13	86×63×13	方形	〃		
P207	タ－14	57×60×20	円形	黒色土（10YR2/1）		
P208	チ－8	43×38×13	楕円形	黒褐色上(10YR3/2)		
P209	タ－12	28×28×6	円形	黒色土（10YR2/1）		
P210	タ－13	85×55×8	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）	縄文前期	
P211	ソ－13	45×35×15	楕円形	黒色土（10YR2/1）		P216を切る。
P212	セ－8	24×23×11	円形	黒褐色上(10YR3/2)		
P213	ス－7	30×30×20	楕円形	〃	土師器坏(内黒)	
P214	シ－8	54×43×15 （テラス8）	楕円形	〃	須恵器坏	
P215	シ－7	42×35×19	円形	〃		
P216	ソ－12	96×53×21	不整楕円形	〃		P211に切られ、P218を切る。
P217	ソ－12	55×47×23	楕円形	〃		
P218	ソ－12	48×32×9	不整楕円形	〃		P216に切られる。
P219	ソ－12	20×19×7	円形	黒色上（10YR2/1）		
P220	ソ－12	35×28×14	楕円形	黒褐色上(10YR3/2)		
P221	ソ－12	27×25×12	楕円形	〃		
P222	ソ－12	48×46×26	楕円形	〃		
P223	ソ－11	50×36×24	不整円形	黒色土（10YR2/1）		H7に切られる。
P224	ソ－12	30×30×22	円形	〃		
P225	シ－7	27×24×20	方形	黒褐色上(10YR3/2)	土師器坏	
P226	シ－8	49×30×46	楕円形	褐色土 炭化物含。		
P227	サ－7	44×42×20	楕円形	〃 〃	土師器坏(内黒)	
P228	サ－7	74×44×14	不整楕円形	〃 〃	縄文	
P229	シ－6	44×34×15	楕円形	黒褐色上(10YR3/2) 炭化物含。	縄文前期	
P230	サ－6	36×32×21	円形	黒褐色土(10YR3/2)	土師器坏	
P231	シ－5	57×34×6	楕円形	〃		
P232	ス－6	34×24×6	方形	〃		
P233	シ－7	29×28×21	円形	〃	土師器	
P234	ソ－12	25×20×10	楕円形	灰黄褐色上（10YR4/2）		
P235	セ－12	44×43×20	円形	黒色土（10YR2/1）		
P236	ソ－12	43×43×14	円形	黒褐色上（10YR3/2）		
P237	ソ－11	54×24×26	不整円形	灰黄褐色上（10YR4/2）		P153に切られる。
P238	ソ－11	26×23×11	不整楕円形	〃		〃
P239	ソ－11	52×21×15	不整方形	〃		〃
P240	サ－7	45×39×9	楕円形	黒褐色上(10YR3/2)		
P241	ソ－12	47×39×17	楕円形	黒色上（10YR2/1）		
P242	ス－6	40×26×11	楕円形	褐色土(10YR4/4)		
P243	ス－7	35×34×19	円形	〃		
P244	ス－5	35×23×4	方形	黒褐色上(10YR3/2) 小石多数。		
P245	ス－5	33×33×5	円形	黒褐色土（10YR3/2）		

第8表　ピット計測表（3）

P246	セ－5	30×28×26	楕円形	〃		
P247	シ－7	34×33×20	円形	褐色7.5(10YR4/4)	縄文晩期	
P248	コ－8	50×47×16	円形	〃		P4内
P249	チ－10	28×25×9	円形	にぶい黄褐色土（10YR5/3）		
P250	チ－10	24×20×6	円形	黒褐色（10YR2/3）		
P251	ツ－10	39×36×29	円形	黒褐色1.(10YR3/2)		
P252	テ－10	55×36×13	楕円形	黒色土（10YR2/1）		
P253	ツ－10	67×59×15	円形	黒褐色土（10YR3/2）	縄文中期	
P254	ツ－10	32×36×13 （テラス18）	楕円形	にぶい黄褐色土(10YR5/3)		
P255	ツ－9	68×42×22 （テラス14）	楕円形	黒褐色1.(10YR2/2)		
P256	ツ－9	51×46×14	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P257	ツ－10	60×39×8	楕円形	灰黄褐色土（10YR4/2）		
P258	ツ－9	55×50×13	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P259	ツ－9	16×14×14	円形	黒色土（10YR2/1）		
P260	ツ－10	33×29×9	円形	〃		
P261	テ－10	37×30×10	楕円形	灰黄褐色土 （10YR4/2）		
P262	チ－10	37×36×36	円形	〃		
P263	チ－10	80×58×19 （テラス13）	円形	〃		
P264	ツ－9	37×30×31	円形	黒色土 （10YR2/1）		
P265	ツ－9	33×30×33	円形	〃		
P266	ツ－10	16×15×19	円形	〃		
P267	ツ－10	28×20×9	不整方形	黒褐色土(10YR3/2)		P254に切られる。
P268	ツ－10	45×39×34	円形	〃	縄文中期	
P269	ツ－10	46×14×13	円形	〃		
P270	ツ－10	38×32×24	円形	黒色土 （10YR2/1）		
P271	チ－9	20×18×21	円形	〃		
P272	テ－10	41×29×10	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P273	ツ－9	24×22×30	円形	〃		
P274	ツ－10	49×42×31 （テラス7）	楕円形	黒色土 （10YR2/1）	土師器坏(内黒)	
P275	チ－10	40×33×21 （テラス4）	楕円形	〃		
P276	ツ－10	34×29×3	不整円形	黒褐色1.(10YR3/2)		
P277	ツ－10	28×21×19 （テラス12）	楕円形	〃		
P278	チ－10	170×31×24 （テラス13）	不整楕円形	〃		
P279	ツ－10	32×32×18 （テラス7）	円形	黒色土 （10YR2/1）		
P280	ツ－9	42×38×9	円形	黒褐色1.(10YR3/2)		
P281	ソ－10	46×37×12	楕円形	〃		
P282	シ－7	34×32×11	円形	〃	土師器坏	
P283	シ－6	45×34×13	楕円形	〃		
P284	チ－10	104×69×18	不整方形	黒色土 （10YR2/1）	縄文前期	
P285	テ－10	56×43×20 （テラス8）	楕円形	黒褐色1.(10YR3/2)	縄文中期	
P286	ツ－10	61×67×10	円形	〃		
P287	チ－9	38×19×13	不整楕円形	〃	縄文前期	調査区外にかかる。
P288	チ－10	30×29×10	円形	〃		
P289	チ－10	46×37×11	楕円形	〃		
P290	タ－10	36×32×23	楕円形	〃		
P291	チ－10	19×14×7	円形	黒色土 （10YR2/1）		
P292	ス－9	40×36×16	楕円形	黒褐色1.(10YR3/2)		
P293	シ－9	40×38×13	楕円形	〃		
P294	シ－10	66×66×28	円形	〃		
P295	シ－10	70×65×21	楕円形	〃		
P296	ス－9	74×50×34	不整楕円形	〃		
P297	タ－10	59×48×14	楕円形	〃		
P298	タ－10	77×27×9	楕円形	〃	縄文中期	
P299	チ－9	33×32×20	円形	黒色土 （10YR2/1）		
P300	チ－9	77×57×16	楕円形	〃		
P301	チ－9	32×28×9	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P302	タ－10	44×42×11	円形	〃		
P303	タ－11	56×45×18 （テラス9）	楕円形	〃		
P304	タ－10	25×21×7	不整円形	黒色土 （10YR2/1）		H3に切られる。
P305	テ－11	28×19×20	不整楕円形	〃		H9に切られる。
P307	テ－12	50×36×7	楕円形	黒色土 （10YR2/1）		P341を切る。
P308	ト－11	37×35×14	円形	〃	縄文中期	P341を切る。
P309	テ－9	38×30×39	楕円形	〃		D23を切る。
P310	テ－9	26×25×14	円形	〃		D23を切る。
P311	テ－10	54×29×19	楕円形	〃	縄文中期	D20に切られる。
P312	テ－9	38×30×8	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)		H4に切られる。
P313	チ－10	34×32×29	円形	〃	縄文中期	
P314	チ－10	25×24×12	円形	〃	縄文中期	
P315	ツ－10	61×43×46	方形	〃		D22に切られる。
P316	タ－11	72×42×12	不整円形	灰黄褐色土 （10YR4/2）		H5に切られる。
P317	タ－11	56×33×16	楕円形	〃		
P318	タ－11	30×26×21	円形	〃		
P319	タ－11	29×26×10	円形	〃		
P320	タ－11	55×45×34	楕円形	黒褐色土 （10YR3/2）	灰釉陶	
P321	タ－11	82×8.×17	不整円形	〃		H7に切られる。
P322	タ－11	95×37×10	不整楕円形	〃	縄文中期	H7に切られる。
P323	テ－11	58×37×16	楕円形	〃		
P324	テ－11	74×57×24	楕円形	黒色土 （10YR2/1）	縄文中期	
P325	テ－12	76×71×35 （テラス24）	不整円形	黒褐色1.(10YR3/2)	土師器坏、須恵器坏	
P326	テ－11	41×38×32	円形	灰黄褐色土 （10YR4/2）		P324に切られる。
P327	ス－10	52×49×53	円形	黒褐色土 （10YR3/2）		
P328	コ－9	50×48×22	円形	〃	縄文中期	
P329	コ－9	19×14×22	円形	〃	弥生中期壺	D24を切る。

第9表　ピット計測表（4）

P330	コ－9	54×52×23	円形	〃	縄文中期	1024を消る。
P331	コ　10	54×53×26	円形	〃	弥生中期前半	
P332	ト－11	21×20×33	円形	黒色土（10YR2/1）		
P333	ソ－10	35×24×10	円形			
P334	ソ－10	45×40×7	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P335	ソ　10	105×82×17　（テラス9）	不整円形	黒色土（10YR2/1）	縄文中期	
P336	セ－11	59×45×10	楕円形	〃		
P337	セ－11	134×36×21（テラス17）	不整楕円形	〃		
P338	ソ　9	51×39×18　（テラス7）	円形	〃		
P339	ソ－11	44×29×16　（テラス8）	円形	灰黒褐色土（10YR4/2）		
P340	チ－11	33×10×11	不整方形	黒色土（10YR2/1）		H9・P324に切られる。
P341	テ－11	65×54×6　（テラス9）	不整楕円形	黒褐色土（10YR3/2）		P307・P308に切られる。
P342	ホ　9	21×22×29	不整方形	〃　ローム・ブロック多量。	土師器坏	
P343	キ　9	29×28×39	方形	黒褐色土（10YR3/2）		
P344	キ　9	36×26×23	楕円形	〃		
P345	キ－9	49×32×18	楕円形	〃		
P346	ク　9	34×32×14	円形	〃		
P347	ケ　9	28×21×14	円形	〃		
P348	ケ－9	34×30×17　（テラス11）	円形	〃		
P349	ク－8	40×31×41	不整方形	〃		P1・P24に切られる。
P350	ク　9	129×115×45	不整円形	〃		
P351	ク　9	78×75×19	円形	〃　褐色土混。	縄文中期	
P353	ソ－11	304×89×37	不整楕円形	東部は10YR3/2黒褐色土が多く、焼土・炭多く、ローム・ブロック多量。西部は10YR3/3暗褐色土が多く、焼土・炭多く、ローム・ブロック多量。	土師器坏	
P354	コ－7	40×19×14	円形	灰褐色土（10YR4/2）　小石多数。		
P355	コ　7	26×24×8	円形	〃　〃		
P356	ケ－8	37×35×7	円形	〃　〃		
P357	コ－8	34×30×7	円形	〃　〃	縄文中期	P127に切られ、P187を切る。
P358	ケ　8	38×35×33	円形	褐色土		
P359	ケ　8	24×20×8	円形	〃		
P360	ク－9	40×35×12	楕円形	灰褐色(10YR3/2)		
P361	ク－9	33×40×10	楕円形	炭と炭化物多量。焼土・炭有。		
P362	コ－10	59×54×21	不整円形	暗褐色土(10YR3/3)　炭化物含。	土師器坏	
P363	コ　10	41×34×18	不整円形	〃		
P364	コ－9	102×44×20	楕円形	暗褐色土(10YR3/3)　炭化物含。	縄文中期	
P365	ケ－9	84×61×18	楕円形	暗褐色土(10YR3/3)　炭化物含。	縄文土器	
P366	ケ　9	40×36×15	方形	〃		
P367	キ－9	21×21×15	円形	〃		
P368	ホ　9	36×44×12	円形	〃	縄文中期	
P369	ケ－9	36×35×21　（テラス14）	方形	〃		
P370	ケ－9	36×36×6	円形	褐色土		
P371	ケ－9	75×44×15　（テラス9）	楕円形	〃		
P372	ケ　10	34×32×19　（テラス9）	楕円形	〃	弥生中期前半	
P373	ケ－10	53×48×15	円形	〃	縄文中期、弥生中期前半	
P374	キ－8	35×33×46	円形	〃		
P375	ホ　9	97×37×20	不整楕円形	〃		
P376	ケ－9	67×64×13	楕円形	〃		
P377	ケ－10	24×33×17	円形	〃		
P378	タ－11	29×21×13	楕円形	暗褐色土(10YR3/4)		
P379	サ　11	43×32×21	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P380	コ－11	47×38×15	楕円形	褐色土		
P381	コ－11	64×56×12	円形	〃		
P382	コ－11	61×59×9	円形	〃	縄文中期	
P383	サ　11	45×43×19	円形	〃		
P384	シ－11	47×43×28	円形	〃	縄文中期	
P386	ケ－16	35×19×9	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)		
P387	ク　16	17×16×7	円形	〃		
P388	ク　16	33×28×8	円形	〃		
P389	ケ－16	38×34×12	円形	〃		
P390	ケ－16	54×45×22　（テラス14）	楕円形	〃	縄文中期	
P391	ケ　15	44×35×19	楕円形	〃		
P392	ケ－15	44×36×18	楕円形	〃		調査区外にかかる。
P393	ケ　15	37×42×12	円形	〃		
P394	ケ－15	53×47×14	円形	暗褐色土(10YR3/4)		
P395	コ－15	89×73×17	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)		
P396	ケ　13	47×36×17	楕円形	暗褐色土(10YR3/4)		
P397	ケ－13	138×30×12	不整楕円形	黒褐色土(10YR3/1)　小石多数。		
P398	ケ－13	36×34×20	円形	〃		
P399	ケ－15	36×34×18	円形	〃		
P400	ケ－15	65×39×16	楕円形	〃		
P401	キ－14	44×31×27（テラス18）	楕円形	〃　粒子細かい。		P539を消る。
P402	キ　14	36×33×22（テラス14）	円形	〃		P403を切る。
P403	キ－14	44×38×28（テラス14）	不整楕円形	〃		P402に切られる。
P404	ク　16	34×33×11	円形	〃		
P405	ケ　16	36×30×11	円形	〃		
P406	ケ－15	39×40×11	円形	〃		
P407	ケ－15	41×35×27　（テラス15）	楕円形	暗褐色土(10YR3/4)		
P408	ケ　14	49×28×16	円形	〃		
P409	ケ－15	37×31×31　（テラス15）	円形	〃		
P410	ケ－14	33×33×13	円形	〃		
P411	ケ－14	114×66×12	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)		
P412	ケ　14	141×60×28	楕円形	〃		P451を切る。
P413	ケ－11	79×63×15	楕円形	褐色土(10YR4/6)		

第10表　ピット計測表（5）

P414	ケ－11	59×50×19	円形	〃		
P415	ク　10	108×54×7	楕円形	〃		
P416	ケ－10	104×68×14	不整楕円形	〃		
P417	ケ－10	28×26×18　(テラス12)	円形	〃		
P418	ケ－10	127×68×25	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)		
P419	サ　10	60×39×9	円形	褐色土(10YR4/6)		
P420	ケ－11	54×46×7	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P421	ケ－12	45×28×16　(テラス10)	楕円形	〃	縄文前期	
P422	ケ　12	30×28×13	円形	〃		
P423	ケ－11	53×49×15	円形	〃		
P424	ケ－11	32×31×8	円形	〃		
P425	ケ－11	28×24×8	円形	〃		
P426	ケ　11	34×29×18	円形	〃		
P427	ク－11	45×38×10	楕円形	〃		
P428	ケ　11	50×35×19	楕円形	〃	弥生中期第Ⅴ	
P429	ケ－11	53×36×14	楕円形	〃		
P430	ケ－11	36×29×18	円形	〃		
P431	ク　10	44×31×15	不整楕円形	〃		
P432	ク－10	53×42×11	楕円形	〃		
P433	ケ－10	29×26×12	円形	〃		
P434	ク－10	24×23×10	円形	〃		
P435	ク　10	37×34×11	円形	〃		
P436	ケ－11	208×79×20	不整楕円形	〃		
P437	ケ－10	133×71×17	不整楕円形	褐色土		
P438	ク－10	36×32×15	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P439	ク　10	24×20×10	円形	〃		
P440	ク－10	37×37×17	円形	〃		H17より新しい。
P441	ク－9	52×28×13	円形	〃		〃
P442	ク　10	62×37×9	円形	〃	弥生中期第Ⅳ	
P443	コ　14	34×33×14	円形	〃　褐色土ブロック含。		
P444	コ－14	38×33×22	楕円形	〃		
P445	コ－15	31×28×32	円形	〃		
P446	コ－15	35×29×10	楕円形	〃		
P447	コ　15	61×30×11　(テラス6)	楕円形	〃		
P448	ケ－14	72×60×19	不整楕円形	〃	縄文前期	
P449	ケ－14	54×31×24　(テラス7)	楕円形	〃		
P450	ク　9	28×27×15	円形	〃		
P451	ク　14	51×38×17	楕円形	〃		P412に切られる。
P452	ケ　14	36×31×17	円形	〃		
P453	ケ－15	45×40×14	円形	〃		
P454	ケ－15	98×56×14	楕円形	〃		P408・P411に切られる。
P455	ク－9	58×44×23	不整楕円形	〃		H17を切る。
P456	ク　10	35×28×20	楕円形	〃	土師器杯	
P457	ク　10	70×46×16	楕円形	〃		
P458	ケ－13	54×36×15	楕円形	〃		
P459	ケ　15	50×36×18　(テラス8)	楕円形	〃		
P460	コ　15	38×35×102	円形	黒色土 (10YR2/1)	縄文前期	
P461	サ－14	47×44×14	不整楕円形	〃	縄文中期	H11に切られる。
P462	サ－14	49×33×20　(テラス13)	不整楕円形	黒褐色土 (10YR3/2)		H11に切られる。
P463	サ－14	20×19×6	円形	〃		
P464	サ　14	48×32×22　(テラス16)	不整楕円形	〃		P48Jに切られる。
P465	コ－15	30×28×14	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P466	コ－14	38×35×16	円形	〃		
P467	コ－14	39×25×51	円形	〃		
P468	コ－16	44×40×2	円形	〃		
P469	コ－14	58×32×7　(テラス2a)	楕円形	〃		
P470	コ－14	35×28×9	楕円形	黒色土 (10YR2/1)　砂・レキ多含。		
P471	コ－14	51×39×21	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P472	コ　14	19×16×3	円形	〃		
P473	サ－14	49×47×35	円形	黒色 (10YR2/1)		P42を切る。
P474	コ－15	89×79×23	円形	灰黄褐色土(10YR4/2)		P318を切る。
P475	コ－14	36×30×28	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)		H1に切られる。
P476	サ－15	53×43×14	不整楕円形	〃		P510に切られる。
P477	サ－13	24×24×17	円形	黒色 (10YR2/1)	縄文	
P478	ク－12	26×24×14	円形	褐灰色土 (10YR4/1)		
P479	ク－12	34×23×11	円形	〃		
P480	ク　12	30×25×9	円形	〃		
P481	キ　13	19×15×16	円形	〃		
P482	キ　13	28×25×26　(テラス21)	円形	黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂了多含。		
P483	キ－12	21×20×16	円形	〃	縄文前期	
P484	キ－12	36×32×26	楕円形	〃		
P485	キ－12	43×26×24	楕円形	〃		
P486	キ　12	53×32×8	円形	〃	縄文中期	P487に切られる。
P487	キ－12	27×24×32	円形	〃		P486を切る。
P488	キ－12	69×62×5	円形	〃		
P489	キ　12	20×18×10	円形	〃		
P490	キ－12	33×32×33	円形	〃		
P491	キ－11	26×25×23	円形	〃		
P492	キ－12	77×69×10	不整楕円形	〃　ローム・ブロック多含。		
P493	キ　12	69×66×16	円形	黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒了多含。	縄文中期	
P494	ク－12	18×17×18	円形	〃		
P495	キ－11	50×28×14	楕円形	〃		
P496	ク－11	90×53×6	楕円形	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	縄文中期	

第11表　ピット計測表（6）

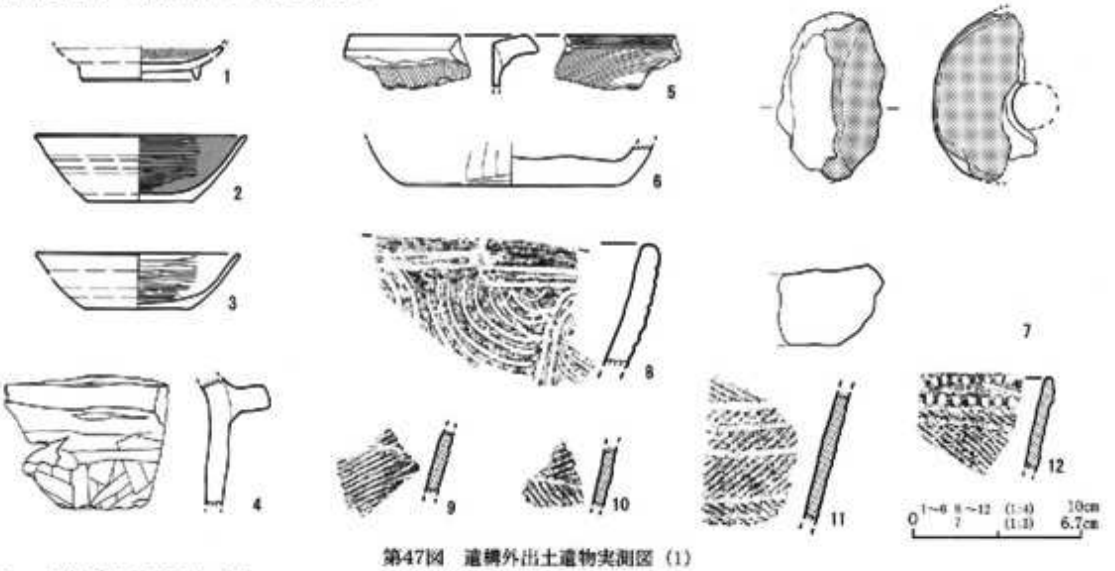
P497 キ－11	47×34×12	楕円形	黒褐色土(10YR3/1)		
P498 ク－11	38×33×9	円形	にぶい黄褐色土(10YR4/3)		
P499 ク－11	31×24×21	円形	黒褐色土(10YR3/1)		
P500 コ－15	28×25×30 （テラス24）	円形	黒色土(10YR2/1)		
P501 コ－15	67×60×13	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P502 コ－15	44×38×18 （テラス14）	楕円形	*		
P503 サ－14	55×35×22	楕円形	*		
P504 コ－15	38×35×19	不整楕円形	*		P500に切られる。
P505 コ－13	67×39×27	円形	*		
P506 コ－15	31×28×12	楕円形	黒色土(10YR2/1)		
P507 コ－15	30×30×19	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P508 コ－15	36×35×14	円形	*		P447に切られ，P515を切る。
P509 コ－14	25×34×28	円形	*		
P510 サ－15	73×55×19	楕円形	*		P459に切られ，P476を切る。
P511 コ－15	36×30×15	円形	*		
P512 コ－15	39×30×97 （テラス9）	楕円形	*	縄文前期	
P513 サ－15	59×44×25 （テラス6）	不整楕円形	*	縄文前期・中期	
P514 ク－11	44×39×17	円形	黒褐色土(10YR3/2)	縄文中期	
P515 コ－15	53×20×11	不整楕円形	*		P447・P508に切られる。
P516 サ－14	54×31×20 （テラス13）	不整楕円形	*		
P517 サ－14	31×24×25	楕円形	*		
P518 コ－15	61×43×9	不整楕円形	*		P474に切られる。
P519 ケ－14	19×18×20	円形	黒色土(10YR2/1)		
P520 ケ－14	67×47×17	楕円形	灰黄褐色土(10YR4/2)		
P521 ケ－14	25×22×5	円形	*	弥生中期前半	
P522 ク－14	32×28×13	楕円形	*		
P523 ク－14	28×24×11	円形	*		
P524 ク－14	43×35×30	円形	*		
P525 ク－14	30×24×5	楕円形	*	土師器坏	
P526 ク－14	25×18×7	楕円形	黒色土(10YR2/1)		
P527 キ－14	31×32×16	不整楕円形	黒褐色土(10YR3/2)		D33に切られる。
P528 ク－14	44×34×16	不整楕円形	*	縄文中期	P530に切られる。
P529 ク－14	31×19×15 （テラス4）	円形	黒色土(10YR2/1)		
P530 ク－15	67×64×22	不整楕円形	黒褐色土(10YR3/2)		P528を切る。
P531 ケ－14	37×21×18	楕円形	*		
P532 ケ－14	47×23×33 （テラス14）	楕円形	*		
P533 ク－14	18×19×13	円形	黒色土(10YR2/1)		
P534 コ－13	70×43×9	不整楕円形			
P535 キ－10	38×37×10	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P537 ス－11	37×38×10	円形	*		
P539 キ－14	24×10×9	不整楕円形	黒色土(10YR2/1)		P401に切られる。
P540 ク－13	26×18×9	楕円形	*		
P541 ク－13	21×16×13	円形	*		
P542 ク－14	43×37×33 （テラス10）	円形	*		
P543 キ－14	33×48×16	円形	*		
P544 ク－14	43×29×13	楕円形	*		P553に切られる。
P545 キ－13	21×20×8	不整楕円形	灰黄褐色土(10YR4/2)		
P546 キ－13	29×23×10	円形	*		
P547 ク－14	22×20×6	円形	黒色土(10YR2/1)		
P548 ク－14	27×22×11	円形	*		
P549 ク－14	22×18×8	円形	*	弥生中期四半？	
P550 キ－14	18×17×7	円形	*		
P551 キ－13	16×15×9	円形	*		
P552 キ－13	18×14×6	円形	*		
P553 ク－14	49×36×12	円形	*		P544を切る。
P554 ケ－13	20×17×19	円形	黒褐色土(10YR3/2) 褐色に近い。		
P555 ケ－13	20×18×20	円形	*		
P556 ク－11	49×36×12	不整楕円形	*		
P567 キ－13	40×29×12	楕円形	黒色土(10YR2/1)		
P568 セ－9	38×33×12	円形	黒褐色土(10YR3/2)		
P569 セ－9	31×28×6	円形	*		
P570 セ－9	28×26×8	円形	*		
P571 ソ－9	78×44×4	楕円形	* 焼土有。	土師器(内面)	
P572 ソ－8	30×26×13	円形	*	土師器坏	
P573 ソ－14	71×64×14	円形	*		
P574 セ－13	54×43×16	円形	*		
P575 セ－14	41×35×23 （テラス4）	円形	褐色土(10YR2/1) 炭化物有。		
P576 ソ－15	25×23×21	円形	灰黄褐色土(10YR4/2)		
P577 ソ－14	74×69×34	楕円形	*		
P578 セ－12	64×28×11	楕円形	砂利	土師器甕	
P580 セ－13	30×24×12	方形	黒褐色土(10YR3/2)		縄文区外にかかる。
P581 セ－12	36×32×34 （テラス24）	円形	黒色土(10YR2/1)		
P582 セ－13	28×27×39	円形	黒褐色土(10YR3/2)	陶文中期	
P583 セ－13	60×47×26 （テラス13）	楕円形	*		
P584 ソ－13	30×19×28	楕円形	*		
P585 ソ－13	34×27×5	楕円形	*		
P586 ソ－14	35×35×34	楕円形	*		
P587 ソ－14	32×28×14	円形	*		
P588 ス－11	80×56×30	楕円形	褐色土(10YR4/4)		
P589 ソ－15	73×62×27	円形			
P590 コ－13	33×30×38	方形			D17を切る。
P591 サ－6	32×30×7	円形	*		
P592 サ－7	41×30×9	楕円形	*		

第12表　ピット計測表（7）

8．遺構外出土遺物

ここでは表土除去並びに遺構確認時と試掘調査の折りに出土した遺物について記載する。今回の調査では、調査区西側が遺構確認面まで浅かった為、表土除去時に遺物が多く採集された。また調査区東側においては地形が片貝川側に落ち込んでいたため基本層序でも述べたが遺構確認面上の第Ⅴ層 黒褐色土が遺物包含層化しており多量の縄文土器と石器が検出された。これら遺物の内、特徴的なものを抽出し図示した。

1は灰釉陶器碗である。2と3は土師器坏で、2は内面黒色処理が施されている。4は羽釜の羽の部分で胎土はやや荒く、色調は赤化していた。5は土師器甕で、内外面それぞれ縦方向と横方向のハケ目の残るナデが行われている。特徴は甲斐型土器の厚口縁型甕に似る。6は土師器鍋の底部と考えられる。厚く重量感がある。4の羽釜の胎土に似る。7は土製品の羽口である。8は縄文中期のいわゆる佐久系土器の口縁部である。9～12は繊維の混入した縄文前期初頭を中心とする土器群である。12は口縁部が肥厚し指突が2段おこなわれている。特徴から塚田式と考えられる。13からは石器類で、石鏃については無茎と有茎がそれぞれ存在する。この他には石錐、削器、打製石斧、凹石等があった。29は磨製石斧の未成品と考えられる。



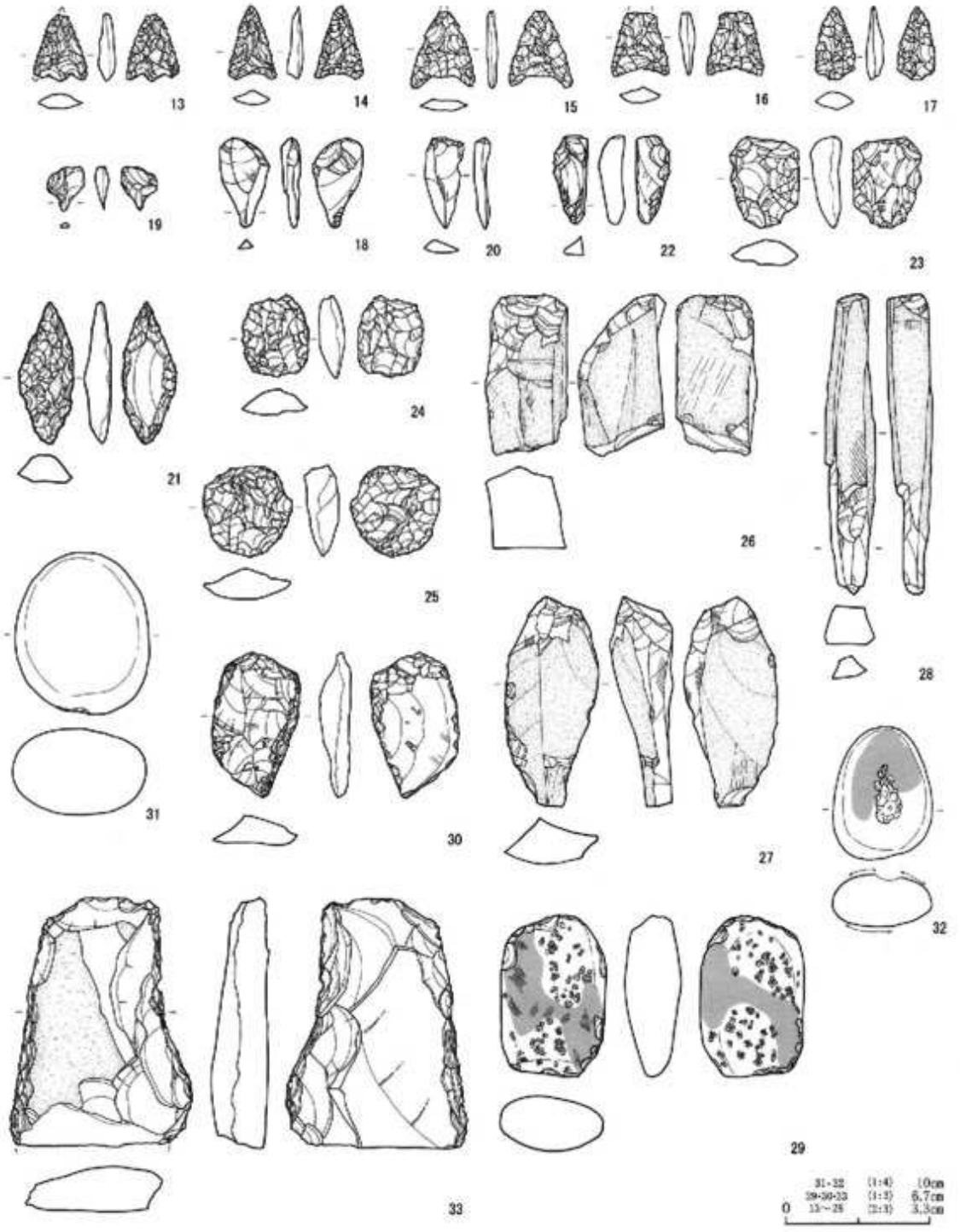
第47図　遺構外出土遺物実測図（1）

9．調査のまとめ

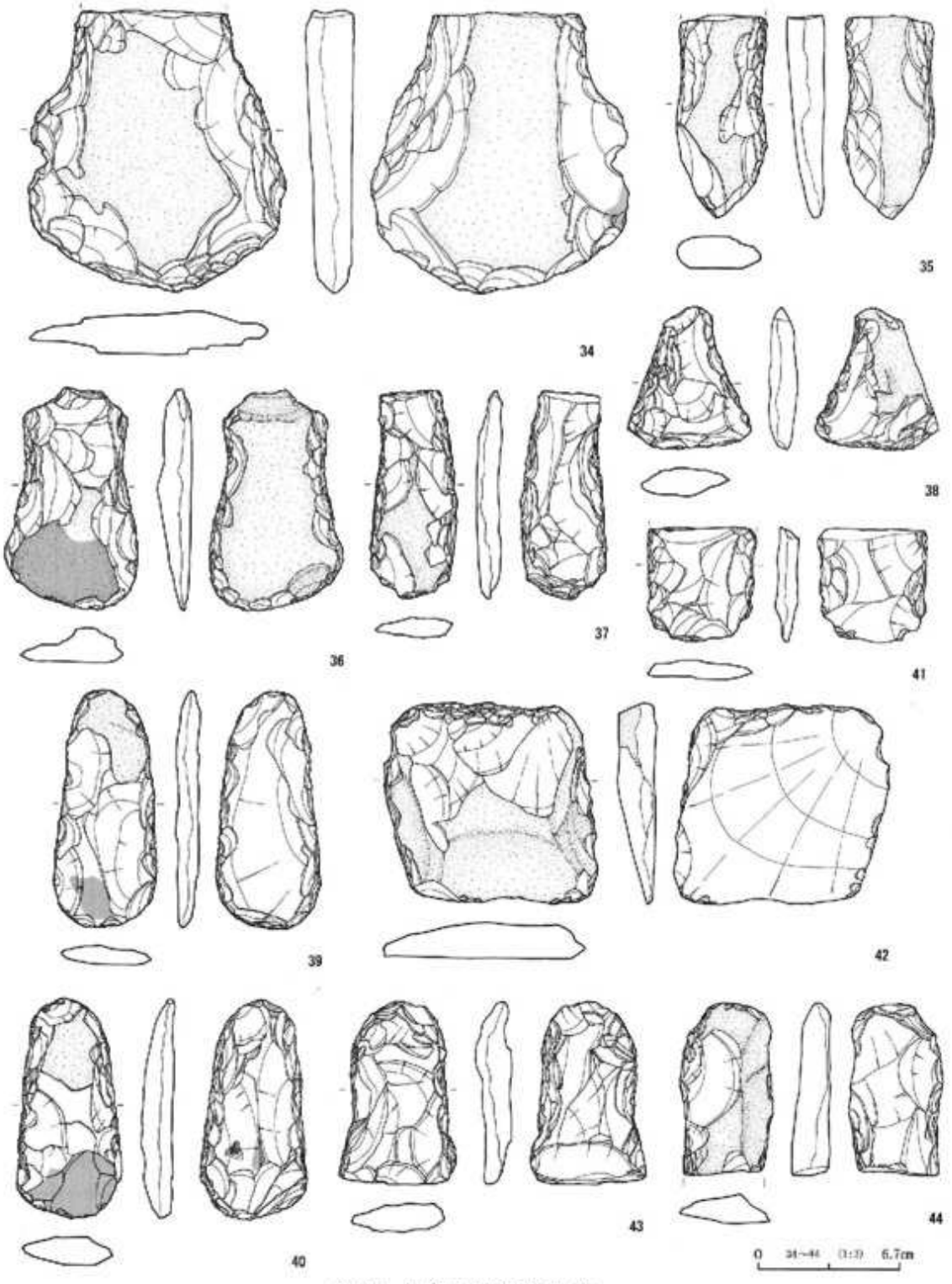
今回の発掘調査は小田切地区で初めての本格的な埋蔵文化財調査となった。よって、調査成果も数多くのものがあり、また新たな課題も見いだされた。本項ではそれら時代を追い概略的に記し調査のまとめとしたい。

まず、縄文時代としては中期後半の住居址から加曽利ＥⅢ式、曽利式、佐久系のそれぞれの土器群が出土し、供伴関係が押さえられたことである。また佐久系土器の分布域についても新たな資料の追加となった。次に弥生時代としては、今まで佐久平で空白となっていた中期中葉の資料が発見されたことである。今までも前山の瀧の下遺跡等で断片的には存在したが、まとまった資料報告は今回が初めてとなる。最後に平安時代であるが、非常に多くの成果があった。まず、東信地域で初となる竈形土器の出土、臼田地域以南では初めてとなる皇朝十二銭の出土、白磁や緑釉陶器といった希少品の出土や甲斐型土器の出土などである。これらの出土品の示すものは反田遺跡に存在した平安集落の性格論に及ぶが、これら出土品のみを持って郷家或いは駅家的な結論に導くのはあまりにも早計である。当遺跡発見の普遍的な住居形態や集落構成を考えれば慎重な考察が望まれるのは明らかである。

以上、雑泊なまとめであるが新たな課題を提示したことでまとめとしたい。



第48図　遺構外出土遺物実測図（2）



第49図　遺構外出土遺物実測図（3）

第13表　H1号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 内径(長)	底径(幅)	器高(厚)	成形・調整・文様 部位	成形・調整・文様 外面	備考	出土位置
1	縄文	深鉢	(27.9)		(25.8)	口縁から胴下半	縄文LR縦・無帯・沈線	加曽利EⅡ～Ⅲ	1cm
2	縄文	深鉢	－	8.8	(29.7)	口縁部文様帯から底部	縄文RL縦・無帯・沈線	加曽利EⅢ　埋甕	－30cm
3	縄文	深鉢	(19.8)	－	(18.1)	口縁から胴部	縄文RL縦・沈線	加曽利EⅢ	Ⅱ区・Ⅲ区
4	縄文	深鉢	(15.5)	－	(15.9)	口縁から胴下半	縄文LR縦・沈線	加曽利EⅢ	Ⅳ区　1cm
5	縄文	深鉢	13.4	－	(17.2)	口縁から胴部	縄文RL縦・沈線	加曽利EⅢ	Ⅱ区・Ⅲ区　13cm
6	縄文	深鉢	－	－	－	口縁から胴部	縄文RL縦・沈線	加曽利EⅢ	Ⅲ区
7	縄文	鉢	－	－	－	胴部	縄文RL縦・沈線・把手　4/2同一個体	加曽利EⅢ　乳白色粒子含む.	Ⅱ区　14cm
8	縄文	深鉢	(17.0)	6.8	21.8	平元形	縄文RL縦・沈線	加曽利EⅢ	9cm
9	縄文	深鉢	22.2	－	(16.6)	口縁から胴部	縄文L縦・沈線　53と同一個体	加曽利EⅢ	Ⅱ区・焼土　－4cm
10	縄文	深鉢	－	7.9	(5.9)		縄文?・沈線	加曽利EⅢ	Ⅲ区
11	縄文	深鉢	24.5		(16.5)	口縁から胴下半	沈線・縄文RL縦	加曽利EⅢ	Ⅱ区　12cm
12	縄文	深鉢	32.1	－	(34.9)	口縁から胴下半	縄文RL口縁部横,胴部縦・沈線	加曽利EⅢ	Ⅱ区　17cm
13	縄文	深鉢	(20.8)	－	(22.0)	口縁から胴下半	隆帯・沈線	称名系	13cm
14	縄文	深鉢	－	8.6	(25.4)	胴部から底部	沈線	称名系　埋甕	30cm
15	縄文	深鉢	(26.6)	(8.0)	31.2	ほぼ完形	隆帯・沈線	称名系　埋甕	－25cm
16	縄文	深鉢	(21.2)	(8.4)	27.8	平元形	隆帯・沈線	称名系	Ⅳ区？　6cm
17	縄文	深鉢	(39.0)	－	(43.3)	底部を欠くがほぼ完形	縦帯・沈線	称名系	7cm
18	縄文	有孔土器鉢	(13.6)	－	(19.1)	平元形	沈線	曽利か？	－1cm
19	縄文	浅鉢	12.6	(5.5)	15.0	平元形	沈線	登利V	Ⅳ区
20	縄文	深鉢	(12.3)	5.0	15.3	平元形	沈線	称名系か？	Ⅳ区　16cm
21	縄文	深鉢	(16.4)	－	(11.8)	口縁から胴部	隆帯・沈線	称名系	Ⅱ区・焼土
22	縄文	深鉢	－	7.0	(6.0)	底部	沈線	称名系	Ⅱ区
23	縄文	深鉢	－	4.7	(3.4)	底部	沈線		Ⅱ区
24	縄文	深鉢	－	3.4	(3.2)	底部	縦沈線	称名系か？	Ⅱ区
25	縄文	深鉢	－	10.6	(17.5)	胴下半から底部	沈線	登利V	11cm
26	縄文	鉢？	－	(8.2)	(5.6)	底部	沈線		16cm
27	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	把手		14cm
28	縄文	浅鉢	－	－	－	胴部	小把手	加曽利Eか？	Ⅰ区
29	縄文	鉢？	－	－	－	胴部	沈線・把手	登利か？	Ⅰ区
30	縄文	深鉢	(24.0)	－	(9.9)	口縁から胴部			8cm
31	縄文	深鉢	(38.6)		(50.9)	底部を欠くがほぼ完形	縦沈線	登利V	Ⅰ～Ⅳ区　7cm
32	縄文	深鉢	(20.3)	7.7	23.8	平元形	沈線	登利V	Ⅱ区・Ⅲ区　6cm
33	縄文	深鉢	－	10.7	(7.4)	底部			Ⅱ区・Ⅲ区　19cm
34	縄文	深鉢	－	9.0	(8.9)	底部			Ⅱ区
35	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	沈線	登利V	12cm
36	縄文	深鉢	－	－	(19.9)	胴部	隆帯・沈線　36・39同一個体	称名系	15cm
37	縄文	深鉢	－	－	－	胴下半	隆帯・沈線	登利IV～V	Ⅰ区
38	縄文	深鉢		－	－	胴下半	隆帯・沈線	登利IV～V	Ⅲ区
39	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	沈線　36・39同一個体	登利もしくは称名系	Ⅰ区　2cm
40	縄文	深鉢	－	－	(19.1)	平元形	縄文RL口縁区内と胴上部横,胴部縦・沈線	加曽利EⅢ	Ⅱ区・Ⅲ区　8cm
41	縄文	深鉢	－	－	(7.4)	口縁部	縄文RL縦・沈線	加曽利EⅢ～Ⅳ	Ⅳ区
42	縄文	深鉢	－	－	(10.5)	口縁部	縄文LR縦・沈線	称名系EⅢ	Ⅱ区
43	縄文	深鉢	－	－	(5.0)	口縁部	縄文RL縦,横・沈線	加曽利EⅢ	Ⅰ区
44	縄文	深鉢	－	－	(19.8)	口縁部・胴部	縄文RL口縁区内横,胴部縦・沈線	称名系EⅢ　動物やや多い	Ⅲ区　17cm
45	縄文	深鉢	－	－	(8.1)	口縁部	縄文RL縦・沈線・隆帯	称名系EⅢ	20cm
46	縄文	深鉢		－	(10.0)	口縁部	縄文RL横・沈線	加曽利EⅢ	9cm
47	縄文	鉢		－	－	胴部	縄文RL横・沈線・隆帯　7と同一個体	称名系EⅢ	Ⅲ区

48	縄文	深鉢	－	－	(13.3)	口縁部・胴部	縄文RL口縁強張、胴部縄・沈線	加曽利E III		一括cm
49	縄文	深鉢		－	(13.0)	口縁部・胴部	押圧・沈線・縄文RL,口縁区内横、胴部縄	加曽利E III		IV区 22cm
50	縄文	深鉢	－	－		胴部	隆帯・沈線・縄文RL,口縁区内横、胴部縄	加曽利E III		表採
51	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL縄・沈線	加曽利E III		1 5cm
52	縄文	深鉢	－	－	－	底部	縄文LR縄・沈線	加曽利E III		3 IX・III区 8cm
53	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文LR縄・沈線　9と同一個体	加曽利E III		II区
54	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL縄・沈線	加曽利E II～III		1 6cm
55	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL縄・沈線	加曽利E II～III		IV区 20cm
56	縄文	深鉢		－	－	胴部	縄文・隆帯・沈線			表
57	縄文	深鉢	－	－	－	胴下半から底部	無頭状で真による刺突・沈線	白色系下多し		1～IV区 7cm
58	縄文	深鉢・浅鉢	－		(8.5)	口縁部	沈線	在久系かヤ		II区
59	縄文	深鉢		－	(23.6)	口縁部・胴部	沈線	在久系かヤ		II区
60	縄文	深鉢	－	－	(11.4)	口縁部・胴部	沈線　60・61同一個体	堀利V		I区・III区
61	縄文	深鉢	－		(7.0)	口縁部	沈線　60・61同一個体	曽利		表採
62	縄文	深鉢		－	(6.8)	口縁部	沈線	堀利V		1 5cm
63	縄文	深鉢	－	－		胴部	沈線・刺突	在久系かヤ		I区
64	縄文	深鉢	－		－	口縁部	隆帯・沈線	在久系かヤ		I区・IV区
65	縄文	深鉢		－	(10.7)	口縁部	沈線	加利V もしくは在久系		II区・III区 6cm
66	縄文	深鉢	－		－	胴部	沈線	在久系かヤ		I区 8cm
67	縄文	深鉢		－	－	胴部	沈線	在久系かヤ		II区
68	縄文	深鉢	－		(18.2)	口縁部・胴部	隆帯・沈線	在久系　内面横撫でやや顕著、指頭痕あり		I・II・IV区 7cm
69	縄文	深鉢	－	－	(12.8)	口縁部	押圧・沈線　69・70同一個体	在久系　内面横撫で顕著、指頭痕あり		II区
70	縄文	深鉢	－		－	胴部	隆帯・沈線　69と同一個体?	在久系　内面横撫で顕著、指頭痕あり・3mm大粒子あり		II区
71	縄文	深鉢		－	(12.3)	口縁部	隆帯・沈線	在久系　内面横方向撫痕、指頭痕あり		I区
72	縄文	深鉢	－		(8.7)	口縁部	隆帯・沈線	在久系　内面横撫で顕著、指頭痕あり		III区
73	縄文	深鉢	－	－	(5.4)	口縁部	押圧・沈線　73・74・75・76・78は同一個体の可能性高い	在久系　内面横撫で顕著		II区
74	縄文	深鉢		－	(8.0)	口縁部	押圧・沈線　73・74・75・76・78は同一個体の可能性高い	在久系　内面横撫で顕著		II区
75	縄文	深鉢	－		(3.9)	口縁部	沈線　73・74・75・76・78は同一個体の可能性高い	在久系　内面横位で顕著		I区
76	縄文	深鉢	－	－	(8.6)	口縁部	隆帯・沈線　73・74・75・76・78は同一個体の可能性高い	在久系　内面横撫で顕著、指頭痕あり		I区 13cm
77	縄文	深鉢	－		(6.1)	口縁部	隆帯・沈線	在久系		I区
78	縄文	深鉢		－	(7.7)	口縁部	押圧・沈線　73・74・75・76・78は同一個体の可能性高い	在久系　内面横撫で顕著		3cm
79	縄文	深鉢	－		(8.5)	口縁部	沈線	在久系		IV区 3cm
80	縄文	深鉢		－	－	口縁部文様帯	隆帯・沈線　79と同一個体?	在久系　白色の3mm大の粒子含む		18cm
81	縄文	浅鉢	－	－	－	胴部	結束付き隆帯・沈線			I区
82	縄文	深鉢	－		－	胴部	結束付き隆帯・沈線			I区
83	縄文	深鉢		－	－	胴部	無沈線			I区
84	縄文	深鉢	－	－		胴部	沈線			II区・III区・表土
85	縄文	深鉢	－		(8.6)	口縁部	無沈線	在久系かヤ		IV区
86	縄文	鉢		－	(14.6)	口縁部	隆帯・沈線	加曽利E か?		22cm
87	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL縄、横・竹管文	黒褐　繊維少量		表採

No.	器種	石材	産地	長さ(cm)	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
88	石鏃	チャート	不明	1/1	2.45	1.55	0.3	1.01	II区
89	石鏃	チャート	不明	1/1	2.35	1.3	0.5	1.08	IV区
90	石鏃	黒曜石	不明	1/1	2.0	1.5	0.25	0.45	II区
91	石鏃	黒曜石	不明	1/1	1.1	1.2	0.2	0.15	I区表リ方
92	石錐	黒灰色チャート	不明	1/1	2.4	1.65	0.6	7.1	表採
93	石匙	黒曜石	不明	1/1	2.65	3.9	0.65	5.62	IV区
94	石錐	黒灰色チャート	不明	1/2	(4.3)	(4.95)	(1.1)	(17.9)	II区
95	石板	黒曜石	不明	1/1	3.55	4.1	0.9	13.4	IV区
96	石板	黒曜石	不明	1/1	3.45	3.75	1.7	13.8	表採

97	石核	黒曜石	1/1	3.6	4.7	1.6	27.8			IV区
98	掻器	黒曜石	1/1	2.8	1.8	0.8	2.81			II区
99	打製石斧	輝石安山岩	1/1	17.3	6.6	1.9	299.9			−7cm
100	打製石斧	黒色頁岩安山岩	1/1	13.7	6.4	1.8	159.5			IV区
101	打製石斧	雑質砂岩	1/1	9.6	4.5	1.0	51.2	刃部に使用による磨滅痕		−20cm
102	打製石斧	輝石安山岩	2/3	(10.7)	(6.3)	(1.3)	(94.7)	刃部に使用による磨滅痕		I区
103	打製石斧	輝石安山岩	1/2	(7.6)	(5.7)	(1.1)	(64.3)			IV区ホリ
104	打製石斧	輝石安山岩	1/1	10.2	5.2	1.4	92.4			II区
105	打製石斧	輝石安山岩	2/3	(14.7)	(7.3)	(2.1)	(223.3)			III区
106	打製石斧	輝石安山岩	1/1	16.7	6.6	1.9	249.1			24cm
107	打製石斧	輝石安山岩	3/4	(10.4)	(5.5)	(0.9)	(79.2)	刃部に使用による磨滅痕		I区
108	打製石斧	輝石安山岩	3/4	(12.5)	(6.3)	(1.2)	(111.4)	刃部に使用による磨滅痕		IV区
109	打製石斧	輝石安山岩	1/1	13.0	6.1	1.4	145.0	刃部に使用による磨滅痕		IV区
110	打製石斧	輝石安山岩	1/1	13.8	6.4	1.3	173.5	刃部に使用による磨滅痕		IV区
111	打製石斧	輝石安山岩	1/1	13.2	5.0	2.2	195.8			2cm
112	打製石斧	輝石安山岩	1/1	14.8	5.2	1.2	102.8	刃部に使用による磨滅痕		19cm
113	打製石斧	輝石安山岩	1/1	14.4	4.9	1.3	138.1	刃部に使用による磨滅痕		III区
114	打製石斧	輝石安山岩	1/2	(9.5)	(6.4)	(1.7)	(159.4)			I区
115	打製石斧	輝石安山岩	3/4	(13.7)	(7.5)	(2.0)	(279.8)			IV区
116	打製石斧	輝石安山岩	1/1	16.7	5.9	1.1	158.1	刃部に使用による磨滅痕		IV区
117	斧頭	雑質砂岩	1/1	5.8	7.2	1.5	73.6			II区
118	削器	褐色チャート	1/1	5.9	9.4	1.3	56.7			IV区
119	削器	黒色頁岩安山岩	1/1	6.9	8.5	1.4	82.3			IV区
120	削器	黒色頁岩安山岩	1/1	6.8	7.8	1.5	91.4			II区
121	削器？	輝石安山岩	1/1	7.6	15.7	1.2	168.2			4cm
122	削器？	頁岩	1/1	4.3	9.2	0.9	43.0			IV区
123	打斧？	雑質砂岩	1/1	15.7	4.1	1.8	141.0			I区
124	磨斧	かんらん岩	3/4	(10.2)	(4.1)	(7.6)	(209.7)			IV区
125	磨斧	安山岩	1/1	14.4	4.5	2.6	266.0			−9cm
126	すり・敲石	輝石安山岩	1/1	17.0	10.8	4.4	1198.6	正面・裏面にすり・敲打痕		19
127	すり・敲石	安山岩	1/1	16.2	6.2	4.3	568.0	正面にすり面、下端部・左側面に敲打痕		III区ホリ方
128	敲石	輝石安山岩	1/1	10.9	8.7	4.7	658.3	側面部に敲打痕		3cm
129	すり・敲石	輝石安山岩	1/1	13.5	8.4	3.9	606.8	正面にすり面、上端部・左側面に敲打痕		II区
130	すり石	輝石安山岩	1/1	12.4	6.1	4.2	476.3	正面にすり面		8cm
131	すり石	輝石安山岩	1/1	11.4	7.5	6.3	998.2	正面にすり面		6cm
132	敲石	凝灰岩	1/1	10.9	9.5	5.5	713.7	正面・裏面・上端部に敲打痕		−2cm
133	敲石	凝灰岩	1/1	(10.9)	(9.7)	(3.1)	(304.0)	正面・裏面・上端部に敲打痕		IV区
134	敲石	輝石安山岩	1/1	13.2	6.7	4.7	547.0	正面・左側に敲打痕		7cm
135	敲石	雑質砂岩	1/1	7.5	5.3	3.8	186.8	正面・裏面に敲打痕		2cm

第14表　H2号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	法量 高台径(cm)	法量 器高(cm)	成形・調整・文様 内面	成形・調整・文様 外面	備考	出土位置
1	須恵器	坏	-	5.9	(1.6)		ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測	I区
2	土師器	坏	13.4	5.6	4.4	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	完全実測　重量痕あり（水平用）	I区　貯蔵穴　−8cm
3	土師器	坏	16.8	7.0	6.4	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	完全実測	I区　貯蔵穴　−11cm
4	土師器	坏	13.4	5.0	4.3	ミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測　墨書痕	I・II区 貯蔵穴　14cm
5	土師器	椀	15.2	7.4	6.1	暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)→付高台	完全実測　墨書痕	II区
6	土師器	坏	13.4	5.3	4.3	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り(右)	完全実測　墨書痕あり（水平用）	I区　2cm
7	土師器	坏	12.8	5.2	4.3	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り(右)	完全実測	3cm

8	土師器	坏	12.7	6.2	4.2	暗文→黒色処理	底部回転糸切り（△）	完全実測	II区・ｸﾘｯﾄ内 ～2cm
9	土師器	坏	13.7	5.8	3.9	暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（有）	完全実測	I区・II区 0cm
10	土師器	坏	13.8	5.4	4.1	暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（△）	完全実測	岩盤穴 －13cm
11	須恵器	蓋	－	11.8	(5.1)	こて状痕→ナデ	胴部ヘラケズリ→底部ヘラケズリ	回転実測	室内面に自然釉付着
12	土師器	小形壺	10.4	6.1	9.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部に糸切り（有）　底部外周回転ヘラケズリ	完全実測	IV区
13	土師器	甕	20.2	－	(13.2)	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ	胴部ヘラケズリ・口縁ヨコナデ	回転実測	I区 －12cm
14	土師器	甕	23.0	8.7	(29.9)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ナデ→胴部ヘラ下持ちヘラケズリ	回転実測	II区・III区 11cm
15	土師器	甕	21.0	10.0	24.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ナデ・底部外周回転ヘラケズリ	完全実測	I区・III区 2cm

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
10	板石	凝灰岩	1/1	12.6	6.9	6.4	780.6		2cm

第15表　H3号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底部(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	成形・調整・文様 外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	15.0	－	(5.0)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	
2	土師器	甕		－	－	ヘラナデ	底部回転糸切り（有）	拓本	
3	土師器	坏	－	8.0	(2.2)	ミガキ→黒色処理	底部回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	
4	土師器	甕	18.2	－	(5.0)	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	回転実測	
5	土師器	甕		8.0	(2.8)	ロクロナデ	胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	回転実測	
6	土師器	甕	25.3	－	(13.9)	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	胴部ナデ・口縁ヨコナデ	回転実測	

第16表　H4号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底部(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	成形・調整・文様 外面	備考	出土位置
1	土師器	甕	14.2	－	(4.7)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り（有）→付高台	完全実測	I区 3cm
2	土師器	坏	12.8	5.9	3.8	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	3cm
3	土師器	甕	27.0	－	(7.4)	口縁ヨコナデ→胴部ハケナデ(ヨコ)	胴部ハケナデ（タテ）→口縁ヨコナデ	回転実測	ｸﾘｯﾄ
4	土師器	甕	26.6	－	(10.8)	口縁ヘラケズリ→胴部ハケナデ(ヨコ)	胴部ハケナデ（タテ）・口縁ヨコナデ	回転実測	ｸﾘｯﾄ2
5	須恵器	甕	－	－	－	ヨコナデ	タタキ	拓本	ｸﾘｯﾄ

第17表　H5号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底部(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	成形・調整・文様 外面	備考	出土位置
1	灰釉陶器	耳皿	10.5	4.2	(1.9)	ロクロナデ　施釉	底部回転糸切り（△）	完全実測　重自然釉付着	II区
2	灰釉陶器	椀	15.8	7.8	5.1	ロクロナデ　施釉	ロクロナデ・脚部下に底部回転ヘラケズリ→付高台・施釉	完全実測	
3	灰釉陶器	椀	－	6.7	(2.0)	ロクロナデ　施釉	底部回転ヘラケズリ→付高台・施釉	完全実測	～2cm
4	須恵器	坏	12.4		(3.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測　重黒斑あり	IV区
5	須恵器	坏	16.0	－	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ・荒作風回転ヘラケズリ→つまみ貼付	回転実測　重内外自火だすき有	床下1点
6	土師器	坏	12.6	7.3	3.9	ミガキ	ロクロナデ・底部回転糸切り（△）	完全実測	IV区・ｸﾘｯﾄ
7	土師器	坏	12.4	6.8	3.8	ロクロナデ（部分的に）ミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り（△）	完全実測　重墨書あり	I区
8	土師器	甕	12.8	6.8	2.4	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切り（有）	完全実測	－3cm
9	土師器	坏	13.4	5.5	3.8	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（△）　底部外周手持ちヘラケズリ	完全実測	IV区 －3cm
10	土師器	坏	12.2	5.5	4.1	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り（有）	完全実測　重墨痕	IV区 －2cm
11	土師器	坏	12.0	4.3	3.7	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り（△）	回転実測	I区
12	土師器	坏	14.7	6.7	4.9	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→手持ちヘラケズリ	完全実測	I区・IV区 ～1cm
13	土師器	坏	12.2	6.7	4.0	暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（有）	完全実測　重側面歪しい	I区・IV区
14	土師器	坏	12.8	5.1	4.3	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り（△）	回転実測	I区
15	土師器	坏	13.7	6.3	4.3	ロクロナデ（部分的に）ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（△）→底部外周手持ちヘラケズリ	回転実測	I区・II区 －3cm
16	土師器	坏	13.2	4.4	4.3	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ・底部と底部外周手持ちヘラケズリ	回転実測	
17	土師器	坏	13.5	5.4	4.1	（部分的に）ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（有）	完全実測　重墨あり	IV区
18	土師器	坏	12.0	5.6	3.9	ロクロナデ　暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部と底部外周手持ちヘラケズリ	回転実測	3cm
19	土師器	椀	14.8	－	(4.7)	ロクロナデ　暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（有）→付高台	完全実測　重スス付着	I区

20	土師器	坏	13.1	5.6	3.8	暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（有）	完全実測		3cm
21	土師器	坏	14.8	6.6	4.3	暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測		Ⅲ区 1cm
22	土師器	坏	13.0	5.4	3.6	ロクロナデ 暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（有）	回転実測		Ⅳ区
23	土師器	坏	12.9	10.0	3.3	ロクロナデ 暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測		Ⅳ区
24	土師器	坏	12.7	6.9	3.7	暗文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り（右）	完全実測	墨書あり（字不明）	Ⅱ区
25	土師器	坏	12.7	6.5	3.6	暗文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（有）	完全実測		1区
26	土師器	坏	16.1	8.0	5.8	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ 高台と底部外周手持ちヘラケズリ	完全実測	重心部にヘラ記号あり	Ⅳ区
27	土師器	椀	－	7.4	(2.7)	ミガキ	底部回転糸切り（回転方向不明）→付高台	完全実測		ﾎﾘ
28	土師器	椀	－	7.9	(2.0)	ミガキ→黒色処理	底部糸切り→ﾋﾞ高台	完全実測		1区
29	土師器	椀	－	8.1	(1.8)	ミガキ→黒色処理	底部回転糸切り（左）→付高台	完全実測		1区
30	土師器	鉢	－	7.5	(1.5)	ミガキ→黒色処理	底部回転糸切り（左）→付高台	完全実測		－1cm
31	須恵器	甕頸部	11.9		(8.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測		3cm
32	土師器	鍋ヶ	11.7	4.8	10.4	ロクロナデ 口縁ヨコナデ・鍋部上半ヘラナデ	ロクロナデ・底部糸切り→底部外周手持ちヘラケズリ	完全実測	墨内面墨痕	1区・Ⅱ区
33	土師器	甕	17.1	7.8	17.7	ロクロナデ	ロクロナデ→底部と底部外周手持ちヘラケズリ	完全実測		1区 5cm
34	土師器	甕	19.0	6.5	14.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り→底部外周手持ちヘラケズリ	完全実測		1区・Ⅳ区・ﾎﾘ 0cm
35	土師器	壺	－	－	－	口縁と胴部ハケナデ（ヨコ）	口縁ヨコナデ・口縁接部と胴部ハケナデ（タテ）	破片実測		1区・Ⅱ区
36	土師器	壺			－	口縁ハケナデ（ヨコ）胴部ハケナデ（ヨコ）	口縁ヨコナデ→胴部ハケナデ（タテ）	破片実測		Ⅳ区
37	土師器	壺	27.4	－	4.9	口縁ヨコナデ→胴部ハケナデ（ヨコ）	口縁ヨコナデ・胴部ハケナデ（タテ）	回転実測		1区
38	土師器	壺	29.3	－	4.4	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	回転実測		1区・ﾎﾘ1区 －2cm
39	土師器	壺	－	－	－	口縁ハケナデ（ヨコ）胴部ハケナデ（ヨコ）	口縁ヨコナデ・胴部ハケナデ（タテ）	破片実測		Ⅳ区
40	土師器	壺	－	－	－	口縁ヨコナデ→胴部ハケナデ（ヨコ→タテ）	胴部ハケナデ（タテ）→口縁と胴部ヨコナデ	破片実測	内面墨痕	1区・ﾎﾘ2 －2cm
41	土師器	壺			3.8	(2.5) ヘラナデ	底部ヘラナデ→縁部手持ちヘラケズリ	完全実測		1cm
42	土師器	壺	17.0		11.4	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→口縁から胴部ヘラナデ	回転実測		Ⅳ区 0cm

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
43	敲石	砂岩	2/3	(14.3)	(6.7)	(4.4)	(683.8)	乙類品、ド塩品に敲打痕	6区
44	刀子	鉄	1/2	(4.2)	(0.9)	(0.25)			Ⅱ区
45	百済押型	銅	2/3						Ⅱ区

第18表　H6竪住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(底径)	底径(高)	器高(厚)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	須恵器	椀	－	5.9	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右） 底部回転ヘラケズリ	完全実測	Ⅳ区
2	土師器	椀	－	7.7	(2.9)	ミガキ→黒色処理	底部糸切り→付高台	完全実測	Ⅳ区
3	土師器	椀	15.2	7.2	5.1	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ→付高台	完全実測	Ⅱ区
4	土師器	坏	14.0	－	3.7	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	回転実測	第二次調査ボラけている Ⅳ区・ﾎﾘ1
5	土師器	坏	13.6	6.1	3.9	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り（右）	完全実測 墨部分的に、決定成をうける	ﾎﾘ
6	土師器	坏	13.6	6.0	4.0	ミガキ	底部回転ヘラケズリ	完全実測 墨書抹ましい	Ⅳ区
7	土師器	坏	12.2	5.1	4.4	ミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り（左）	完全実測 墨書抹	1区・Ⅱ区

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
8	鉄鏃	鉄	2/3	(5.6)	2.6	(0.4)			

第19表　H7竪住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(底径)	底径(高)	器高(厚)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	灰釉陶器	椀	－	－	－	ロクロナデ 施釉	ロクロナデ→施釉	回転実測	Ⅱ区
2	灰釉陶器	椀	9.6	5.2	2.8	施釉？	底部回転ヘラ切り→付高台	完全実測 重外面自然釉付着	Ⅱ区
3	土師器	椀	13.0	－	(4.7)	ロクロナデ	ロクロナデ・底部糸切り→付高台	回転実測	Ⅱ区・ﾎﾘ2
4	土師器	椀	13.8	7.9	5.1	ミガキ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→付高台	完全実測 墨痕	1区 －1cm
5	土師器	坏	11.4	5.0	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測 墨痕部	Ⅱ区
6	土師器	坏	12.3	5.1	3.1	ミガキ ・暗文	ロクロナデ・底部回転糸切り（右）	完全実測	ﾎﾘ2
7	土師器	坏	13.8	6.4	3.8	ロクロナデ 暗文→黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り（左）	完全実測 墨書あり（字不明）	1区
8	土師器	坏	11.8	5.7	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測 墨書あり（字不明）	Ⅱ区

9	土師器	坏	12.7	6.0	3.5	ミガキ	ロクロナデ・底部回転糸切(右)	完全実測 ※墨書あり（字不明）	I区・II区・IV?	
10	土師器	坏	12.5	6.7	3.4	ミガキ	ロクロナデ・底部回転糸切(右)	完全実測 ※墨書あり（字不明）	I区	
11	土師器	坏	13.4	6.8	4.3	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切(右)	完全実測	I区・I16—I区	
12	土師器	坏	12.5	6.1	3.6	ヒラウチナデ	ロクロナデ・底部回転糸切(右)	完全実測	7m	
13	土師器	皿	24.4	—	(8.7)	口縁ヨコナデ→横位ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	回転実測	I区・I16—II区	
14	土師器	皿	14.3	—	(11.4)	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ→ヘラナデ	回転実測	IV?	
15	土師器	甕	—	3.0	(7.8)	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ	完全実測	I16—I区・IV区	
16	土師器	鍋	—	8.0	(5.6)	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切又は転力向糸切)・胴上半部はヘラケズリ	完全実測	II区・I16	
17	土師器	甕	—	7.8	(20.9)	ヘラナデ	胴部ヘラケズリ・底部未整備	回転実測	I区・IV?	
18	土師器	羽釜	22.8	-	(14.3)	ヘラナデ	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ→鍔貼付	回転実測	I区・I16—I区	
19	土師器	鍋形	—	-		横方向のハケ目のナデ	底抜け、長い部分込み	鍋口縁		
20	土師器	鍋形	—	—	—	横方向のハケ目のナデ	縦方向のハケ目のナデ	口縁部	I16 I区	
21	土師器	鍋形	—	—	—	横方向のハケ目のナデ	縦方向のハケ目のナデ	口縁部	II区	
22	土師器	鍋形	—	—		横方向のハケ目のナデ	縦方向のハケ目のナデ	口縁部	II区	
23	土師器	鍋形	—	—	—	横方向のハケ目のナデ	縦方向のハケ目のナデ	鍋底部	I区	
24	土師器	鍋形	—	—		横方向のハケ目のナデ	縦方向のハケ目のナデ	胴部、穿孔あり	I区・II区	

No.	器種	素材	現存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
25	すり・磨石	角閃石安山岩	1/1	11.5	11.4	4.5	889.3	正面・すり面 上下部端部を右側面に磨打痕 ※被熱あ	II区
26	すり石	砂岩	1/1	6.9	7.1	1.5	114.9	正面・裏面にすり面	I区
27	こも石	輝石安山岩	1/1	15.8	7.1	3.5	518.2		II区

第20表　H8号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	縄文時代	鉢	14.7	8.0	5.5	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ・底部回転糸切→付高台・施釉	完全実測	1cm
2	灰釉陶器	碗	15.6		(4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ・施釉	回転実測	
3	土師器	坏	16.9	4.7	3.5	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切→貼付高台→底転糸切	完全実測 ※墨あり	0cm
4	土師器	粉炭坏	9.2		(4.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 ※炭みあり	IV?
5	土師器	坏	12.9	—	(4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切→付高台	完全実測 ※炭みあり	6cm
6	土師器	羽釜	20.2	—	(22.1)	ロクロナデ	ロクロナデ・鍔下手持ヘラケズリ・煤用貼付	回転実測	IV?
7	土師器	羽釜	—	—	(14.1)	ロクロナデ	ロクロナデ→鍔貼付	破片実測	IV?
8	土師器	甕	—	—	(14.9)	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁(指押さえ痕)ヨコナデ・胴部ヘラナデ	破片実測 ※内面煤跡	IV?

No.	器種	素材	現存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
9	打製石斧	被熱頁岩	1/1	12.7	6.2	1.4	116.8		床下ピット

第21表　H9号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	口師	鍋	-	—	—	施釉	施釉	破片実測	II区
2	灰釉陶器	皿	13.2	7.9	2.7	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→付高台・施釉	完全実測	II区2層
3	灰釉陶器	皿	—	8.0	(2.4)	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ・底部回転ヘラ切り→付高台→施釉	回転実測	II区1層
4	灰釉陶器	皿	—	—	—	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ・底部切離し→付高台→施釉	破片実測	I区
5	土師器	坏	11.8	5.2	3.6	ロクロナデ→ミガキ・黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測	II区
6	土師器	坏	12.2	5.9	3.3	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測	I区
7	土師器	鍋	12.3	6.8	4.8	絞文・黒色処理	ロクロナデ・底部回転糸切り→付高台	完全実測	I区 2cm
8	土師器	坏	13.5	6.6	3.9	絞文→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	回転実測 ※墨書・墨痕あり	II区IV
9	土師器	鍋	14.9	6.7	5.9	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部切離し→付高台	完全実測	II区2層
10	土師器	坏	11.9	5.3	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測 ※墨書あり（字不明）	II区
11	土師器	坏	13.2	5.3	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測 ※墨書あり（字不明）	IV区1層
12	土師器	坏	12.1	5.6	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測	IV区1層・IV区2層
13	土師器	坏	12.1	5.4	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切り(右)	完全実測	IV?
14	土師器	坏	12.1	6.1	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り(右)	完全実測	II区1層・II区2層

15	土師器	坏	12.0	5.8	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測		8TF
16	土師器	坏	11.9	4.9	3.4	暗文	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測		Ⅱ区1層・Ⅲ区1面
17	土師器	鍋	14.5	6.7	5.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り離し→付高台	完全実測		Ⅱ区1層・Ⅲ区2層・Ⅲ区1層
18	土師器	坏	12.0	5.5	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測		Ⅲ区2層
19	土師器	甕	-		-	口縁ヨコナデ→胴部ハケメ	口縁ヨコナデ→胴部ハケメ	破片実測	赤甲変質痕	Ⅰ区
20	土師器	甕	15.4	-	(2.3)	口縁ヨコナデ→口縁と胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ハケメ	回転実測		Ⅳ区1層
21	土師器	鉢	-		5.3	(10.3) ヘラナデ	ヘラナデ→底部外縁ヘラケズリ	完全実測		Ⅲ区・Ⅲ区3層　10cm
22	須恵器	壺	-	17.2	(4.9)	ロクロナデ	ロクロナデ→胴下半ヘラナデ→付高台	回転実測		8TF
23	須恵器	壺		16.2	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ→回転ヘラケズリ→底部切り離し→付高台	回転実測		8TF
24	土師器	羽釜	-		-	ヘラナデ	ヘラナデ→鍔貼付	破片実測		Ⅲ区
25	土師器	羽釜		-	-	ヘラナデ	ヘラナデ→鍔貼付	破片実測		Ⅲ区1層
26	土師器	甕		-	-	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	破片実測		9cm
27	土師器	甕	16.8		(11.9)	ロクロナデ→胴下半部ヘラナデ	ロクロナデ	回転実測		Ⅱ区2層・Ⅲ区1層

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
28	手刀	輝石安山岩	1/1	13.3	5.2	3.0	286.3		Ⅳ区1層　一4cm
29	鞍状石斧	結晶砂岩	1/2	(9.7)	(5.5)	(3.9)	(344.8)		Ⅲ区1層
30	釘？	鉄		(3.1)	(0.7)	(0.2)			表区

第22表　H10号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	須恵器	坏	-	6.8	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	
2	土師器	坏	13.0	6.4	3.2	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	
3	土師器	鉢	10.2	7.8	10.2	口縁ヨコナデ→胴から底部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ・底部糸底あり	回転実測	
4	土師器	甕	-	-	-			破片	

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
5	敲石	輝緑凝灰岩		25.3	9.0	6.0	1838.4	上下端部に敲打痕 赤褐色有	0cm

第23表　H11号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	須恵器	坏		6.8	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	8TF
2	土師器	坏	14.2	-	(3.6)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	Ⅳ区2層
3	土師器	坏	-	6.5	(3.3)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→手持ちヘラケズリ	回転実測	表区2層
4	土師器	甕	19.5	-	(9.2)	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区2層・Ⅱ区1層・Ⅲ区2層
5	土師器	甕	-	7.6	(14.3)	ハケメ	胴部ヘラケズリ→ナデ	回転実測	8TF

第24表　H12号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏		-	-	ロクロナデ→一部ミガキ	ロクロナデ	破片実測　赤褐色有（ ）	表区
2	土師器	鍋		7.9	-	ミガキ	底部糸切り？→付高台	完全実測	
3	土師器	坏	12.2	5.6	3.6	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測	4cm
4	土師器	坏	11.9	5.8	3.1	ミガキ	ロクロナデ→底部は回転糸切り（右）	完全実測	Ⅰ区　2cm
5	土師器	坏	12.3	6.3	3.2	ロクロナデ・底分的にミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測	Ⅰ区・Ⅱ区
6	土師器？	鍋	14.7	7.9	6.1	ミガキ	ロクロナデ→底部切り離し→付高台	完全実測	Ⅱ区　1cm
7	土師器	甕	-	-		ナデ	タタキ	破片	
8	土師器	甕	-	-	-	口縁ヨコナデ・胴部ハケメ（ハコ）	口縁ヨコナデ→胴部ハケメ（タテ）	破片実測　赤甲変質	
9	土師器	羽釜	-	-	-	ナデ	ヨコナデ	破片実測	P12
10	須恵器	壺	-	-	-	青灰焼	タタキ	破片	2cm

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
11	敲石	輝石安山岩	1/1	9.5	7.1	3.3	319.5	正面・裏面に敲打痕	Ⅰ区
12	刀子	鉄		(11.6)	1.5	(0.4)			0cm

第25表　H13号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	須恵器	坏	14.0	6.5	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測	I区・V下'4'・V下' 8cm
2	須恵器	坏	13.2	5.8	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測	II区　一4cm
3	須恵器	坏	12.8	5.8	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測	II区・V下' 4cm
4	須恵器	坏	12.9	6.0	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ→底部糸切り	回転実測	II区
5	須恵器	坏	－	6.1	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（左）	完全実測	IV区
6	土師器	高台皿	11.8	5.8	2.5	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）→付高台	完全実測	II区・III区　－17cm
7	土師器	高台皿	11.9	5.8	2.9	ミガキ→黒色処理	ミガキ→底部回転糸切り（右）→付高台	完全実測	IV区
8	土師器	高台皿	13.1	5.9	2.1	ミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）→付高台	完全実測	5cm
9	土師器	坏	14.9	6.7	6.0	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→付高台	完全実測　重複資あり	II区　－2cm
10	土師器	坏	14.3	6.3	4.6	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）→ヘラナデ	完全実測	II区
11	土師器	坏	11.6	5.4	4.8	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	完全実測	II区
12	土師器	甕	22.9	－	(7.9)	胴部ヘラナデ・口縁ヨコナデ	胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	回転実測	V下'
13	土師器	甕	21.0	－	19.8	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ	胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	底転実測	I区・II区　1cm
14	土師器	甕	19.0		(11.0)	口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	I区・V下'
15	土師器	甕	19.8	－	(17.5)	胴部ヘラナデ→口縁ヨコナデ	胴部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ	回転実測	II区・P2
16	土師器	鉢	25.9		(7.2)	ミガキ	ヘラケズリ	回転実測	V下'
17	土師器	甕	－	4.7	(9.4)	ロクロナデ	胴部ヘラケズリ→底部ヘラナデ	回転実測	II区
18	土師器	甕	－	7.7	(3.1)	ミガキ	ヘラケズリ→底部回転ヘラケズリ	回転実測	II区

第26表　H14号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	高台皿	14.1	7.2	3.5	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り→付高台	完全実測	I区
2	土師器	坏	12.0	5.0	3.9	ミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実測	3cm
3	土師器	坏	10.8	6.0	4.2	ロクロナデ→縁文	ロクロナデ→底部糸切り→ナデ	完全実測　重甲遺物	2cm
4	土師器	甕	13.3	－	(9.8)	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	I区別
5	土師器	甕	22.0	－	(9.1)	ヘラナデ	口縁ヘラナデ・胴部ヘラケズリ	回転実測	I区別　3cm
6	土師器	甕		－	－	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラナデ	底転実測	－3cm

第27表　H15号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	11.8	5.0	3.8	ロクロナデ→ナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）	回転実測	－4cm

第28表　H16号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	須恵器	高台坏？		8.0	(3.5)	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り（右）→付高台	回転実測　炭火だすきあ	I区・貯穴
2	須恵器	坏	11.6		(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測　炭焼実・内面に火だすきあ	貯穴
3	土師器	甕？	12.0	－	(1.3)	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	回転実測	I区
4	須恵器	甕	－	－		ナデ	タタキ	粘土　表外面 自然釉付着	貯穴
5	土師器	甕	25.1	－	(5.2)	ミガキ	ミガキ	回転実測	貯穴

第29表　H17号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 部位	外面	備考	出土位置
1	縄文	深鉢	－	－	－	口縁部	縄文RL(0段多条)横　1・2・3・6回一側体	厚目・中道　繊維多く含む	II区
2	縄文	深鉢	－		－	胴部	縄文RLの異方向縄文による羽状縄文　1・2・3・6回一側体	厚口・中道　繊維多く含む	I区
3	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL(0段多条)　1・2・3・6回一側体	厚回・中道　繊維多く含む	I区

4	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL横位	縄田・中道	繊維多く含む	8cm
5	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL横	縄田・中道	繊維多く含む	
6	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RL（0段多条）縦・斜線に組み合わせ縦帯　1・2・3・6間→側体	縄田・中道	繊維多く含む	1区
7	縄文	深鉢	－	－	－	胴部	縄文RLとLR組文による羽状縄文	縄田・中道	繊維含む	1区　8cm
8	縄文	深鉢	－	－	－	底部		縄田・中道	繊維含む	1区

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
9	石鏃	黒曜石	1/1	1.60	1.45	0.35	0.58		1区
10	石鏃	黒曜石	1/1	2.95	1.80	0.90	5.93		1K
11	石鏃	黒曜石	1/1	4.05	2.35	0.90	8.92		1区
12	磨製石斧	蛇紋岩	1/1	6.1	3.7	0.8	32.9		1cm
13	台石	安山岩	1/1	23.1	22.9	7.0	6360.0	正面にすり面	17cm

第30表　H18号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	11.7	－	－	ミガキ	ロクロナデ	四帖実測	
2	土師器	甕		6.0	－	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ→底部切り離し→付高台	完全実測	北土　0cm

第31表　土坑址出土遺物観察表

No.	地区	器種	法量 口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	土師器	坏	15.2	－	3.9	ロクロナデ・黒色処理	ロクロナデ→ミガキ	四帖実測	D3
2	土師器	坏	12.3	5.5	3.6	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り（↓）	四帖実測	D3・D3北下
3	土師器	鉢	13.3	6.4	5.8	縦文・黒色処理	ロクロナデ→底部糸切り→付高台	完全実測	D7
4	土師器	鉢？	－	－	1.8		底部切り離し→付高台	完全実測	D7
5	土師器	甕	－	7.1	2.8		底部切り離し→付高台	四帖実測	D7
6	土師器	製品？			－	ヘラナデ	ヘラケズリ	破片実測	D7
7	須恵器	蓋？	－	10.0	2.3	ロクロナデ	ロクロナデ→底部に糸ヘラキリ→付高台	四帖実測	D24北K
8	縄文	深鉢	－	－	(17.7)	部位：胴部	沈線・刻目	曽利目かり	D13
9	縄文	深鉢	25.6		(20.8)	部位：胴部	縄文RL・隆位・沈線	加曽利E目	D16
10	縄文	深鉢	33.6	－	(18.7)	部位：口縁部	沈線・綾文LR横	加曽利E目	D16
11	縄文	深鉢	21.8		(15.6)	部位：胴部	沈線・縄文LR横、横	加曽利E目	D29
12	縄文	深鉢	－	－	(19.3)	部位：胴部	沈線	佐久系	D32
13	縄文	深鉢	－		(20.0)	部位：胴部	沈線	佐久系	D32
14	縄文	深鉢	－	8.8	(15.6)	部位：胴部	沈線	佐久系か？	D38
15	縄文	深鉢	－	－	(5.5)	部位：口縁把手部	沈線・刻突	唐草文？曽利？	D47
16	縄文	ミニチュア土器	7.0	5.2	(6.9)				D47

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
17	打製石斧	頁岩砂岩	1/2	(7.3)	(3.9)	(1.4)	(83.0)	刃部に使用による磨滅痕	D4
18	打製石斧	輝石安山岩	3/4	(7.9)	(4.8)	(0.8)	(61.1)		D4
19	台石	花崗岩		24.7	17.4	8.3	5136.0	正面にすり面	D8
20	敲石	石英安山岩	1/1	13.9	13.0	6.1	1179.0	正面にすり面　下面・裏面右側面下端部に敲打痕	D7
21	打製石斧	輝石安山岩	1/1	17.5	6.3	1.7	284.2		D11
22	すり・敲石	硬質砂岩	1/1	(10.1)	(4.5)	(2.9)	(219.7)	正面・裏面にすり面、敲打痕	D13
23	石鏃	黒曜石	1/1	2.25	1.6	0.35	0.92		D16
24	打製石斧	輝石安山岩	1/1	11.0	4.2	1.7	93.8		D21
25	打製石斧	珪質頁岩	1/1	14.1	6.1	1.9	172.2	刃部に使用による磨滅痕	D34 II区
26	打製石斧	頁岩	1/1	9.5	5.1	1.0	43.7		D25
27	敲石	珪質頁岩	1/1	11.4	8.3	4.1	509.4	正面・裏面上端部に敲打痕	D32
28	打製石斧	輝石安山岩	1/5	(6.3)	(8.4)	(1.0)	(48.4)	刃部に使用による磨滅痕	D43
29	砥石？	硬質砂岩	1/1	5.9	9.0	1.1	53.7		D44

30	台石	安山岩		22.2	37.9	4.6	3080.0	正面にすり面	D19
31	台石	安山岩		15.4	15.6	8.2	3860.0	正面にすり面	D19
32	敲石	輝石安山岩	1/1	16.2	9.2	5.5	1143.8	正面・裏面に敲打痕	D19
33	打製石斧	安山岩	1/2	(11.9)	(10.9)	(4.5)	(761.0)		D19
34	打製石斧	輝石安山岩	1/1	14.5	6.2	1.3	149.0	刃部に使用による変質痕	D47
35	石棒	黒曜石		2.95	3.25	1.1	8.7		D45

第32表　掘立柱建物住居址出土遺物観察表

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
1	打製石斧	頁岩	1/1	9.6	9.2	1.5	111.8		F1・P7
2	石錐	黒曜石	1/1	1.35	1.15	0.2	0.79		F1・P5
3	打製石斧	輝石安山岩	1/1	10.9	5.2	1.0	74.8		F2
4	石錘？	黒曜石	1/1	2.9	1.45	0.4	1.42		F2

第33表　溝址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (口径(底))	(最深(幅))	(器高(厚))	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	弥生	鉢	－	3.8	－	ミガキ・赤色塗彩	ミガキ・赤色塗彩	回転調整・内外に付着物有	M1 II区
2	縄文	深鉢	－			部位：胴部	縄文RL(0段多条)　2・5回　側体か?	繊維や中多く含む	M1 II区
3	縄文	深鉢	－	－	－	部位：胴部	結束羽状縄文(0段多条)　3・4・6回一側体か?	繊維含む	M1 II区
4	縄文	深鉢	－	－	－	部位：胴部	結束羽状縄文(0段多条)　3・4・6回　側体か?	繊維含む	M1 II区
5	縄文	深鉢	－	－	－	部位：胴部	結束羽状縄文(0段多条)　2・5回一側体か?	繊維含む	M1 II区
6	縄文	深鉢	－	－	－	部位：胴部	縄文RLの異方向?　3・4・6回　側体か?	繊維含む	M1 II区
7	縄文	深鉢	－			部位：胴部	縄文RLによる羽状構成	繊維含む	M1 II区
8	縄文	深鉢	－		－	部位：底部			M1 II区

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
9	石錐	灰色チャート	1/1	2.2	1.55	0.35	0.92		M1 II区
10	石錐	黒灰色チャート	1/1	1.8	1.25	0.4	0.74		M1 II区
11	石錐	黒灰色チャート	1/1	6.95	3.65	1.5	20.6	錐部	M1 II区
12	削器	頁岩	1/1	4.9	6.6	0.5	22.2		M1 II区

第34表　ピット址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量 (口径(底))	(最深(幅))	(器高(厚))	成形・調整・文様 内面	外面	備考	出土位置
1	縄文	鉢	－	－		無節	ロクロナデ→底部回転糸切り→付高台→脚部	破片実測	P115
2	灰釉陶器	椀		5.8	－	ロクロナデ→脚部	ロクロナデ→底部回転糸切り→付高台→脚部	部転実測	P139
3	灰釉陶器	椀	13.5	6.3	4.3	ロクロナデ→脚部	少少ヘラ	完全実測	P160
4	須恵器	甕		－		ココナデ	沈線	拓本	P77
5	縄文	深鉢			－	部位：胴下半	縄文LR縦・沈線	青利IV～V	P331
6	縄文	深鉢	－	－	－	部位：胴上半		加曽利E II	P313・千～10G

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
7	石錐	黒灰色チャート	1/2	(2.5)	2.1	0.45	(2.32)		P153
8	石錐	黒曜石	3/4	(2.75)	1.45	0.5	(1.48)	基部欠損、有茎	P328
9	尖頭器？	黒曜石	3/4	(3.15)	1.4	0.45	(1.96)	先端部、基部欠損	P5
10	石錐	黒曜石	1/1	2.46	1.65	0.5	1.52	有茎	P420
11	石核	黒曜石		2.5	2.25	0.7	4.26		P335
12	石核	黒曜石		1.8	3.9	1.5	8.98		P19
13	石核	黒灰色チャート		2.75	2.2	1.1	6.96		P132
14	打製石斧	雑質砂岩	1/4	11.4	6.0	2.0	174.3		P51
15	打製石斧	輝石安山岩	1/2	(5.4)	(5.2)	(1.2)	(38.4)		P208
16	打製石斧	雑質砂岩	1/1	5.8	4.0	1.0	26.9		P162
17	打製石斧	雑質砂岩		(3.7)	(4.7)	(1.2)	(20.9)		P286
18	打製石斧	雑質砂岩		(4.0)	(4.4)	(1.3)	(29.5)		P153

19	磨製石斧	蛇紋岩	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(104.5)		亀ヶ崎区H		P436
20	刀子	鉄		(3.2)	(1.0)	(0.3)					P75

第35表　遺構外出土遺物観察表

No.	器種	器種	法量 口径(cm)	法量 底径(cm)	法量 器高(cm)	内面 ミガキ→施釉	成形・調整・文様 外面	備考	出土位置
1	灰釉陶器	碗		6.2	−	ミガキ→重色透明	ロクロナデ・底部回転ヘラケズリ→付高台	完全実測	9−11
2	土師器	坏	12.4	8.3	4.0	ミガキ	ロクロナデ→底部回転糸切り(指)	完全実測	
3	土師器	坏	12.0	6.2	3.4	ヘラナデ	ロクロナデ・底部回転糸切り(石)	完全実測	
4	土師器	甕	−		−	口縁ハケナデ・胴部ハケナデ	ヘラナデ	破片実測	
5	土師器	甕	−	−	−	ナデ	口縁ヨコナデ→胴部ハケナデ	破片実測	
6	土師器	鍋?		12.4	−		ナデ→底部ヘラナデ	実測実測	
7	土製品	羽口	−	−		補強：白粘部		破片実測	9−15
8	鐘文	瓦師	−		−	器状：胴部	沈線	位久瓜ホリ	9−12
9	鐘文	瓦師	−	−	−	補強：胴部	鐘文H1 鐘0段多条	鐘鐘有り	9−13
10	鐘文	瓦師	−	−	−	補強：胴部	鐘部羽状鐘文0段多条	鐘鐘有り	9−13
11	鐘文	瓦師	−		−	器状：口縁部	鐘部羽状鐘文0段多条+沈線?	鐘鐘やや多く有り	9−13
12	鐘文	瓦師		−	−		鐘部鐘文H1 横0段多条+口縁刻み・鐘外位鐘帯	鐘出・中塗　鐘鐘やや多く有り	9−13

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
13	石鏃	黒曜石	1/1	(1.8)	(1.35)	0.45	(0.72)	先端部、左脚部欠損、不整	7−12
14	石鏃	結晶質石英岩	1/1	1.9	1.05	0.4	0.86		5−13
15	石鏃	黒曜石	1/1	(2.0)	1.05	0.3	(0.78)	先端部欠損	7 14
16	石鏃	褐色チャート	3/4	(1.65)	1.45	0.4	(0.81)	先端部欠損	9−12
17	石鏃	黒曜石	3/4	(1.9)	1.0	0.45	(0.68)	有茎、茎部欠損	9 8
18	石錐	灰色チャート	1/1	2.35	1.3	0.5	1.22		9−12
19	石錐	灰色チャート	1/1	1.15	0.95	0.3	0.25		7 9
20	石錐	黒曜石	1/1	2.35	1.0	0.3	0.59		9−8
21	未成品?	硬質砂岩	1/1	3.7	1.4	0.7	3.3		9 15
22	石鏃	黒曜石	1/1	2.3	0.85	0.6	1.21		3−11
23	剥器	灰色チャート	1/1	2.4	1.8	0.8	3.92		
24	剥器	黒曜石	3/4	2.15	1.7	0.65	2.17		9 8
25	剥器	黒曜石	1/1	2.35	2.3	0.8	3.95		7−9
26	石核	黒曜石		4.2	2.1	2.1	22.9		9−6
27	石核	黒曜石		5.5	2.45	1.5	16.0		
28	?	黒曜石		7.8	1.3	1.1	12.9		9−8
29	磨製石斧	石英斑糸岩		8.4	5.4	2.9	218.7	未完成品	8−12
30	敲石	灰色チャート		7.6	4.6	1.5	46.4		9−14
31	敲石	安山岩		11.2	9.5	6.2	804.5	下端部に敲打痕	7−14
32	すり・敲石	安山岩		9.3	7.0	3.6	290.6	広面に敲打痕 平面・裏面にすり面	9−13
33	打製石斧	硬質砂岩	1/2	13.0	9.4	2.9	404.2		8−12
34	打製石斧	安山岩	2/3	(14.8)	(13.6)	(2.5)	(661.5)	刃先に使用による磨滅痕	
35	打製石斧	安山岩	2/3	(10.8)	(4.8)	(1.9)	(139.7)		8−10
36	打製石斧	安山岩	1/1	11.7	7.0	1.8	144.2	刃部に使用による磨滅痕	7 13
37	打製石斧	硬質砂岩	2/3	11.0	4.6	1.3	94.2		9−13
38	打製石斧	硬質砂岩	1/1	7.5	6.8	1.5	64.5		8 15
39	打製石斧	硬質砂岩		12.5	5.4	1.2	96.8	刃部に使用による磨滅痕	9−9
40	打製石斧	硬質砂岩	1/1	11.6	5.5	1.7	130.5	刃部に使用による磨滅痕	8−9
41	打製石斧	硬質砂岩	1/2	(6.0)	(3.7)	(1.2)	(54.7)		7−13
42	打製石斧	硬質砂岩	1/1	10.6	11.3	1.9	304.2		7−9
43	打製石斧	硬質砂岩	1/1	9.6	6.1	1.9	121.5		9 14
44	打製石斧	硬質砂岩	2/3	(9.1)	(4.9)	(2.0)	(109.5)		9−10

反田遺跡出土の縄文土器について

-特に中期後葉「佐久系土器」について-

藤森英一

反田遺跡では、縄文時代前期初頭から前半、同じく中期後葉の土器が出土している。

まず前期初頭から前半ではH17号住居址、M1号溝状遺構、遺構外からの出土があり、胎土に繊維を多量に含んだ羽状縄文系土器が主体となる。いずれも前期初頭から前半に位置づけられるが、破片資料が多く細かな型式区分は難しい。但しH17号住居址出土資料については、全体的に繊維の混入量が多く、さらに6では両脇に刻みのある高さのない隆帯（半隆帯か？）を持ち、8からは砲弾型の器形がうかがえるなど、東信地方で前期初頭に位置付けられる塚田式から中道式（貴田1999）と言えようか。さらに遺構外12についても刻み付きの隆帯と口唇部の刻みから、これに類するものとも考えられる。

またH1号住居址からはわずかに繊維を含み、竹管による文様を持った黒浜式に平行すると思われる資料が一点含まれている（87）。

これら以外の資料は全て中期後葉の土器となる。以下この時期の土器について詳しく見ていきたいが、前提として「佐久系土器」とした土器について説明を加えておく。

佐久地域における中期後葉土器研究の流れについて、ここで詳しく述べることは割愛するが、以前から地域的な特色は指摘されていた。特に1990年代以降は、資料の増加などを受け、より具体的な姿が論じられるようになった。総じてこれらでは、加曽利E式や曽利式の中に見いだされる独自性を持つ土器群の把握が問題とされている（百瀬1991・桜井2000・川崎2001・綿田2003・藤森2005等）。

この土器群について、いくつかの名称が提唱されているが、ここでは仮称「佐久系土器」とした（百瀬1991）。尚、その理由については藤森2007を参照して頂きたい。また、筆者はこの「佐久系土器」を以下のように定義している。

1.口縁部文様帯は胴部に比べ肉厚な傾向があり、楕円＋渦巻状の印刻風の区画がされ、内部は鱗状あるいは直線の沈線で充填される。口唇部直下は比較的広い無文部を持つ。

2.胴部は沈線または隆帯による区画を持ち、鱗状または綾杉状の沈線で充填される。

3.器形はバケツ型あるいはキャリパー型で、平口縁か四単位の波状口縁となる。

本論でもこれに則して分類しているが、実際には曽利式などと区別が付き難い資料も多い。また後に述べる事と関連するように、資料増加による実情にあわせ、今後の修正も必要かとは考えている。

では実際に反田遺跡出土の土器を見ていこう。中期後葉土器は主にH1号住居址の覆土中、あるいは埋甕として検出されたものである。概観すると加曽利E式と「佐久系土器」に曽利式が伴う構成である。土坑等出土の土器もほぼこれに準ずる。この傾向は近年調査された地理的にも近い佐久市（IHE川町）大奈良遺跡を含め、この時期の佐久地域北部の多くの遺跡と一致する。そこでここでは出土状況などから時期区分も試みられた大奈良遺跡の分析例（藤森2005）を参考に考察を加えていきたい。

まとまった量の出土を見た反田遺跡H1号住居址の資料は、加曽利E式では同Ⅲ式が多く、大奈良遺跡での後葉3段階（加曽利EⅢ式新段階から加曽利EⅢ式はじめ）～4段階（加曽利EⅢ式）に相当する。但し量的には同4段階に該当するものが多い（2～12・40・42～53等）。

一方「佐久系土器」も、上記の定義に当てはめると13～17・21～22・36・68～80等といったように数多く存在する。さてこの「佐久系土器」は、大奈良遺跡では後葉3段階に多いものの、同2段階（加曽利EⅡ式中段階）と4段階にもわずかではあるが含まれ、さらにこれら自身による型式学的な分類は困難な状況であった。よって反田遺跡の資料を段階分けすることもまた困難であり、加えて本遺構でも少なくともレベルの記録からは両者は渾然とした出土状況にある。つまり本遺構出土の土器を一時期のものと捉えると、多くが大奈良遺跡後葉4段階に属するものと考えるのが一般的な見方である。

しかし、大奈良遺跡での相対的な量からすると、3段階に相当する土器が多数含まれるとも考えら

れる。さらに大奈良遺跡のみならず小諸市郷土遺跡の状況やその分析（桜井2000・川崎2001・綿田2003）を参考にすると、反田遺跡H1号住居址出土の土器は、「佐久系土器」が主になる時期（大奈良遺跡後葉3段階）と、加曽利EⅢ式が主体となる時期（同4段階）という時間差を持っていたという可能性も大いに考えられる。但しその場合、3基の埋甕については時期差を想定することも必要になる。

また、本遺跡ではこれまで不明瞭だった「佐久系土器」の終末に位置付けられそうな土器が出土していることを指摘しておく。すなわち20や59・64・66・67・85（加えて遺構外の8）等のように、口縁部文様体を失い、全体として曽利Ⅴ式に似つつも、「佐久系土器」にあった鱗状沈線文が、縦位の沈線区画内に施された土器である。『佐久系土器』の終末については、これまでにも川崎氏や綿田氏が積極的に論じている（川崎2001・綿田2003）。しかし、曽利式や唐草文系土器、あるいは加曽利E式の終末期のものと対比した場合、これらとの峻別が難しい状況にあり、必ずしもその様相が明らかにされてはいなかった。上記の土器はこれらを補完する資料と言えはしないか。先に記した「佐久系土器」に対する定義とは異なる部分もあるが、型式学的にこれらを「佐久系土器」の終段階に置くことは可能と考えられる。但し、本遺跡では層位的にこれを証明出来ていないことは繰り返しておきたい。

なおこれらの資料に対し、存知の土器として最も共通点の多いのは曽利Ⅴ式である。この曽利Ⅴ式と加曽利E式の平行関係の捉え方によって時間的位置付けに相違もあろうが、H1号住居址でも出土量の多い大奈良遺跡後葉4段階（加曽利EⅢ式期）か、あるいはそれ以降に位置付ける事も想定でき、「佐久系土器」の系譜が中期の終末まで続く事も可能性としは浮上する。その意味では、31のような曽利Ⅴ式を中期終末の土器とするか、本遺跡で大多数を占めるこれ以前のものと捉えるのかが、今後改めて重要な意味を持つと言える。

いずれにせよ、本遺跡の資料についても、今後「佐久系土器」をひとつの土器型式（郷土式土器・桜井2000）として認識出来るか否かの検討材料としていきたい。

主な引用・参考文献

百瀬忠幸1991「吹付遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐久市内その2』長野県埋蔵文化財センター
綿田弘実1997「縄文土器について」『滝沢遺跡』御代田町教育委員会
曽田　明1999「長野県に於ける縄文前期初頭の様相」『縄文土器論集-縄文セミナー10周年記念論文集-』縄文セミナーの会
本橋忠美子2000「宮平遺跡の縄文土器」『宮平遺跡』御代田町教育委員会
桜井秀雄2000「郷戸遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書19-小諸市内-』長野県埋蔵文化財センター
川崎　保2001「駒込遺跡」『県単農道整備事業（ふるさと）大野田地区埋蔵文化財発掘調査報告書 浅科村内-』長野県埋蔵文化財センター
綿田弘実2003「長野県千曲川流域の縄文中期後葉土器群」『第16回縄文セミナー　中期後半の再検』縄文セミナーの会
藤森英二2005「大奈良遺跡出土の縄文中期後葉土器について」『佐久市埋蔵文化財調査報告書第131集 大奈良遺跡』臼田町・佐久市教育委員会
藤森英二2007「「佐久系土器」と呼ばれる土器　主にその呼称について」『佐久考古通信No.98』佐久考古学会

反田遺跡出土の甲斐型土器について

今回の調査では平安時代を中心に5軒の住居址からいわゆる甲斐型土器が出土した。器種は甕・小型甕・坏であり、住居址の年代は10世紀前半を中心とする。ここでは近年資料の蓄積がなされつつある佐久地域出土の甲斐型土器について若干のまとめをおこなってみたい。

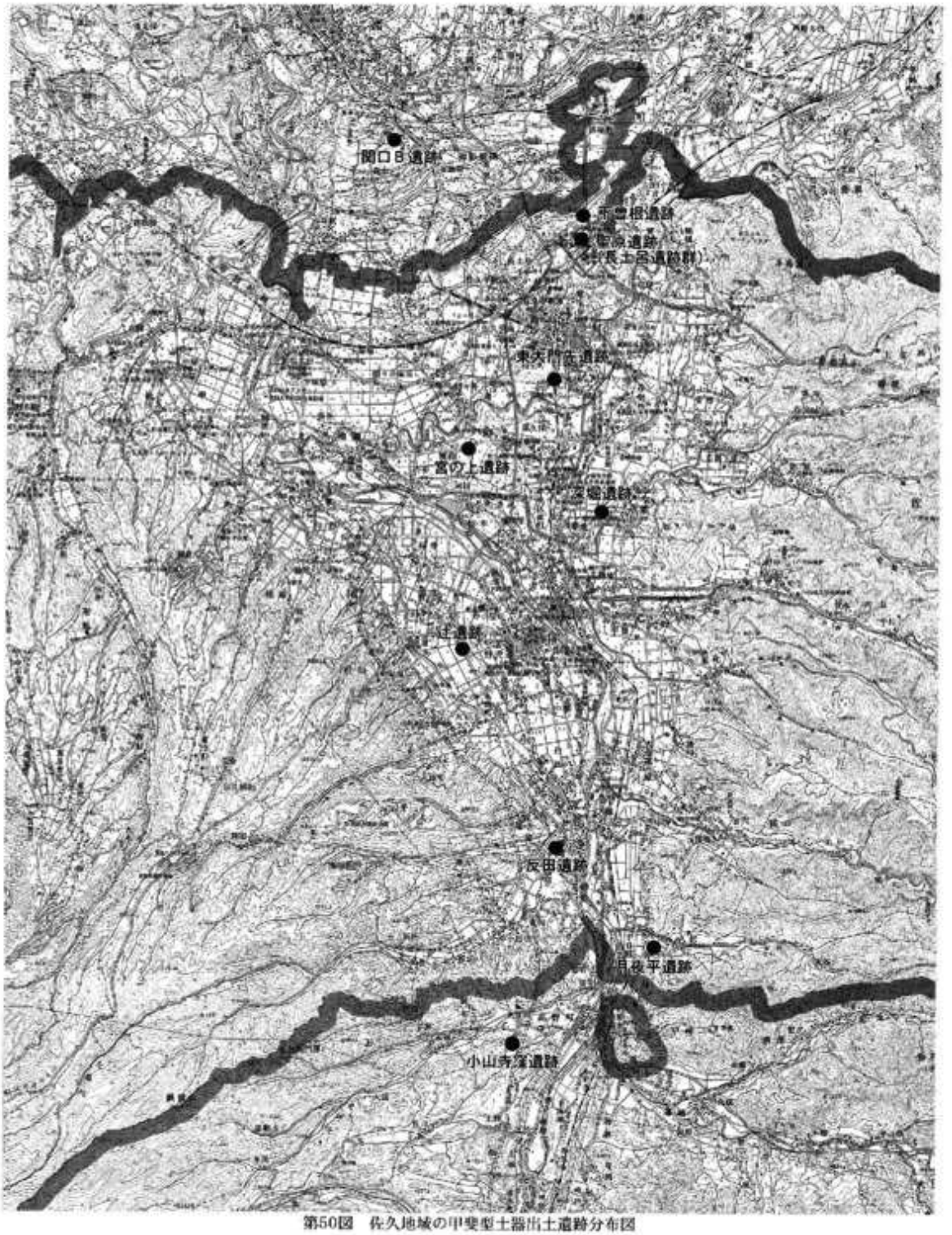
佐久地域において甲斐型土器が出土している遺跡は把握できたものとして別表15遺跡である。出土が集中する遺跡としては今回の反田遺跡と聖原遺跡があるが、遺跡規模から調査住居軒数と出土軒数で比較すると出土出現率は聖原遺跡の1%に比し、反田遺跡が35%であり当遺跡の特殊性が伺える。ただ、この出土量についてはこれまでに知られている大規模な調査事例が少なく、小海町雨堤遺跡においても1軒の住居址から5点の甲斐型坏が出土しており、山梨県側に近いという地理的要因だけの理由も考えられる。

次に出土遺跡の分布であるが、佐久地域も従来からの「甲斐型土器は古代官道や街道に沿った分布」という指摘通り、南佐久の川上村信州峠（小尾道）直下の横尾遺跡に始まり、小海の雨堤遺跡、今回の反田遺跡と千曲川を下り、野沢平の辻遺跡、そのまま千曲川を渡河し旧北佐久郡内に入る。先に触れた聖原遺跡周辺にいくつかの分布があり、北限は小諸市の関口B遺跡である。そして、関口B遺跡の先には浅間山麓を通過する「東山道」がある。このルートは起点の信州峠が異なるがまさしく旧佐久甲州街道と重なっている。また、反田遺跡は東山道推定ルートから約16km（30里）の位置にあり興味が持たれる。話しはやや飛躍したが、佐久平における甲斐型土器の分布は古代の街道を示唆するものであり、佐久経由で東山道と甲斐国府をつなぎ、その先の「甲斐路」を経て東海道へ繋がる古代の「中部横断道」の様な位置づけができる。

ただここで疑問なのは、東山道との連絡ルートを考えた場合、都に近い諏訪・富士見経由の方が活用利点がありそうである。現に東海道に属する甲斐国の在京人が帰郷する際に東山道を使っていた資料があり、その理由として当時活動が活発であった富士山の噴火が上げられている。では「佐久路」はいかなる理由により必要であったのか。現時点で考えられるのは律令国家による「東北経営」つまり蝦夷との関係である。信濃も甲斐も鎮兵の派遣や俘囚の受け入れで当時大きな役割を果たしている。甲斐より東北派遣の場合にこの「佐久路」が使われたのではないだろうか。現時点では推測の域を出ないが一考の余地があるように考えられる。

以上、佐久地域の甲斐型土器の出土について若干の考察を加えた。しかし、長野県全体での分布や時期による器種変化など本来の基礎整理作業がなされていない部分の方が多く、包括的な考察は別稿にゆだね、雑消ではあるが本稿のまとめとしたい。なお、紙面の都合で参考文献は割愛した。

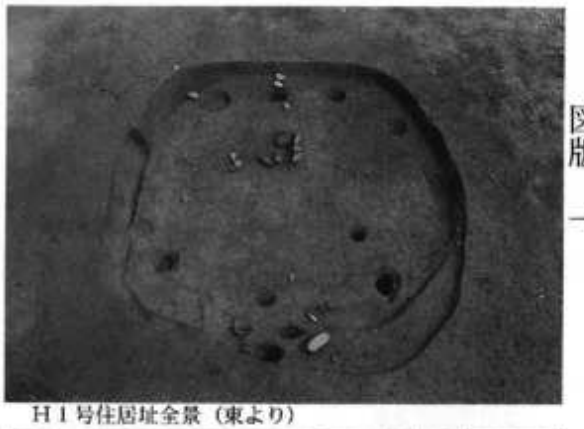
行政名		番号	遺跡名	遺構名	出土器種	土器の年代	遺構時期	備考
川上村	御所平	1	横尾遺跡	H1号住居址	小型甕？		平安	信州峠直下
		2	草切遺跡	表採	坩堝			
				表採	甕			
小海町	股沢	3	若左衛門遺跡	H1号住居址	小型甕		平安	
	小海	4	雨堤遺跡	1号住居址	坏		平安	坏5点
	小海	5	八の峠坪沢遺跡	表採	甕			
佐久市	入沢	6	月夜平遺跡	1J8号住居址	小型甕			住居址は縄文
	下小田切	7	反田遺跡	H5号住居址	甕	10世紀前半	10世紀前半	甕1点
				H7号住居址	重箱土器	9世紀代	10世紀後半	各部位6点
				H19号住居址	小型甕	10世紀前半	10世紀前半	2点
				H12号住居址	甕	10世紀前半	10世紀前半	
				H14号住居址	坏	8世紀よから9世紀初頭	9.10世紀重複	
	野沢	8	辻遺跡	H25号住居址	坏	9世紀前半	8世紀後半	
	瀬戸	9	清明遺跡	H11号住居址	甕		10世紀後半	
	横和	10	宮の上遺跡	4号上坑	坏	8～9世紀	平安	
	岩村田	11	東大門先遺跡II	H11号住居址	甕	10世紀前半		
		12	聖原遺跡	H183号住居址	甕		10世紀前半	
				H230号住居址	小型甕・甕		10世紀前半	
				H346号住居址	小型甕	9世紀前半	8世紀IV～9世紀初頭	
				H380号住居址	鉢		9世紀前半	墨文多文字資料
				H589号住居址	坏	9世紀前半	8世紀IV～9世紀初頭	
				H610号住居址	坏	8世紀よから9世紀初頭	9世紀前半	
				H612号住居址	坏	8世紀後半	8世紀	
	長土呂	13	長土呂遺跡群	52号住居址	坏	8世紀後半	8世紀	坏2点
	森山	14	下宮根遺跡	H59号住居址	坏	8世紀よから9世紀初頭	9世紀前半	
小諸市		15	関口B遺跡	H6号住居址	坏		紫式機業	



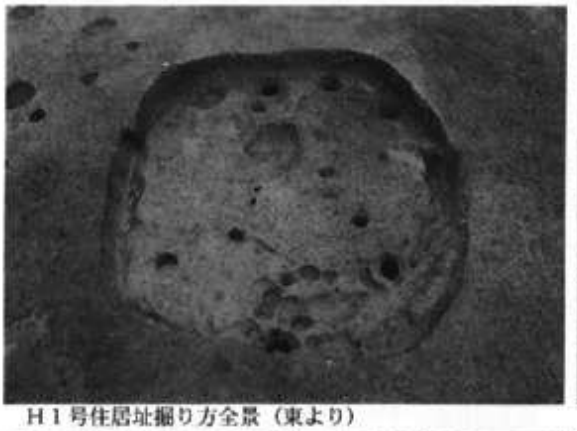
第50図　佐久地域の甲斐型土器出土遺跡分布図

※前項表の甲斐型土器の年代については（財）山梨文化財研究所　平野　修氏に御教示いただいた。
※脱稿後、佐久穂町小山寺窪遺跡より甲斐型奥と考えられる土器が平安住居址より出土している事を知り分布図に載せた。本遺跡出土の甕が甲斐型とすると出土遺跡は16遺跡となる。

H１号住居址遺物出土状況（東より）



H１号住居址全景（東より）

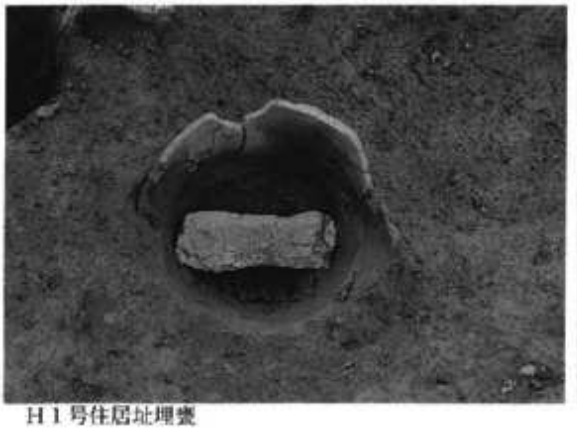


H１号住居址掘り方全景（東より）

H１号住居址炉全景（東より）

H１号住居址遺物出土状況

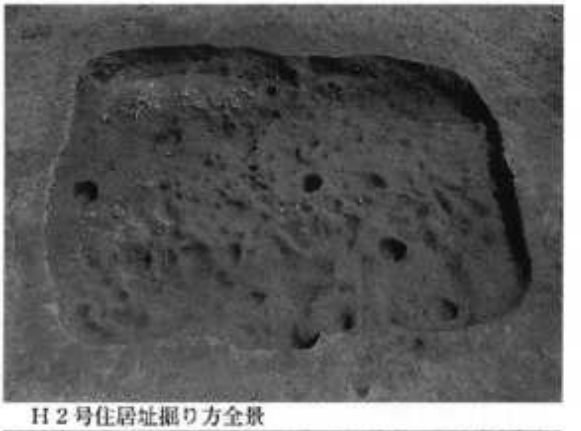
H１号住居址遺物出土状況



H１号住居址埋甕

H１号住居址埋甕

H２号住居址全景



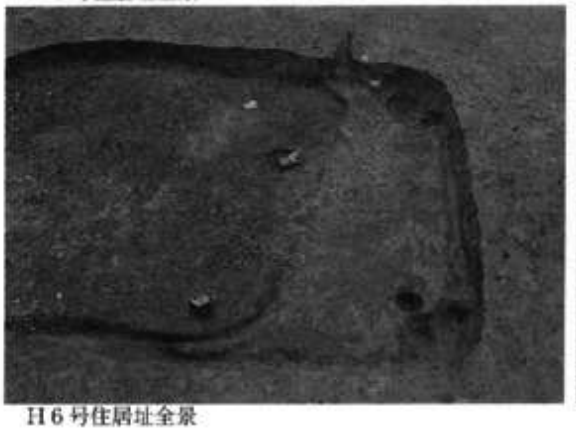
H２号住居址掘り方全景

H２号住居址カマド全景

H２号住居址遺物出土状況

H３号住居址全景

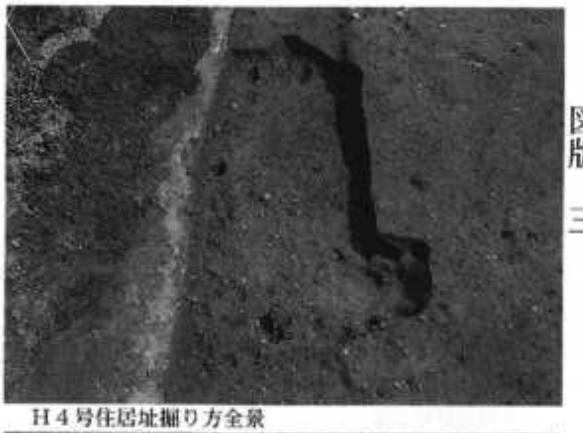
H３号住居址掘り方全景



H６号住居址全景

H６号住居址カマド全景

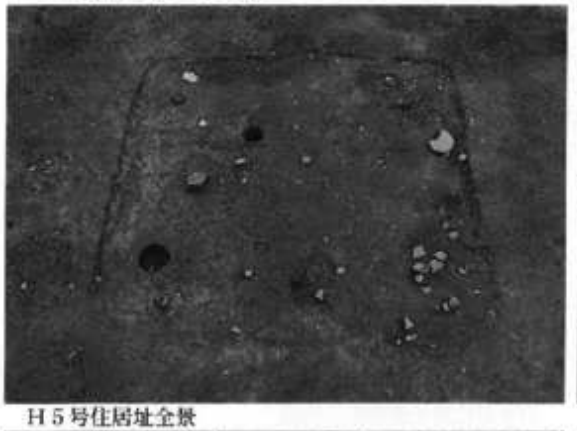
H４号住居址全景



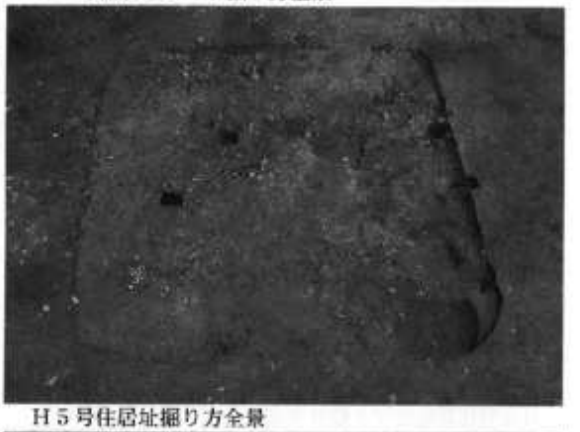
H４号住居址掘り方全景

H４号住居址カマド全景

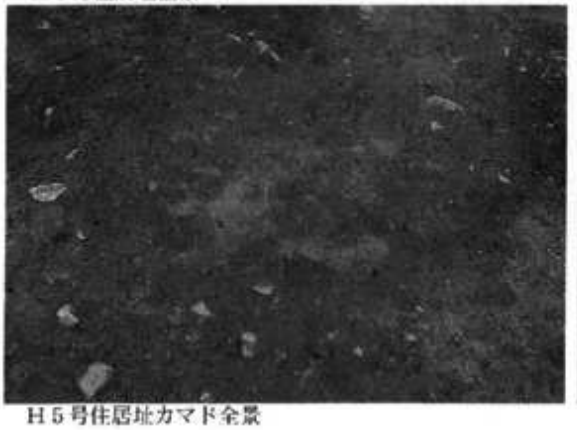
H４号住居址カマド掘り方全景



H５号住居址全景



H５号住居址掘り方全景

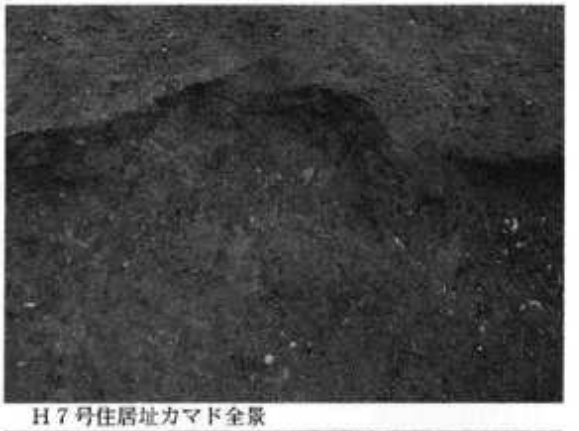


H５号住居址カマド全景

H５号住居址遺物出土状況

図版四

H７号住居址全景



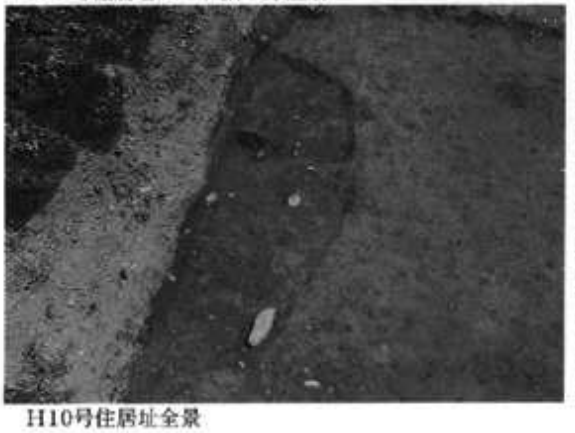
H７号住居址カマド全景

H８号住居址全景

H８号住居址カマド全景

H８号住居址カマド掘り方全景

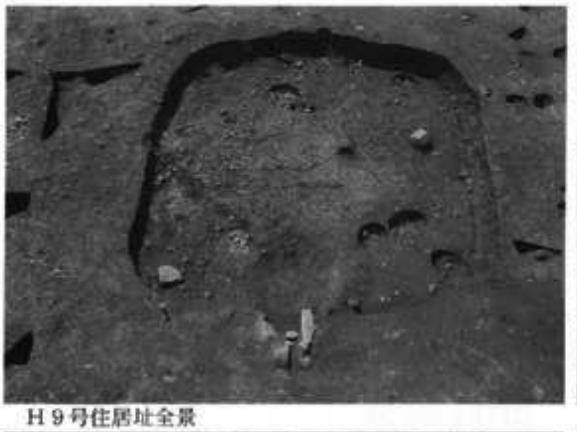
H８号住居址遺物出土状況



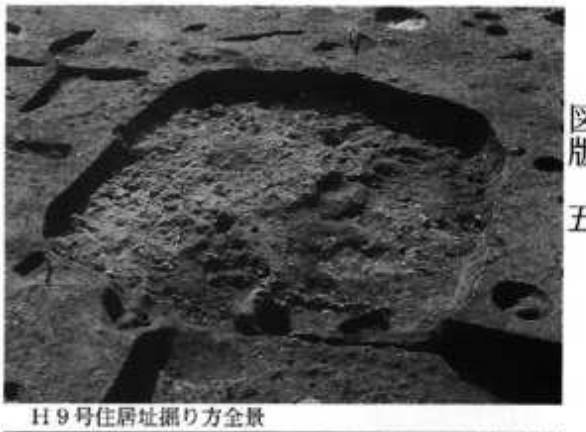
H10号住居址全景

H10号住居址掘り方全景

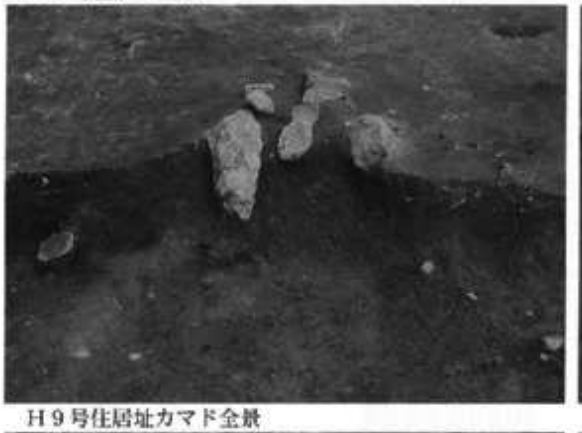
図版五



Ｈ９号住居址全景

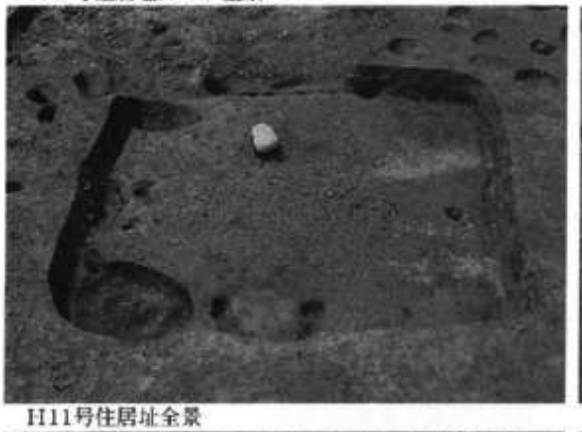


Ｈ９号住居址掘り方全景



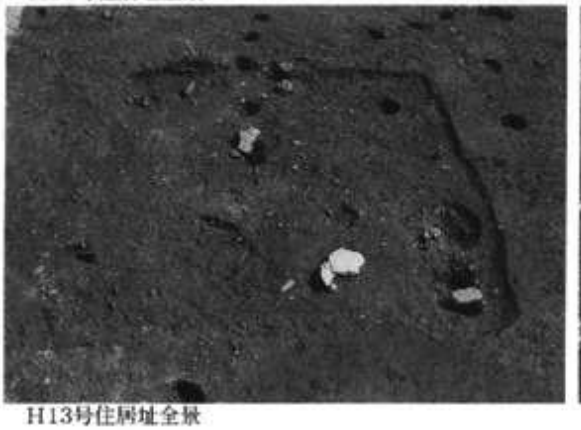
Ｈ９号住居址カマド全景

Ｈ９号住居址カマド掘り方全景



H11号住居址全景

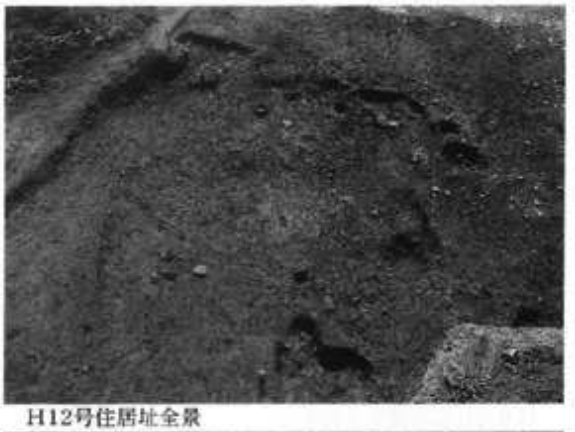
H11号住居址掘り方全景



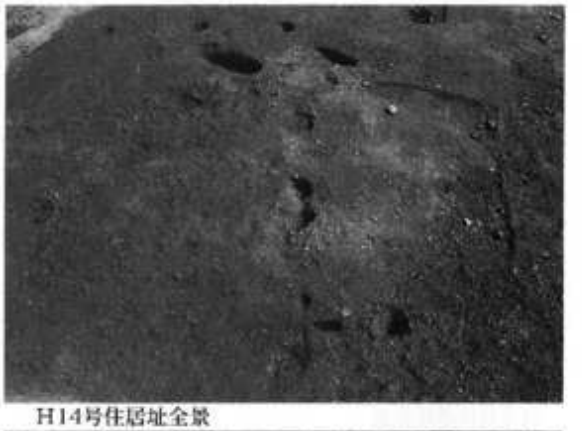
H13号住居址全景

H13号住居址カマド掘り方全景

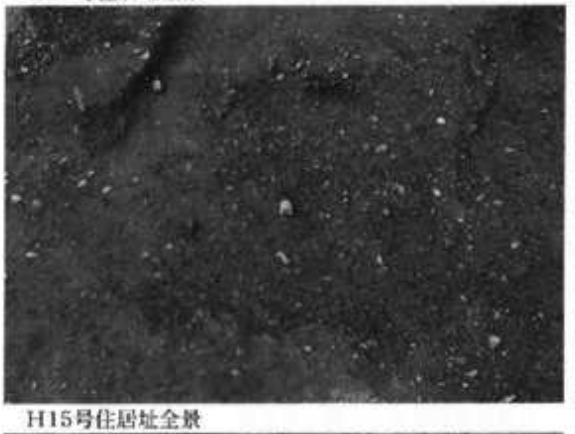
図版六



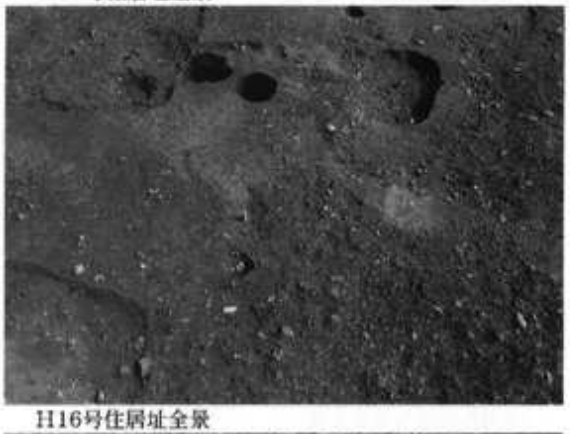
H12号住居址全景



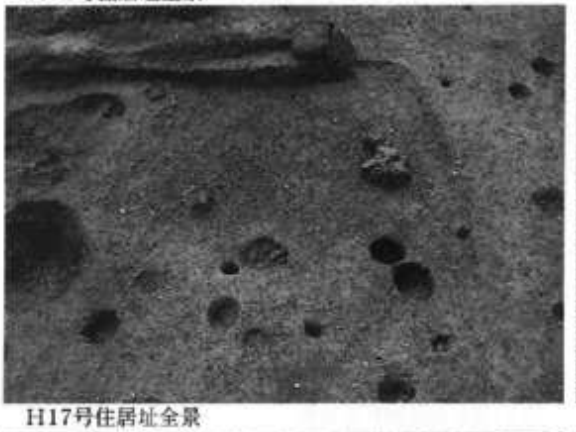
H14号住居址全景



H15号住居址全景



H16号住居址全景



H17号住居址全景

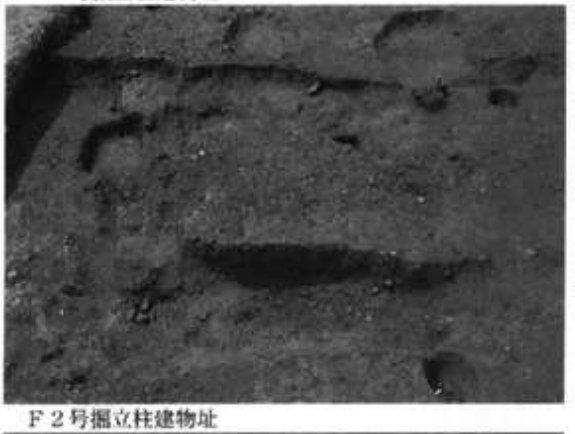
H17号住居址遺物出土状況

H18号住居址全景

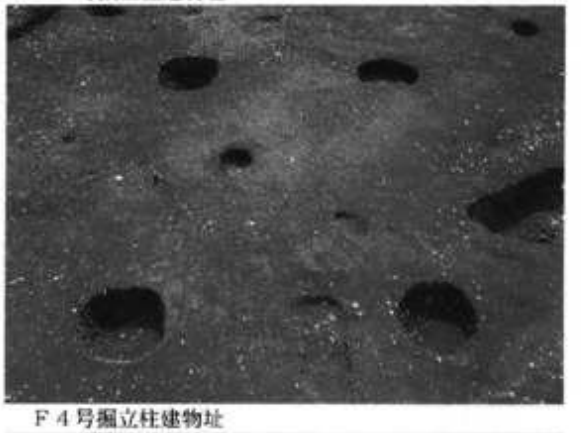
調査風景

F１号掘立柱建物址

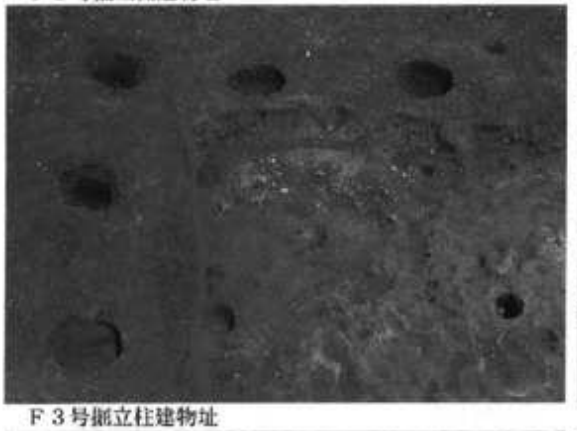
F１号掘立柱建物址



F２号掘立柱建物址



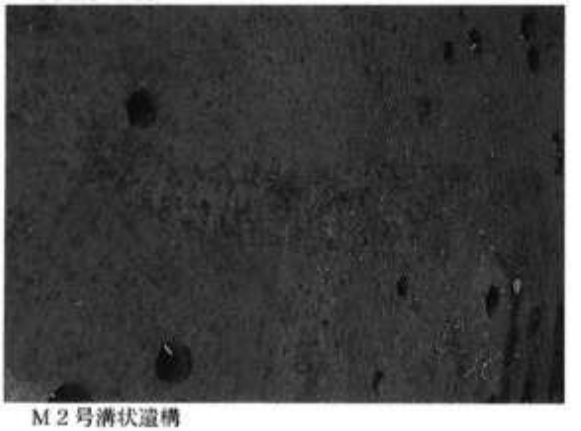
F４号掘立柱建物址



F３号掘立柱建物址

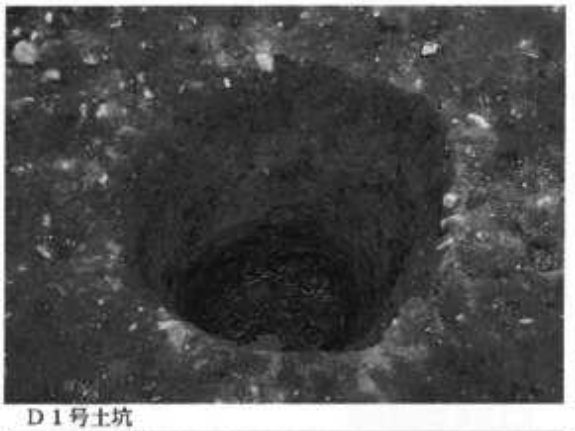
東側調査風景

M１号溝状遺構

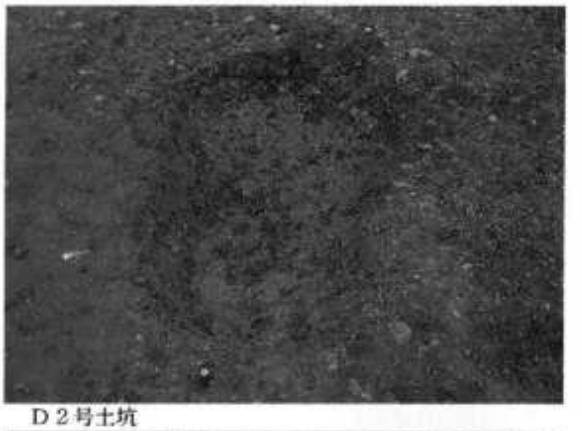


M２号溝状遺構

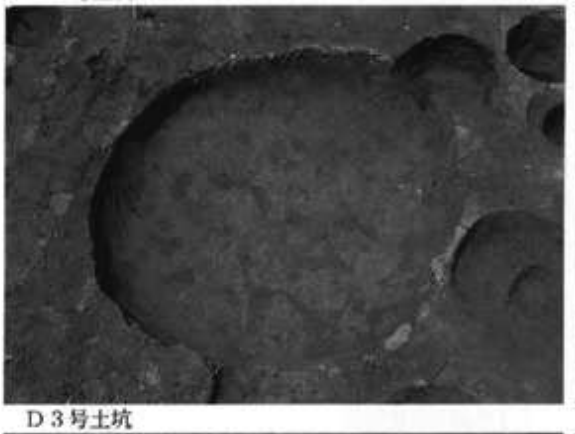
図版八



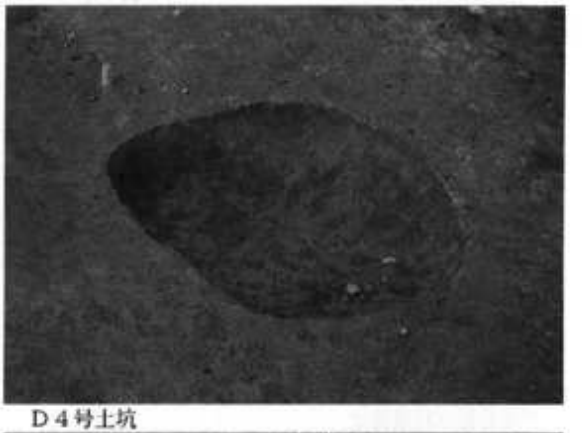
D１号土坑



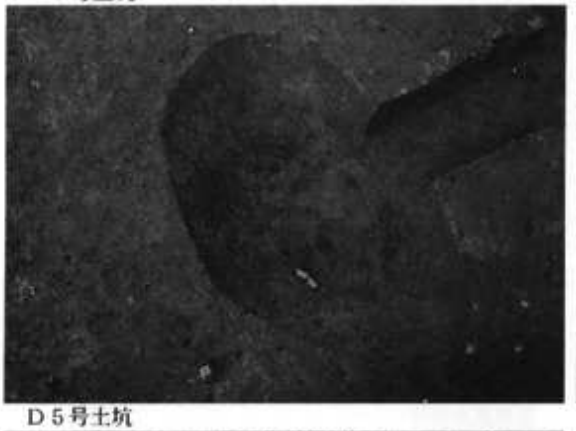
D２号土坑



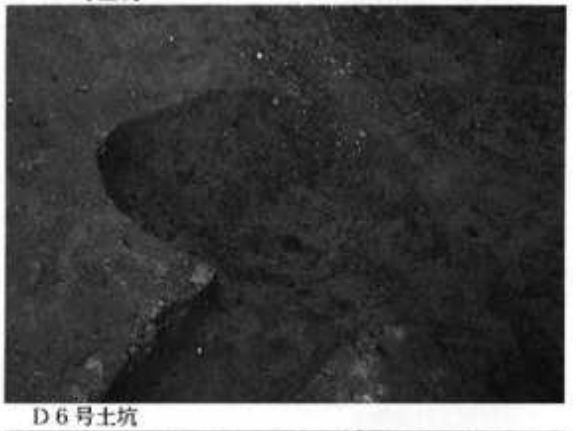
D３号土坑



D４号土坑

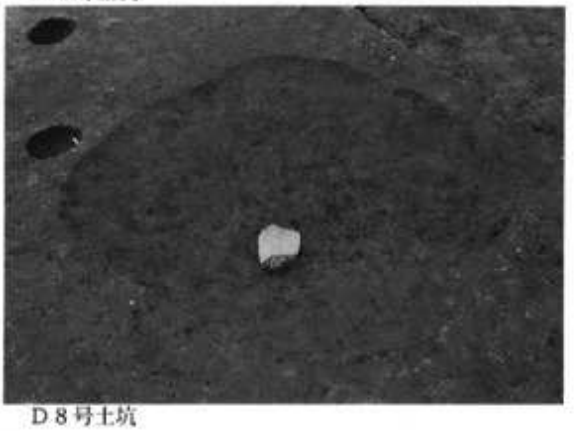


D５号土坑

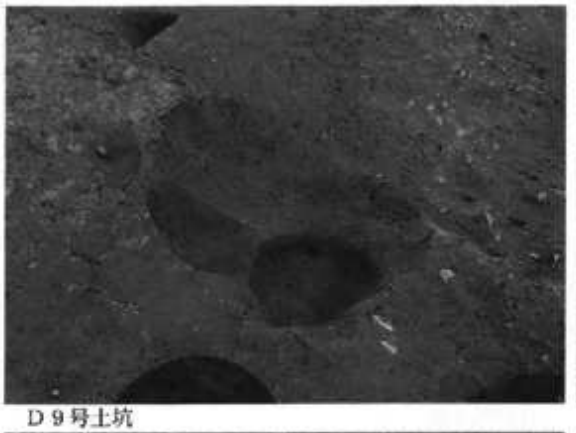


D６号土坑

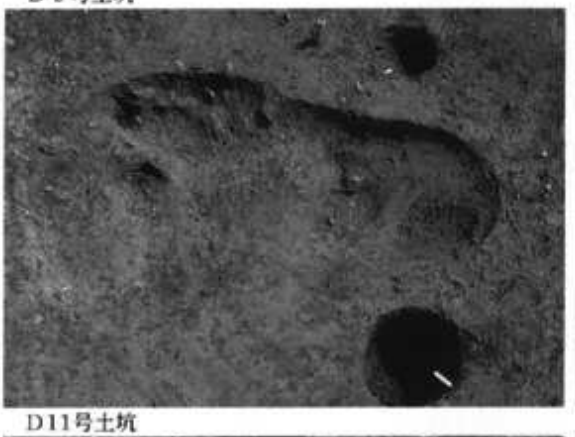
D７号土坑

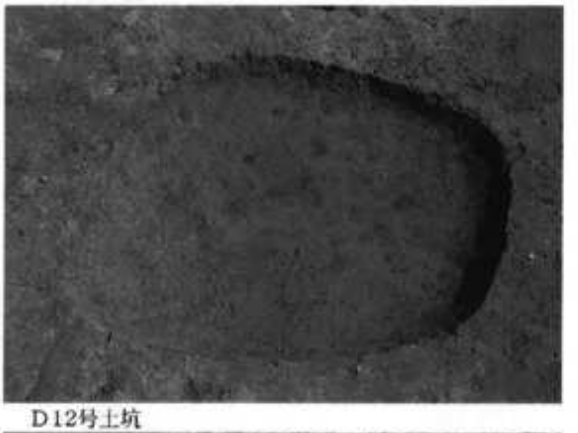


D８号土坑


D９号土坑

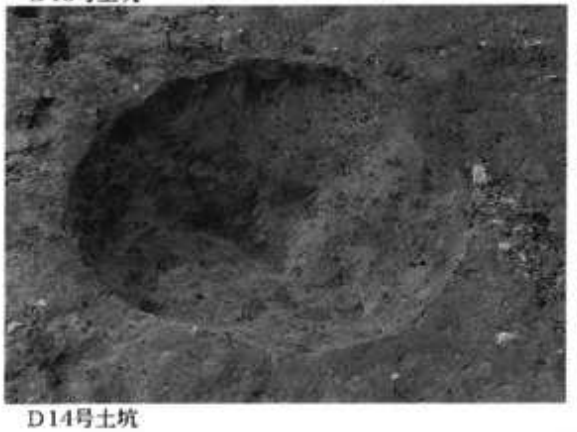
D10号土坑


D11号土坑


D12号土坑

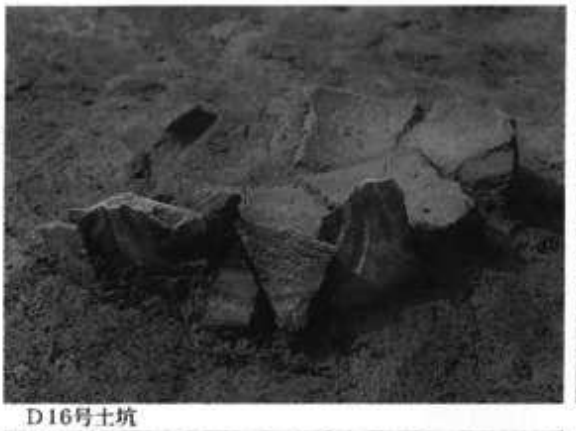
D13号土坑

D13号土坑遺物出土状況

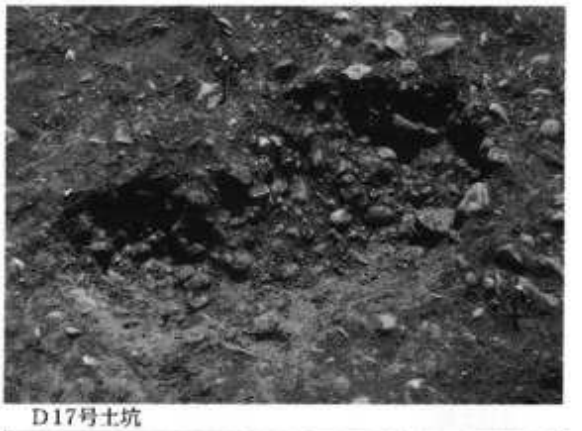

D14号土坑

D15号土坑

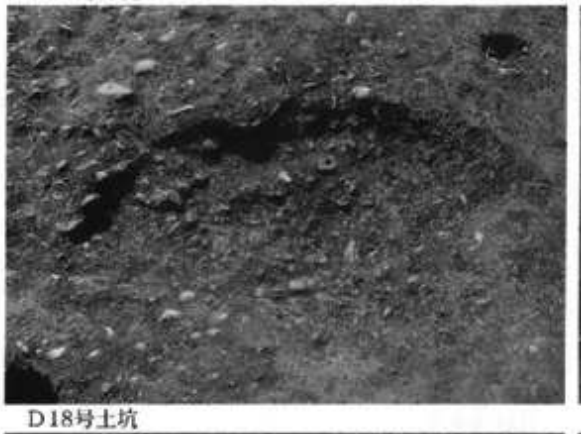
図版十



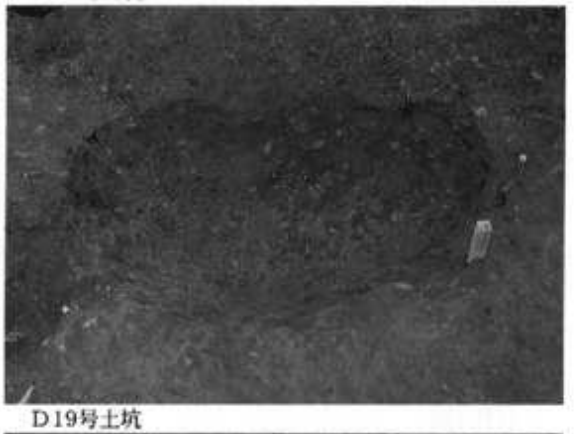
D16号土坑



D17号土坑

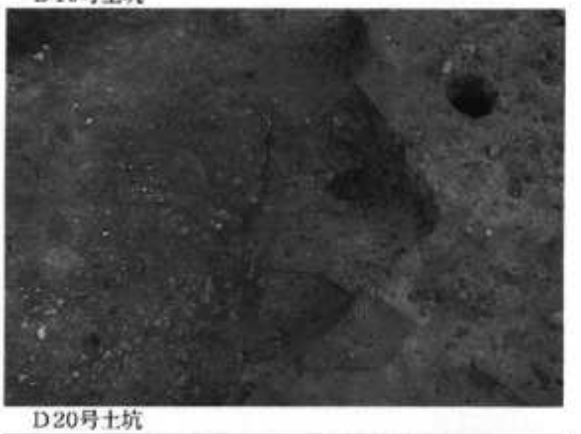


D18号土坑

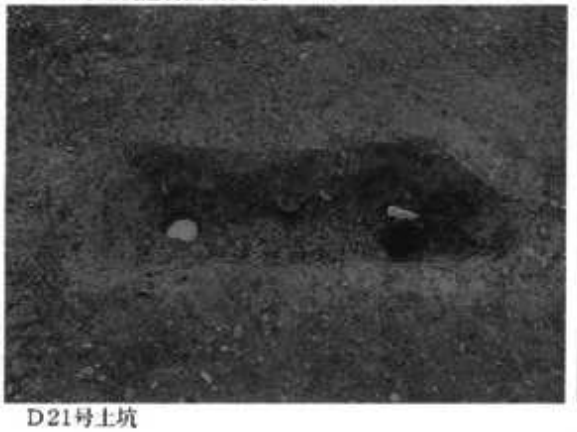


D19号土坑

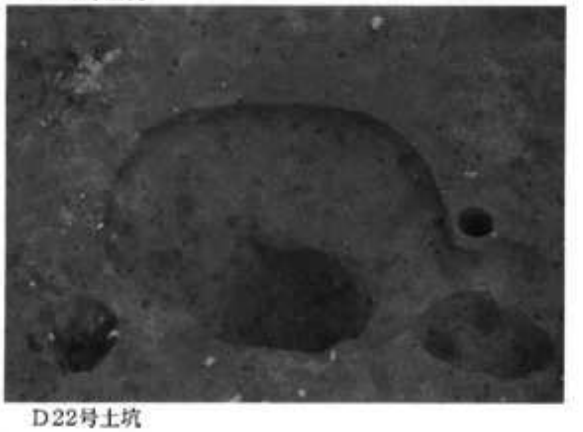
D19号土坑遺物出土状況



D20号土坑



D21号土坑

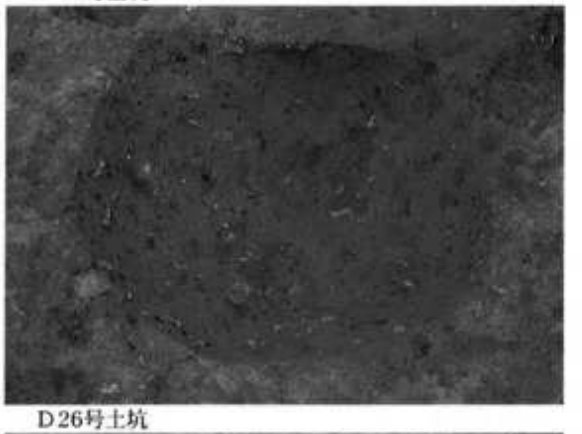


D22号土坑

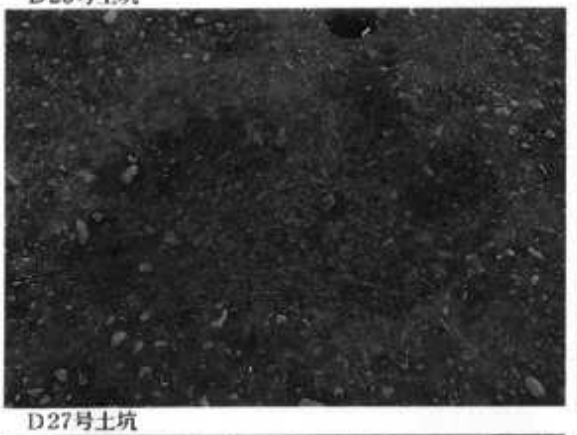
D23号土坑

D24号土坑

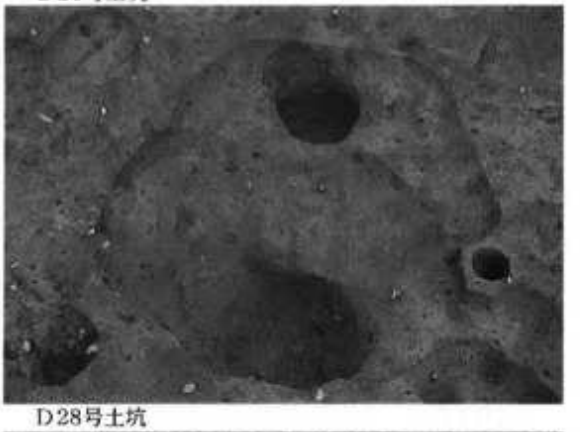
D25号土坑



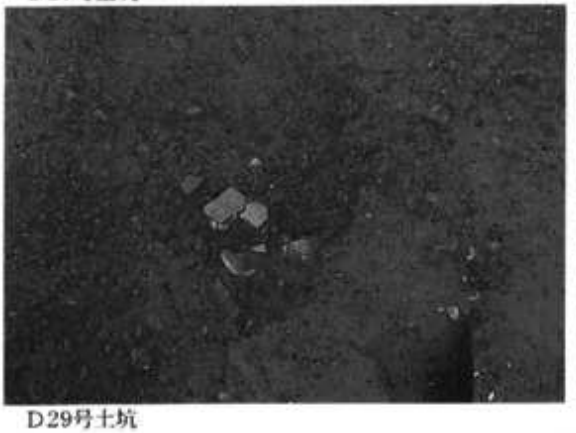
D26号土坑



D27号土坑



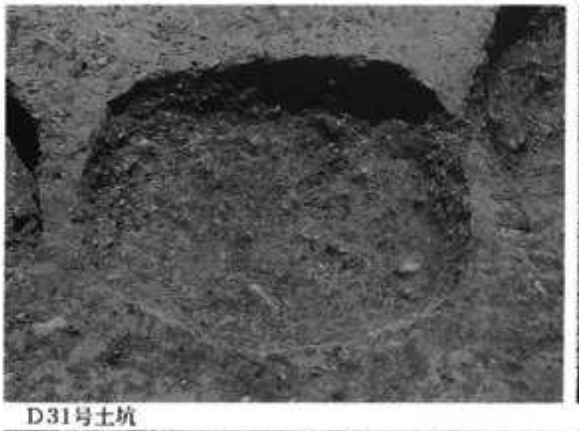
D28号土坑



D29号土坑

D30号土坑

図版 十二

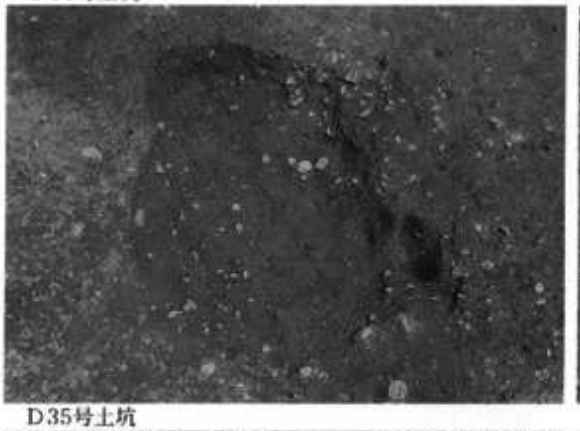


D31号土坑

D32号土坑

D33号土坑

D34号土坑

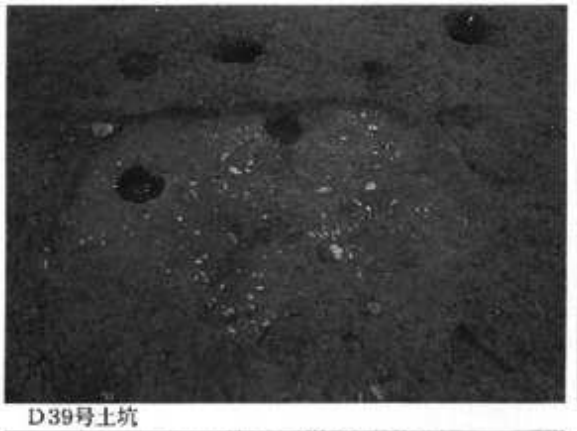


D35号土坑

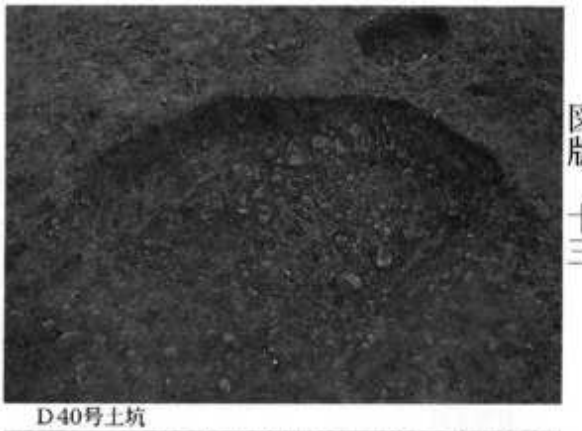
D36号土坑

D37号土坑

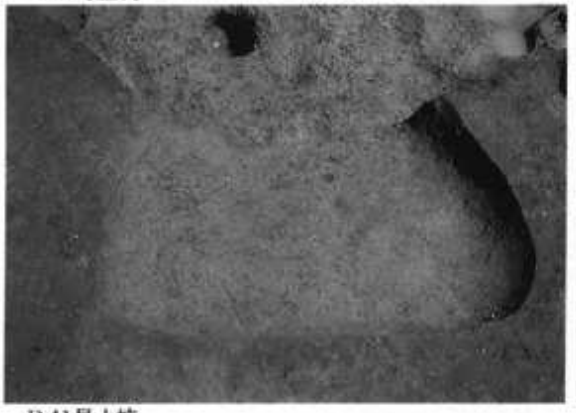
D38号土坑



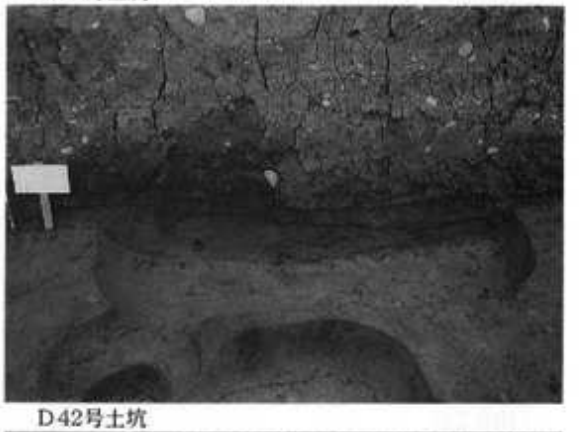
D39号土坑



D40号土坑



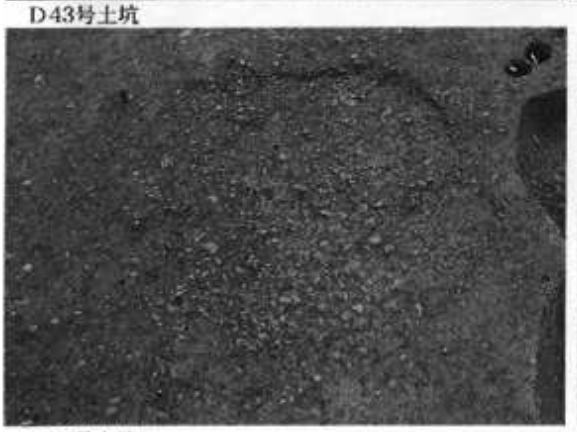
D41号土坑



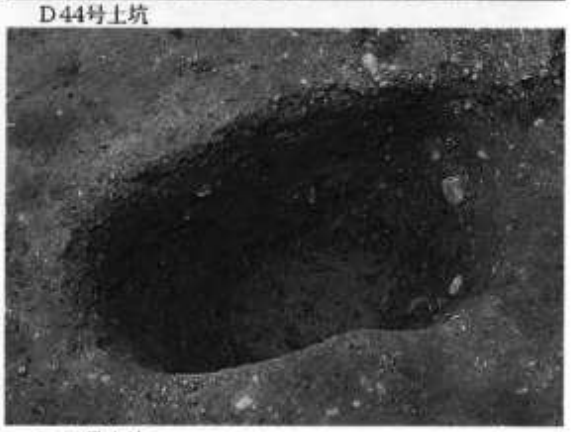
D42号土坑

D43号土坑

D44号土坑



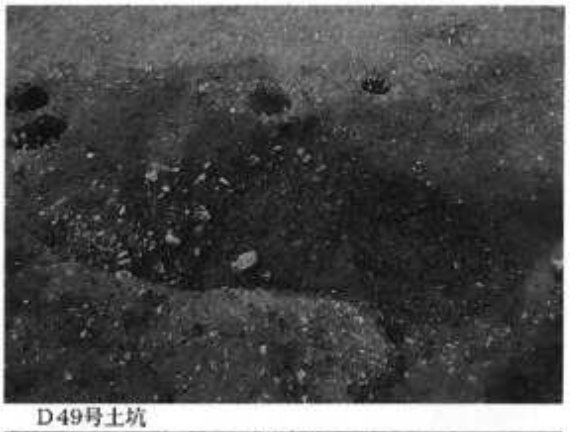
D45号土坑



D46号土坑

図版 十四

D47号土坑

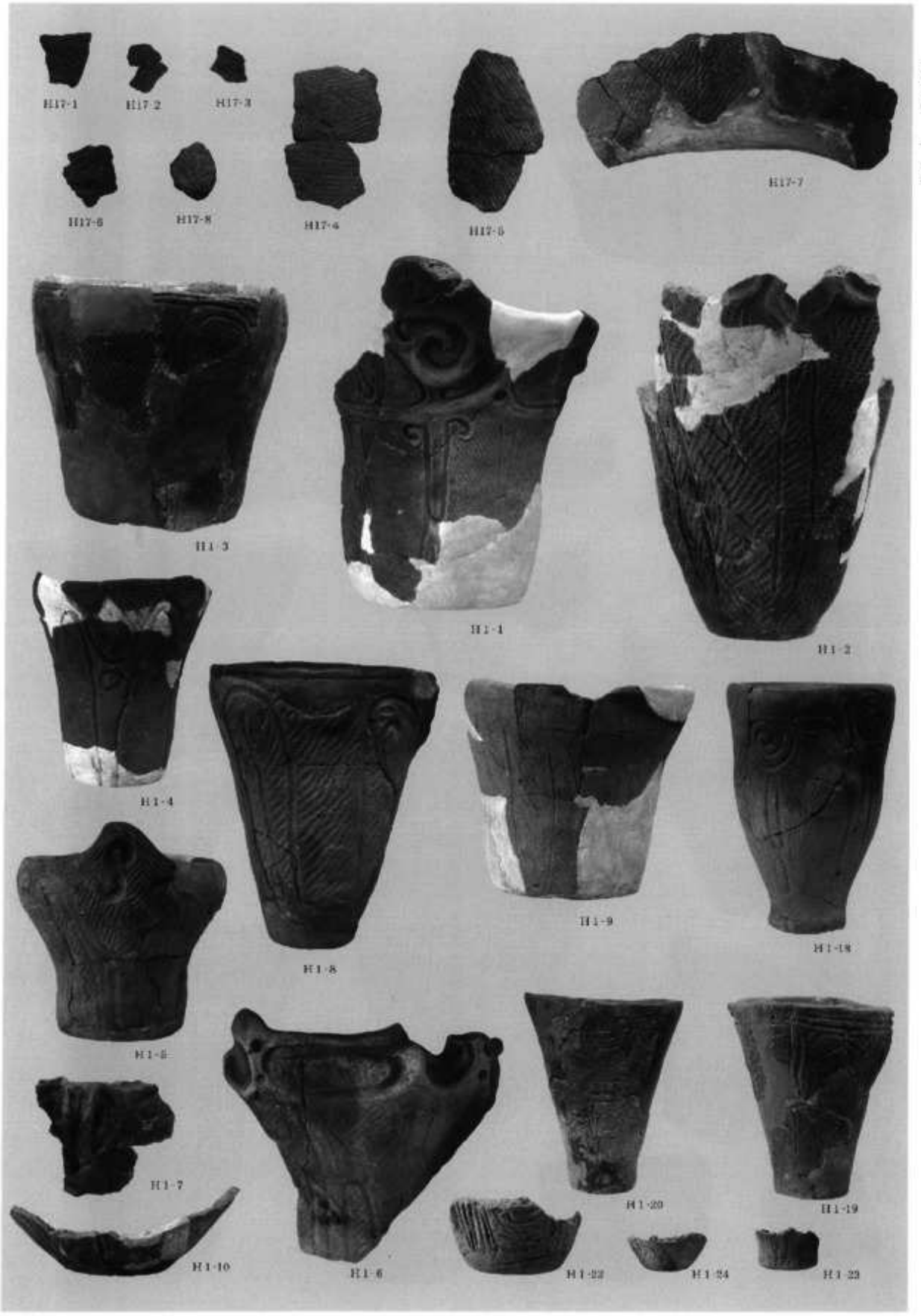


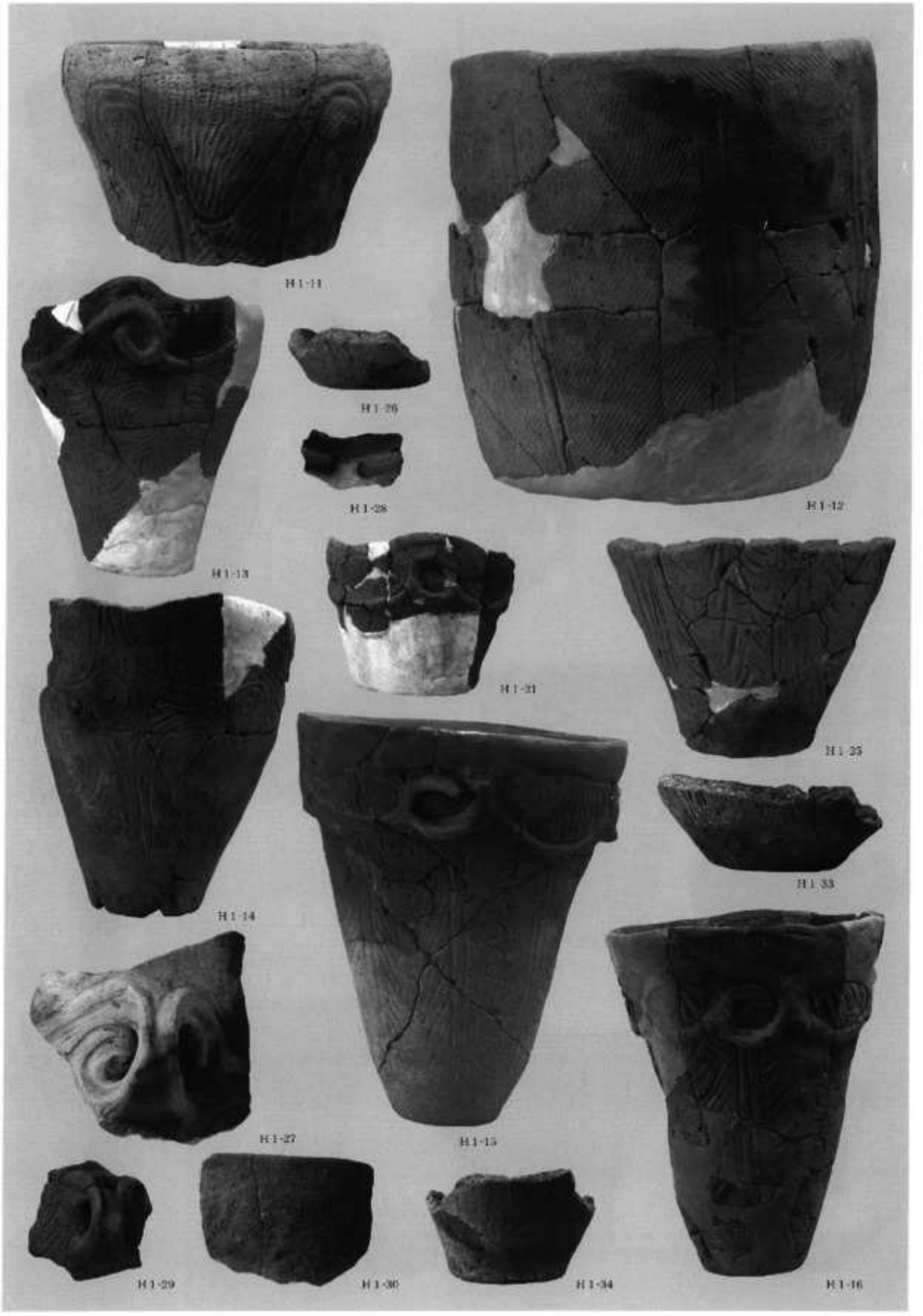
D49号土坑

D48号土坑

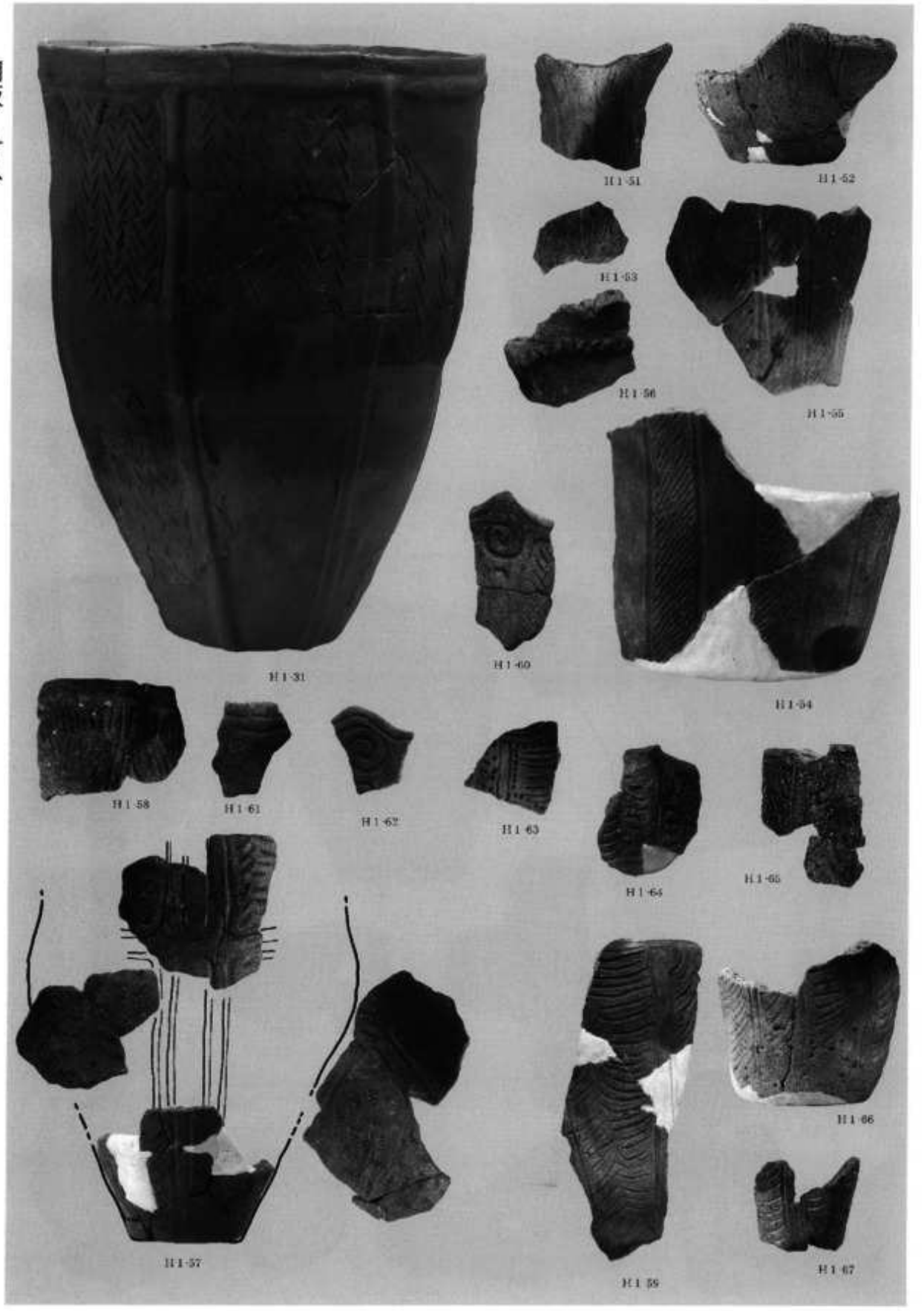
H２号住居址調査風景

反田遺跡調査区遠景（東より、矢印部分が調査地点）


H17-1
H17-2
H17-3
H17-6
H17-8
H17-4
H17-5
H17-7
H1-3
H1-1
H1-2
H1-4
H1-8
H1-9
H1-18
H1-5
H1-7
H1-10
H1-6
H1-20
H1-19
H1-22
H1-24
H1-23

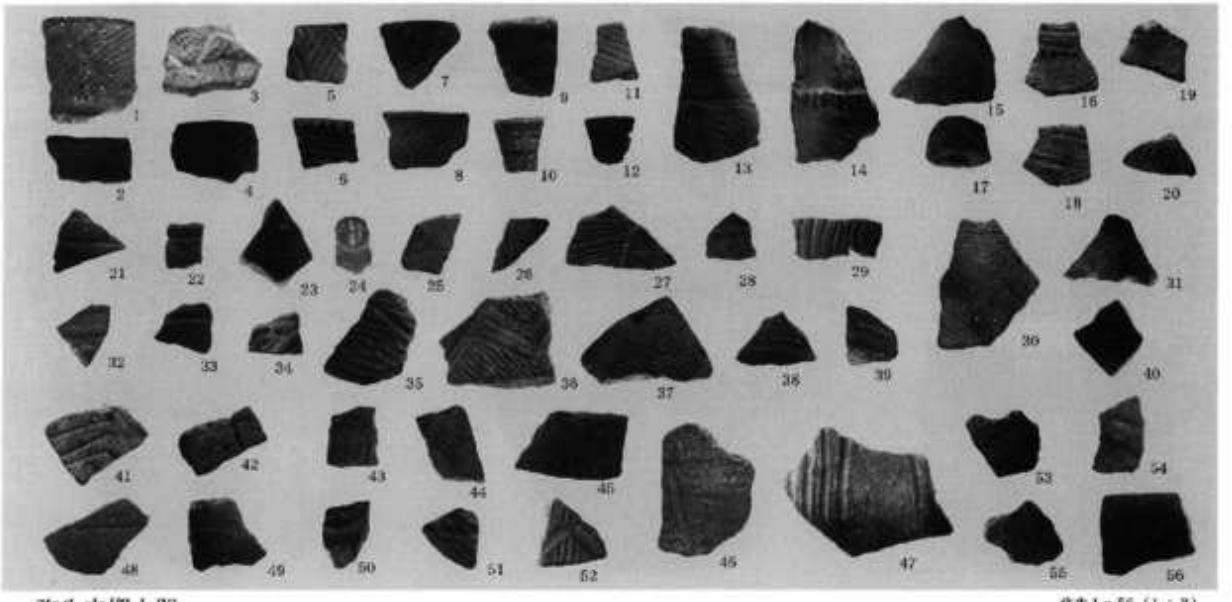

H1-11
H1-26
H1-28
H1-12
H1-13
H1-21
H1-25
H1-14
H1-33
H1-27
H1-15
H1-29
H1-30
H1-34
H1-16

H1-37
H1-41
H1-43
H1-38
H1-47
H1-17
H1-32
H1-42
H1-36
H1-35
H1-40
H1-44
H1-45
H1-48
H1-39
H1-46
H1-49
H1-50


H1-31
H1-51
H1-52
H1-53
H1-56
H1-55
H1-60
H1-54
H1-58
H1-61
H1-62
H1-63
H1-64
H1-65
H1-57
H1-59
H1-66
H1-67

H1-68 H1-69 H1-70 H1-71 H1-72 H1-73 H1-74 H1-75 H1-76 H1-77 H1-78 H1-79 H1-80 H1-81 H1-82 H1-83 H1-84 H1-85 H1-86 H1-87

H1-68~87 (1：4)



弥生中期土器

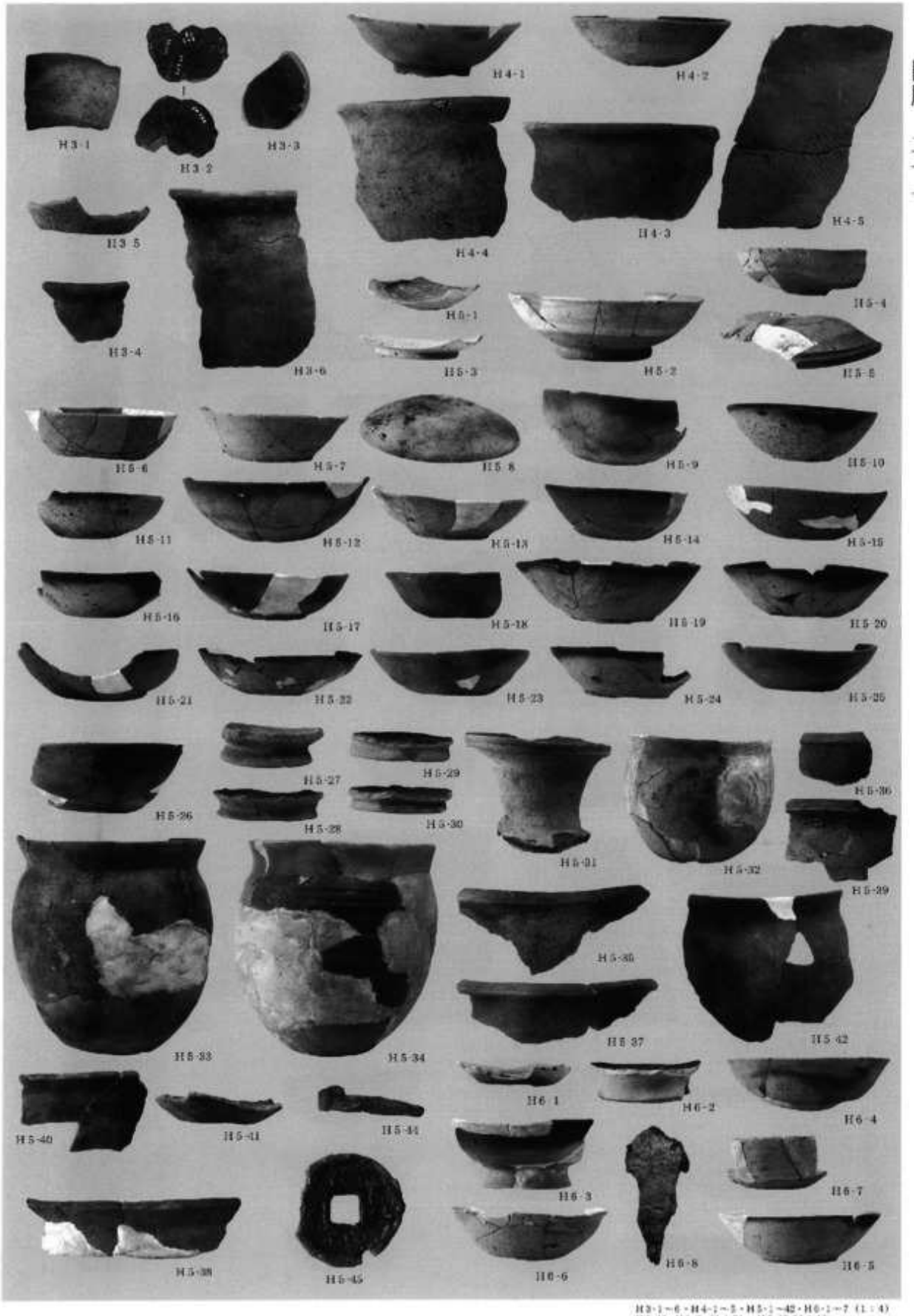
弥生1~56 (1：3)

弥生中期土器

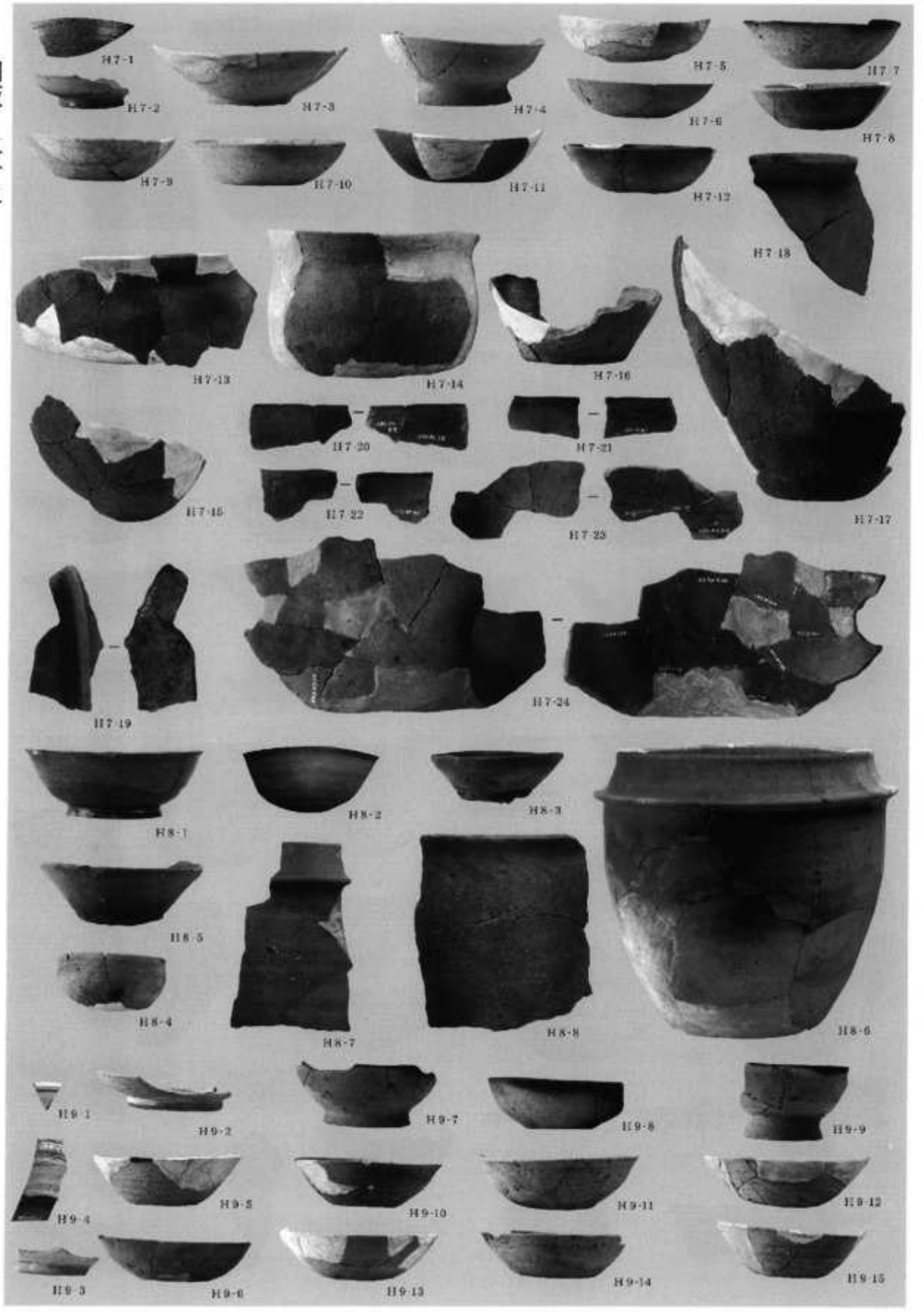
弥生57～117（1：3）

H2-1 H2-2 H2-3 H2-4 H2-5 H2-6 H2-7 H2-8 H2-9 H2-10 H2-11 H2-12 H2-13 H2-14 H2-15

H2-1～15（1：4）

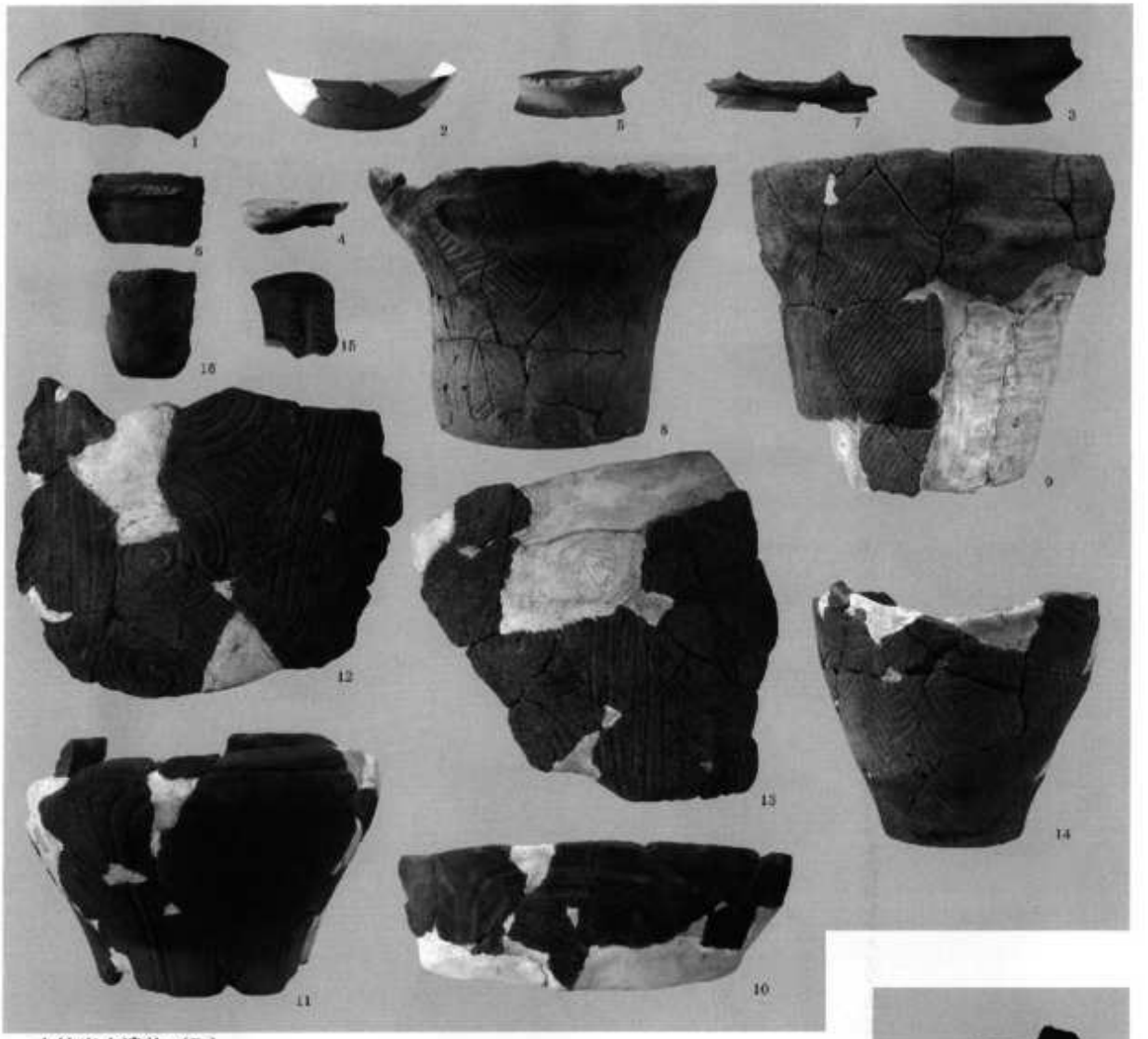


H3-1～6・H4-1～5・H5-1～42・H6-1～7 (1：4)
H5-44・H6-8 (1：2)　H5-45 (1：1)

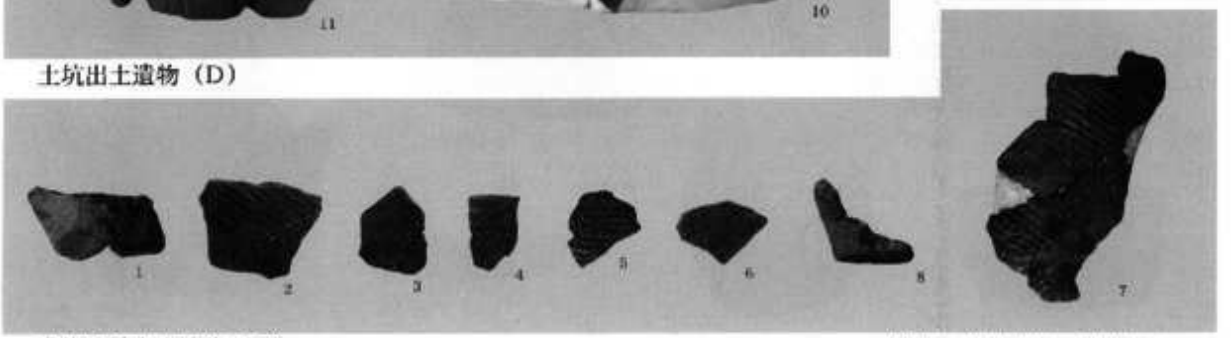


H7-1～24・H8-1～8・H9-1～15 (1:1)

H9-16～27・H10-1～4・H11-1～5・H12-1～10・H13-1～18 (1:4)
H9-30・H12-12 (1:2)

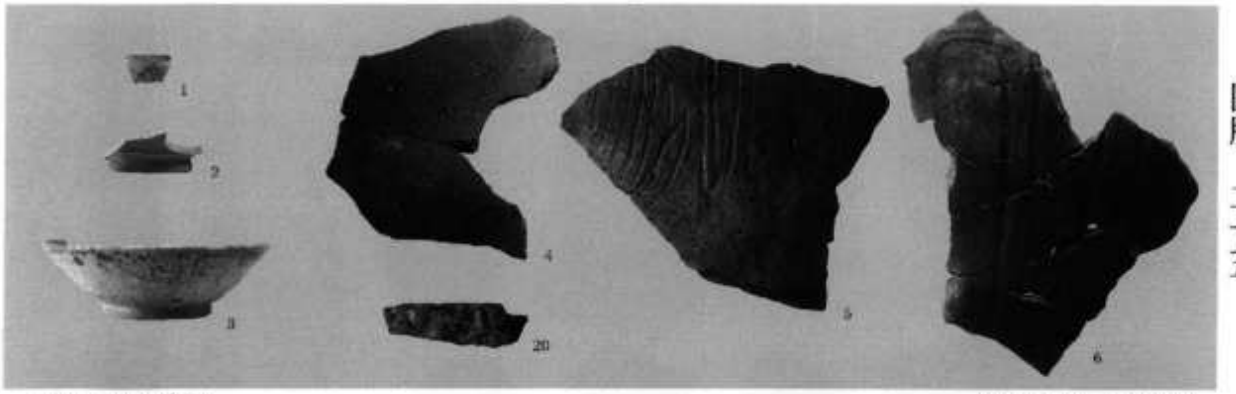


土坑出土遺物（D）



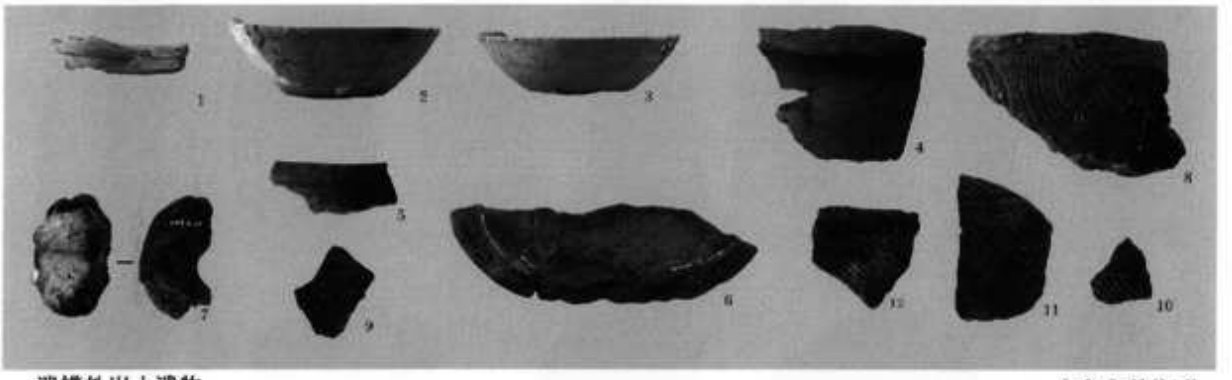
溝状遺構出土遺物（M）

H14-1～6・H15-1・H16-1～5・H18-1～2
D 1～16
M 1～8
（1：4）



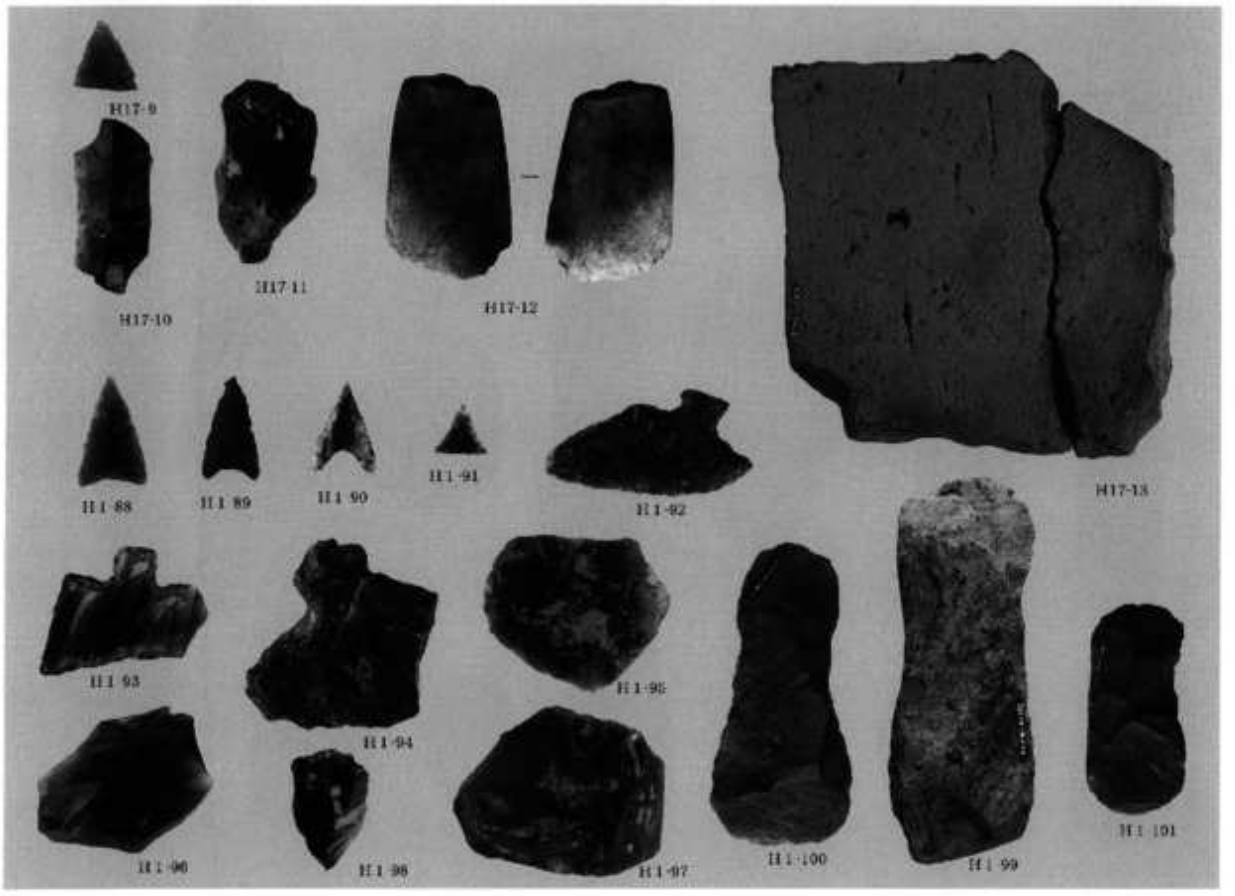
ピット出土遺物

P01～6（1：4）　P020（1：2）

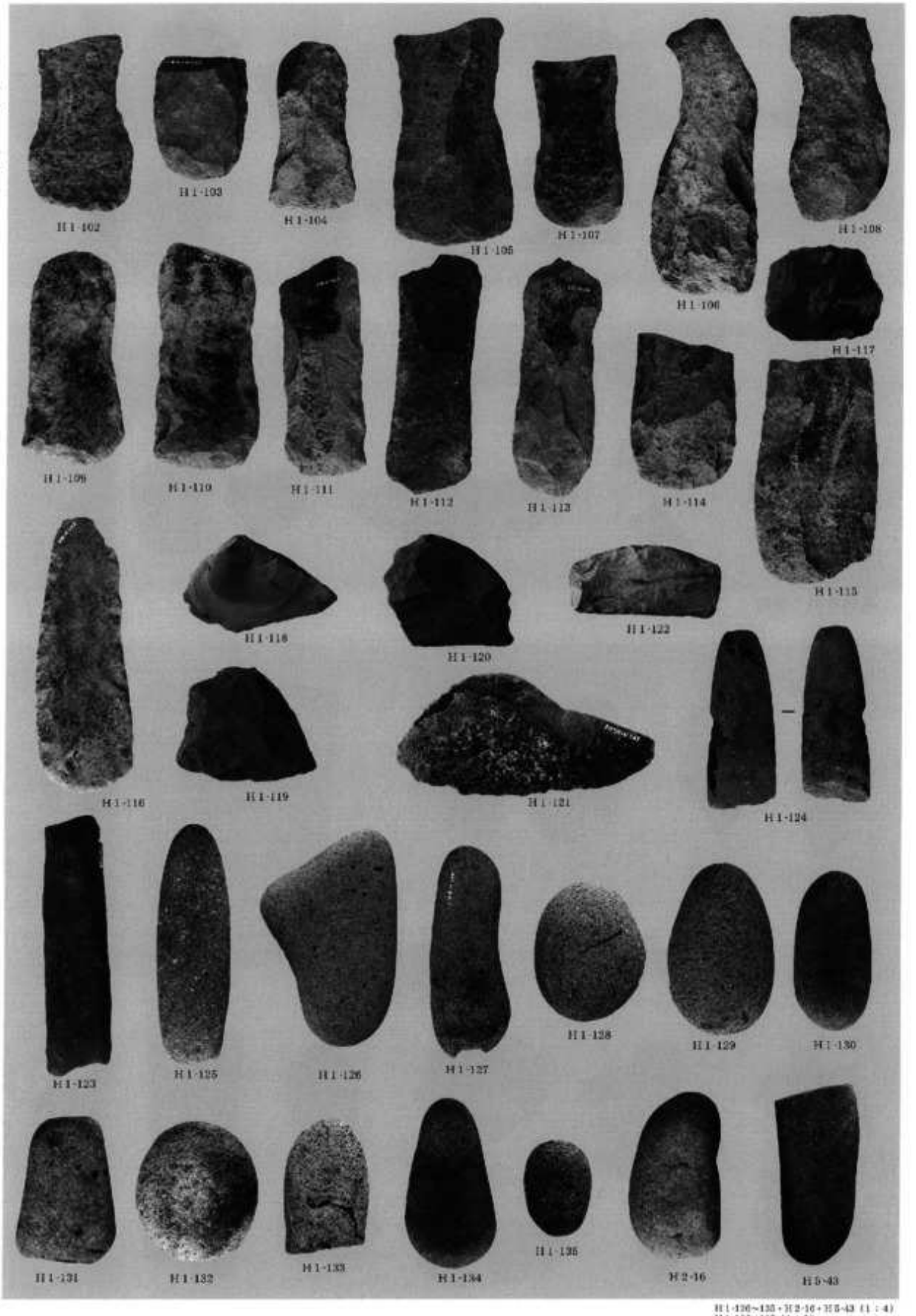


遺構外出土遺物

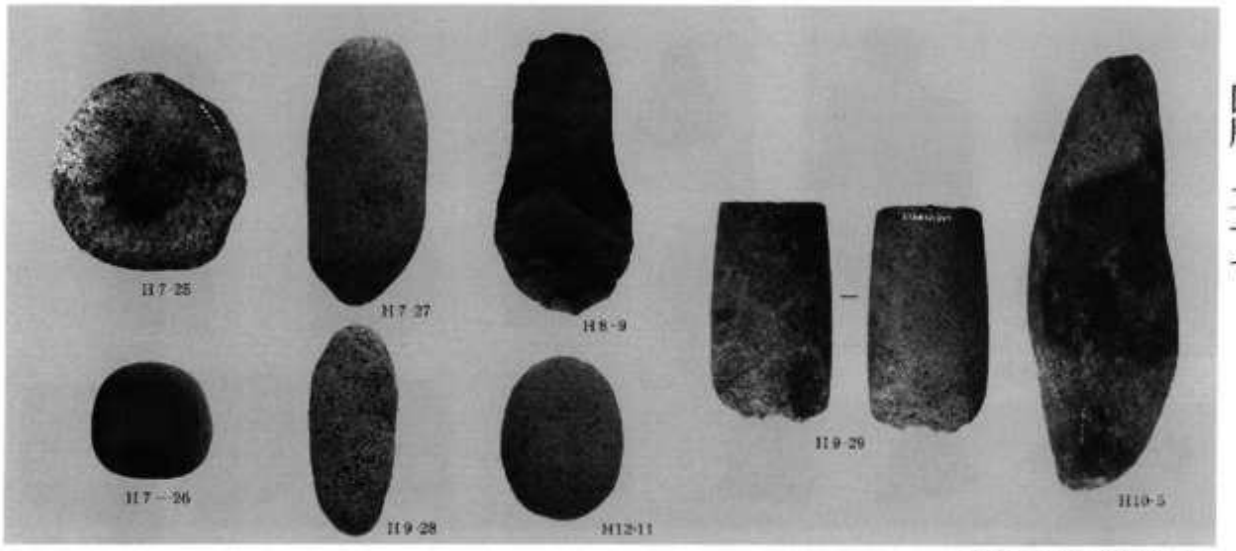
1～6・8～12（1：4）
遺構外　7（1：3）



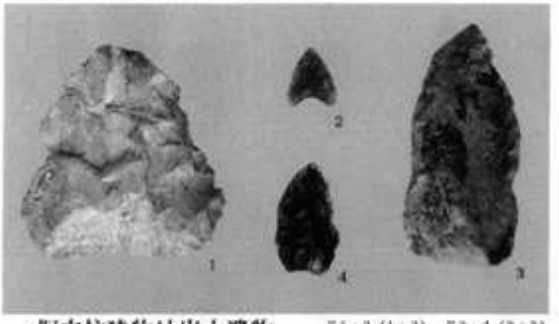
H17-13（1：4）　H1-90～101（1：3）
H17-9～11・H1-88～89（2：3）H17-12（1：2）



H1-126~130・H2-16・H5-43 (1：4)
H1-102~125 (1：3)

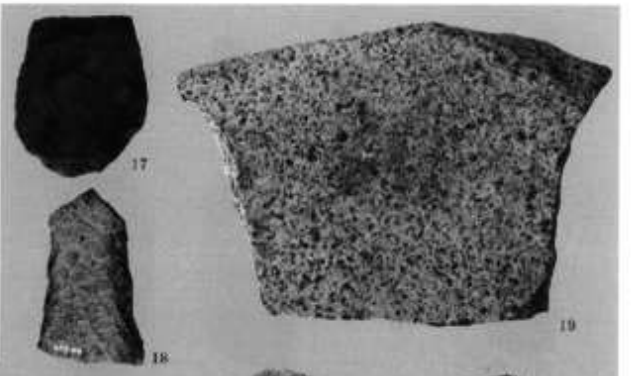


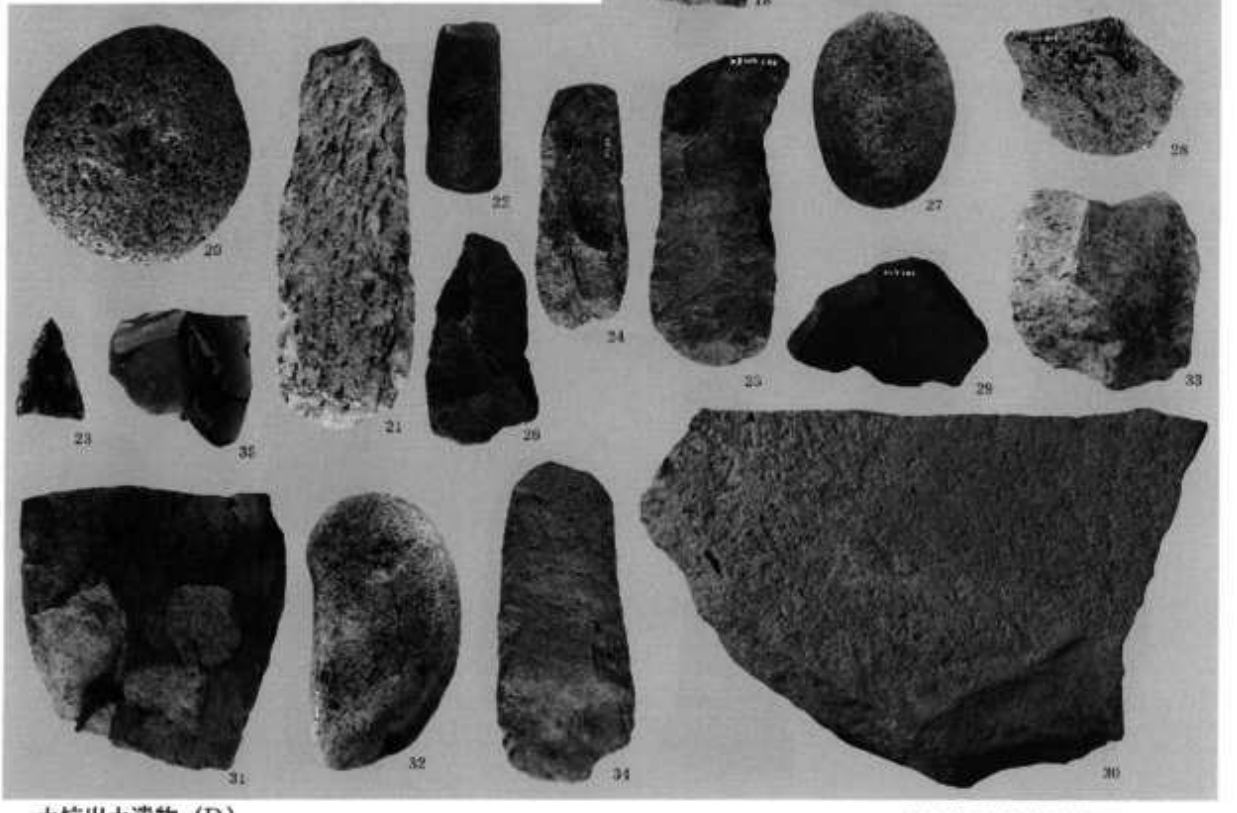
H7-25~27・H10-5・H12-11 (1：4)
H8-9・H9-28・29 (1：2)



掘立柱建物址出土遺物

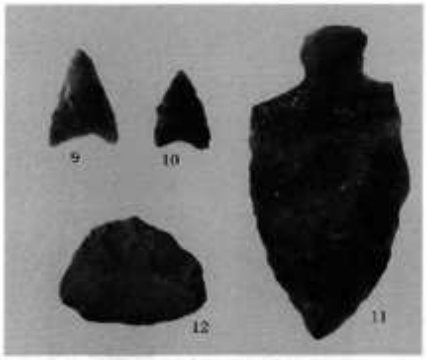
F1・3 (1：3)　F2・4 (2：3)



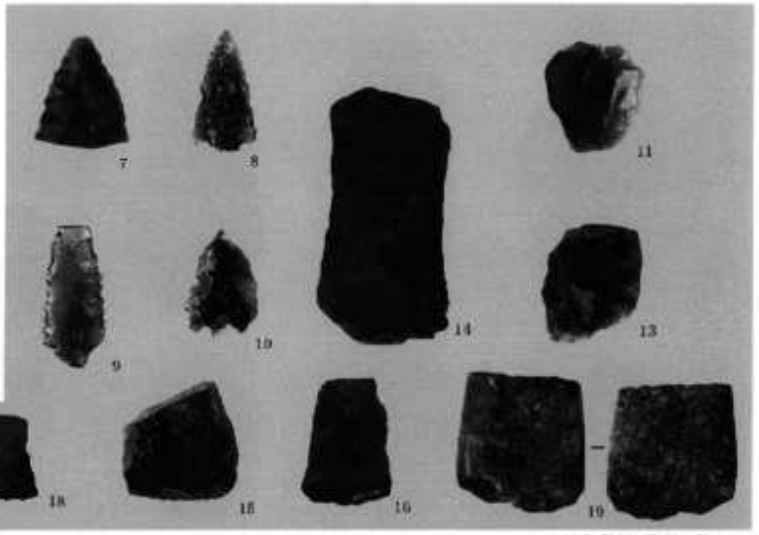


土坑出土遺物（D）

D19・20・22・27・30~32 (1：4)
D17・18・21・24~25・28・29・33・36 (1：3)
D35・23 (2：3)

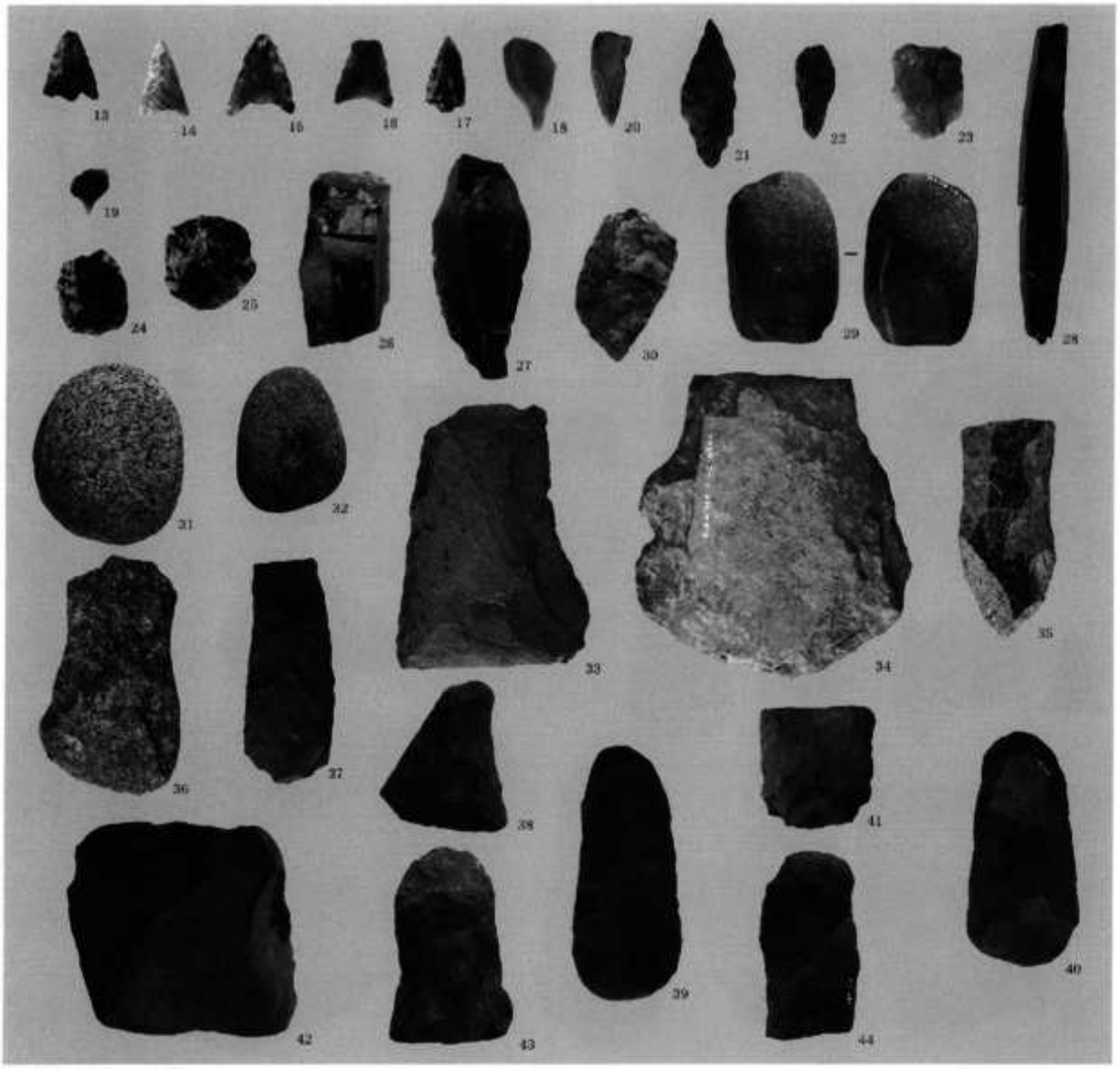


溝状遺構出土遺物（M）



ピット出土遺物（Pit）

M12・Pit14～19（1：3）
M9～11・Pit7～13（2：3）



遺構外出土遺物

31・32（1：4）
29・30・33～44（1：3）
13～28（2：3）

第51図　試掘調査全体図（1：800）

報告書抄録

書名	反田遺跡
ふりがな	そりだいせき
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第149集
編者者名	冨沢一明
編集・発行機関	佐久市教育員会
発行年月日	2008. 03. 21
郵便番号	385 0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	小山崎遺跡群　反田遺跡（ＳＫＳ）
遺跡所在地	佐久市下小田切
遺跡番号	609
経度	138°-27′-34″（日本測地）
緯度	36°-13′-3″（日本測地）
調査期間	2006.07.03～2006.08.25　（現場作業） 2007.04.02～2008.03.21　（整理作業）
調査面積	1765㎡
調査原因	特別養護老人ホーム建設
種別	集落址
主な時代	縄文時代、弥生時代、平安時代
遺跡概要	遺構　※穴住居址19軒（縄文2.平安17）　掘立柱建物址4棟　土坑50基 溝状遺構2本　ピット576個 遺物　縄文土器（加曽利E Ⅲ.曽利.佐久系）　弥生土器（中期中葉 堤隆平行） 土師器　須恵器　鉄製品　灰釉陶器　緑釉陶器　白磁碗　竈形土器　甲斐型土器
特記事項	佐久市小田切地域では初の本格的な発掘調査となる。弥生中期中葉に比定される土器群の発見や、東信地域では初めてとなる竈形土器などが出土した。また、平安期住居址からは甲斐型土器と考えられる土器群が出土し、遺跡の立地からも信州佐久と山梨間の交流を考える上で新資料となった。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第149集

反田遺跡

2008年3月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385-8501　長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006　長野県佐久市志賀5953

TEL　0267-68 7321

印刷所　キクハラインク㈱